

現代的課題の学習に関する調査研究

子どもの豊かな人間性を育む ための活動に関する調査報告書

県民調査：地域と学校を結ぶ住民の地域活動について

教員調査：地域の力を教育に活かすために



青森県総合社会教育センター

平成15年3月

はじめに

平成14年4月から完全学校週5日制が実施されております。学校週5日制の目的は、ゆとりの中で、子どもたちに「生きる力」を育み、健やかな成長を促そうとするものです。この目的の達成には、学校、家庭、地域社会の連携・協力が必要であることは明らかであり、子どもたちの「生きる力」を育む環境は、学校はもとより身近な人間共同体である地域社会にこそ求められるものと考えられます。

しかしながら、子どもたちを取り巻く社会環境は、職住分離により個人と地域との関わりが薄らぐ中で、人間関係の希薄化が進んでいるのが現状です。地域の連帯感が失われ、住民個人が地域や社会のために活動することができにくい状況であることも指摘されております。

そこで、本年度は地域社会と学校が連携・協力を図りながら、子どもたちの豊かな人間性を育む環境づくりを進めることに関して、県民と教員を対象にアンケート調査を実施させていただきました。

本報告書は、「現代的課題の学習に関する調査研究 - 子ども豊かな人間性を育むための活動について -」の調査結果をまとめたものであります。県民調査からは、子どもを育成する地域活動へ過半数の人が参加を希望している結果が得られております。教員調査からは、地域社会の教育力の活用を望む教員が多いという結果が得られております。本調査で見えてきた県民や教員の意識は、その一部に限られますが、新たな知見も数多くあります。そのような意味で、本調査報告書が、今後の地域と学校を結ぶ住民の地域活動の推進にお役に立てれば幸いです。さらに、この報告書が、地域活動の活性化についての先駆的な学習プログラム開発の基礎資料としては勿論のこと、多方面で活用されることを心より祈念してやみません。

最後になりましたが、御協力をいただきました県民・教員及び関係機関の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成15年3月

青森県総合社会教育センター
所長 豊澤武輝

目 次

はじめに

第1章 調査の概要

1 実施計画	3
(1) 名称	
(2) 調査の必要性と目的	
(3) 調査内容の構成	
(4) 本調査の活用	
2 調査の方法	5
(1) 調査対象者	
(2) 調査実施期間	
(3) 調査方法	
3 回収結果	5
4 補足説明	6

第2章 調査結果の概要

第3章 県民調査の結果

1 回答者の属性	15
2 自由な時間の過ごし方について	17
3 今の大人や子どもについて	20
4 居住する地域のことについて	24
5 子どもの豊かな人間性を育むための活動について	28

第4章 教員調査の結果

1 回答者の属性	35
2 学校や地域社会の役割について	37
3 地域社会との連携・協力について	38

第5章 分析と考察

1 県民調査の結果から	49
2 教員調査の結果から	53
3 2つの調査の比較から	55

あとがきに代えて(委員会より)

委員会座長 野口 伐名

資料編

クロス集計結果	
集計データ	
県民調査の調査票	
教員調査の調査票	
委員名簿、委員会日程	

第1章 調査の概要

1 実施計画

(1) 名称

現代的課題の学習に関する調査研究

- 子どもの豊かな人間性を育むための活動に関する調査 -

(2) 調査の必要性と目的

(必要性)

()子どもの豊かな人間性の育成と地域活動

平成11年6月生涯学習審議会の答申では、『子どもたちの心の成長には、地域での豊かな体験が不可欠』とされている。現在、学校週5日制の完全実施により、子どもが家庭や地域社会で過ごす時間が増え、これまで以上に、家庭や地域社会における「子どもの豊かな心を育む学習活動」への取り組みに対する要望が高まっている。

地域社会には、職業や経験を通して培った高い資質や能力を持つ様々な人々が生活しており、子どもが学校や家庭の中だけでは体験することのできない、豊かな活動や体験を提供できる可能性を秘めている。しかしながら、地域社会における都市化や過疎化の進行、人間性の希薄化などにより、「子どもを地域ぐるみで育てていく」という地域社会の教育力が低下しているのが現実であり、地域社会の活動に参加しているのは一部の大人に限られるという問題点も指摘されている。

これらの要望や問題点を克服するために、地域社会における教育力向上に向けて、PTAや子ども会・ボランティア活動などに積極的に関わろうとしなかった保護者・子育てを終えた人々・子どもの活動に直接的には関わりがないと思われていた社会人・学生など地域社会の人々が、気軽に参加してみようと思える地域活動が求められるところである。

()地域活動と学社融合

他方、学校では新学習指導要領が始まり、ゆとりの中で、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性などの「生きる力」の育成が重視されている。しかしながら、「基礎学力が低下する」「地域の受け皿が十分ではない上、今の経済情勢下で家庭も余裕がない」などが指摘され、人々の不安感は拭えない状況である。教育は学校教育のみで完結するものではなく、生涯を通じて、いつでも、どこでも主体的に学び続ける生涯学習の考え方が重要になる。なぜなら、子どもの豊かな人間性や生きる力を育むためには、広く学校、家庭、地域社会における生涯学習の推進とそれら三者の連携・協働による「学社融合」への取り組みが必要となり、生涯学習を通じて学んだ地域住民の教育力が発揮されることで、学校をとりまく地域全体が活性化し(まちづくりに)発展していくものと思われるからである。

今後は、地域活動による地域の活性化と地域社会における教育力の向上及び学校教育の一層の充実に向けて、地域の人々が生涯学習の視点に立った学習プログラムの企画や事前・事後指導なども含めて、日常的に教育活動に参画していこうとする学社融合による地域活動の活性化が求められるところである。

そこで、本県の特徴を生かした地域活動と学社融合の関わりについて、県民の意識や実態を明らかにする調査を行う必要がある。

(目的)

以上のことを踏まえて、地域活動の活性化による「子どもの豊かな人間性をはぐくむ学習活動」を推進するため、学社融合による教育活動の促進にあたって、県民の意識と教員の意識の実態を調査し、先駆的な学習プログラムを開発する際の基礎資料として提供するものである。

(3) 調査内容の構成

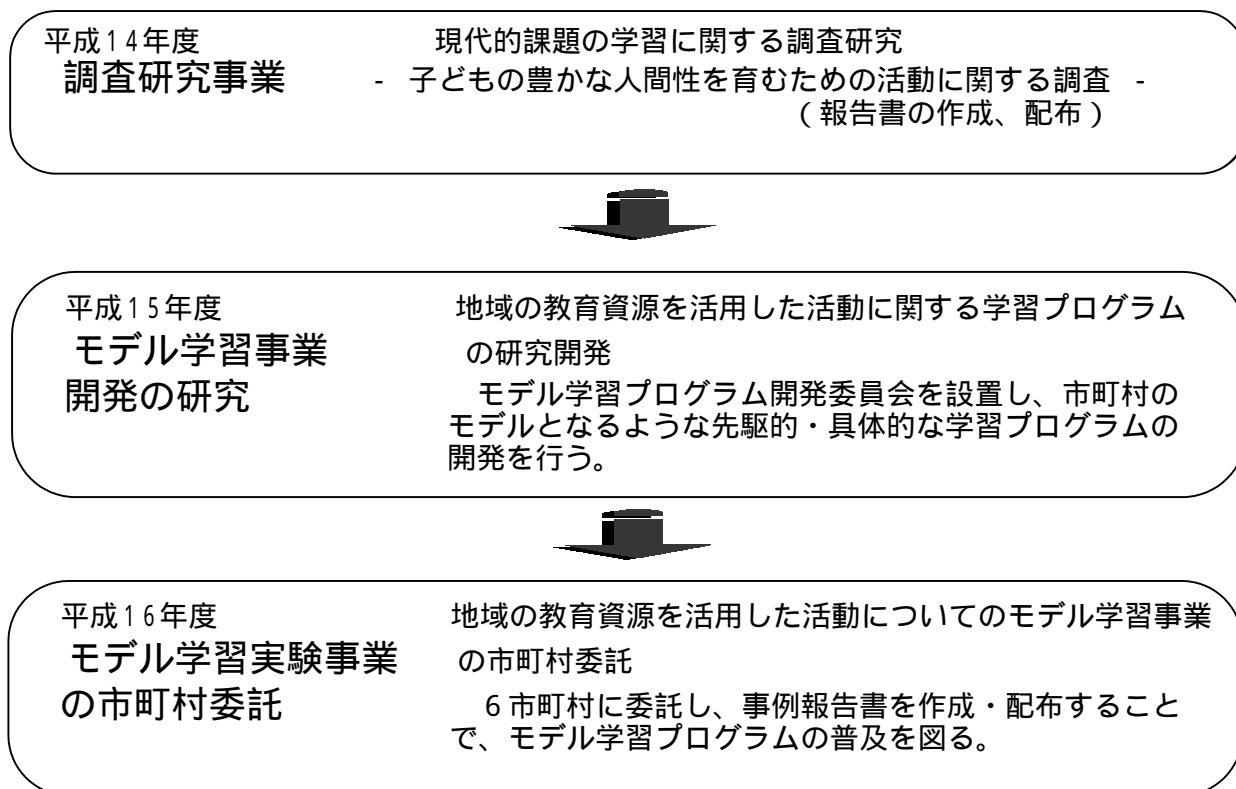
- 県民調査
- ・回答者の属性
 - ・自由な時間の過ごし方について
 - ・今の大人や子どもについて
 - ・居住する地域のことについて
 - ・子どもの豊かな人間性を育むための活動について
- 教員調査
- ・回答者の属性
 - ・学校や地域社会の役割について
 - ・地域社会との連携・協力について

(4) 本調査の活用

調査研究終了時に調査報告書を作成し、関係各機関に送付することによって活用を図る。

次年度以降、本調査結果を基に「モデル学習事業開発」として、学習プログラムのモデルを研究開発し、実験事業として市町村に事業の委託をする。

【下図参照】



2 調査の方法

(1) 調査対象者

- () 県民調査：県内に在住する20歳以上の男女3,000人
- () 教員調査：県内の公立学校教員（教諭、養護教諭）1,000人

(2) 調査実施期間

- () 県民調査：平成14年 9月20日 ~ 10月 4日
- () 教員調査：平成14年12月16日 ~ 12月27日

(3) 調査方法

- () 県民調査
郵送調査法
標本抽出法（層化2段無作為抽出法）
県内6地区（教育事務所管内）から25の市町村を抽出（1段）
人口比に応じて配分した人数を、選挙人名簿より無作為抽出（2段）
- () 教員調査
郵送調査法
標本抽出法
青森県教育関係職員録2002年度（青森県学校生活協同組合編）より
無作為抽出

3 回収結果

() 県民調査

郵送数	3,000人
回収数	959人
回収率	32.0%
有効回答数	955人
有効回答率	31.8%

() 教員調査

郵送数	1,000人
回収数	482人
回収率	48.2%
有効回答数	479人
有効回答率	47.9%

4 補足説明

【参考1】

選挙人名簿から無作為抽出した根拠(公職選挙法から)

(通報及び閲覧等)

第二十九条 市町村長及び市町村の選挙管理委員会は、選挙人の住所の有無その他選挙資格の確認に関し、その有している資料について相互に通報しなければならない。

2 市町村の選挙管理委員会は、選挙の期日の公示又は告示の日から選挙の期日後五日に当たる日までの間を除き、選挙人名簿の抄本を閲覧に供し、その他適当な便宜を供与しなければならない。

【参考2】

地域活動の定義

「(個人または団体として)地域の住民が、学校を含む居住地域の中で、地域の状況に応じて取り組む自主的な学習活動や社会参加活動」

社会教育の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について
(平成10年9月生涯学習審議会)

【参考3】

この報告書を読むにあたっての留意点

- 1 グラフにおける「n」は、その設問に対する有効回答数である。
- 2 各回答の比率は、ほとんどの場合小数第2位を四捨五入しているため、単数回答であっても、合計が100%にならないことがある。
また、グラフによっては小数第1位を四捨五入し整数値で表示しているが、その場合は各項の説明を参照のこと。

第2章 調査結果の概要

県民調査の概要

1 回答者の属性 県民調査

県内の20歳以上の男女3,000人に調査票を送付し、959人から回答を得ており、回収率は32.0%である。回答者の性別は、男42.4%、女性57.6%であるが、本県の人口構成(調査時は男性47.6%、女性52.4%)から見ると、女性の回答率がやや高い。

三市、五市、町村部からの回収率は、それぞれ47.1%、18.3%、34.6%であり、これは、調査時の人口構成(48.8%、16.6%、34.6%)にほぼ一致する。(P15)

2 自由な時間の過ごし方について(問10~12)

県民の68.8%が、この頃「忙しい」と感じることもある。(P17)

自由な時間があるのは[土曜・日曜日で仕事が休みの時]が34.4%で最も多い。(P17)

自由な時間にするのは、『日頃の仕事に関係したことや家事・買い物』87%、
『家族団らんや友人と過ごす』78%の順で高くなっている。

一方、『音楽会・展覧会・講演会など催し物へ参加』『町内会・子ども会など地域の団体活動へ参加』のような学習活動や社会参加活動に関する項目では、年代が上がるにつれ参加率が増す傾向がある。(P18)

3 今の大人や子どもについて(問13~15)

今の子どもに対して、厳しい見方をしている大人が多い。

大人から見た「今の大人」「今の子ども」の印象は、『欲望を抑え我慢する気持ち』などほとんどの項目で、今の子どもは[足りない]と感じる割合が高い。(P20)

子どもの徳性を育てるのは[学校と地域社会の両方の役割]が高い割合を占める。

『思いやりの気持ちを育む』は[両方の役割]を選んだ人が69%おり、ほとんどの項目で、子どもを指導するのは[両方の役割]とする人が、[おもに学校の役割][おもに地域社会の役割]を選んだ人よりも多い。(P21)

子どもの行動・行為について[好ましくない]のは、『小・中学生が、コンビニに出入りし長い時間を過ごす』が76%、『中・高校生が、地面や電車の床に座り込んで話す』が93%である。

『小・中学生が塾に通う』『中・高校生がアルバイトをする』については、[悪いことではない]がそれぞれ49%、51%でほぼ半数の人に認知されている。(P22)

4 居住する地域のことについて(問16～18)

住んでいる地域への関心は [関心がある・やや関心がある] が63%～85%である。
(P24)

地域の人々との交流や付き合いは、 [ある・時にはある] が73.6%で、4人に3人の割合である。(P24)

住民の9割(90.1%)は、何らかの地域活動に参加したことがある。

地域活動への参加は、『地域の清掃やリサイクル活動』が64%、『祝いごとや不幸の手伝い』が63%、『学校の活動へ協力・手伝い』が59%であり、年代・居住地域や居住年数により違いが見られる。(P25)(P49)

地域活動へ参加しない理由は、『忙しくて時間がない』が39.9%で最多であるが、『あまり興味・関心がない』33.9%、『人間関係がわずらわしい』16.0%であり注目される。

年代により、参加しない理由に違いが見られる。20代では[あまり興味・関心がない]を理由にあげる人が多いが、年代が上がると[地域の情報等がない]が多い。(P27)

5 子どもの豊かな人間性を育むための活動について(問19～21)

子どもを育成する地域活動に、過半数の人が参加を希望している。(P28)

学校等の教育活動に、過半数の人が協力意識を持っている。

『働く体験や奉仕体験の世話活動』に[進んで参加したい・できる範囲で参加したい]が73%、『学校行事や校外活動への協力』に[進んで協力したい・できる範囲で協力したい]が71%であり、どの項目でも半数以上の人々が教育活動への支援を希望している。(P29)

学習活動等によく参加する人ほど、地域活動や学校への協力に対する意識が高い。

『図書館や公民館などの文化的施設を利用することや、『町内会・子ども会・老人会など地域の団体活動へ参加することなど、学習活動や社会参加活動への参加状況と、子どもの豊かな人間性を育むための活動に対する意識をクロス集計したところ、学習活動等への参加が多い人ほど、「進んで協力したい」という回答が多く、子どもの教育活動に積極的に参画する意欲が高い傾向が見られる。(P52)

地域活動や学校等の教育活動に関して、男性の参加・協力意識は高い傾向にある。

参加・協力意識に関する設問10項目のうち9項目で、[進んで参加したい・できる範囲で参加したい]を選んだ男性の割合が女性を上回っている。(P51)

隣近所や地域の人々との交流がある人ほど、参加・協力意識が高い。(P51)

地域と学校の協りに重要なことは、『地域と学校が協力への理解を深める』が45.3%、『活動の情報を提供する』が35.9%で、他の項目を引き離している。

年代により、重要と思う項目に差が見られる。30代以上では『地域と学校が協力への理解を深める』が第1位であるが、20代では『活動の情報を提供する』『地域の人材情報を集める』を選ぶ割合が高い。今の若い世代は、具体的な情報を望んでいることが伺える。(P30)

教員調査の概要

1 回答者の属性 教員調査

県内の公立学校教員(教諭、養護教諭)1,000人に調査票を送付し、482人から回答を得ており、回収率は48.2%である。送付内訳は、教員数(平成14年5月1日現在)に応じて、小学校444人、中学校258人、高等学校230人、盲・聾・養護学校68人とした。(P35)

2 学校や地域社会の役割について(問6)

子どもの徳性を育てるのは[学校と地域社会の両方の役割]が高い割合を占める。(P37)

これは県民調査と同じ結果が得られた。また、『社会のルール遵守を教える』など[両方の役割]とする上位3項目も、県民調査、教員調査で共通する結果である。

3 地域社会の教育力との連携・協力について(問7～14)

98.1%の教員が、学校が地域社会の教育力と連携・協力を進めることについて、[必要である・ある程度必要である]と答えている。(P38)

地域社会の教育力を活用した取り組みは、77.2%が[行ったことがある]を選んでおり、4人中3人の割合で活用していることがわかる。(P38)

活用した結果は、[活動が活性化した][負担は多いが成果もあった]など、肯定的に評価する項目が上位を占めている。(P38)(P53)

連携・協力について、職員間での共通理解の状況は半々である。(P39)

地域社会の教育力との連携・協力について、職員間で十分な共通理解がなされているかの設問では、[そう思う・ある程度そう思う]と[あまりそう思わない・そう思わない]を選んだ割合がほぼ半々である。

今後、連携・協力したい相手は校種により異なる。(P54)

教員が、学校の授業や教育活動に対して地域住民の協力を望む割合はかなり高い。(P40)

『体験活動・奉仕活動など学校外活動への協力』では、96%の教員が[積極的に協力を求めたい・できる範囲で協力を求めたい]となっており、その他の項目でも地域住民の協力を求める割合は高い。

積極的に協力を望む傾向は、どの項目でも若い教員によく見られる。(P54)

三市の教員(中学校・高等学校)は、五市・町村部の教員に比べて『地域や学校内の巡回への協力』を望む割合が高い。(P54)

学校と地域社会の協りに重要なことは、『学校と地域が協力への理解を深める』41.4%、『協力を進める担当者や組織をおく』40.8%で、は県民調査と一致している。(P41)

教員調査、県民調査とも、協りに重要なこととして第一にお互いの『協力への理解』をあげている。その上で、教員はさらに具体的に『協力を進める担当者や組織をおく』を望む割合が高い。

2つの調査の比較

地域住民と教員の協力意識について

「地域住民が学校へ協力する意識」「教員が地域住民へ協力を望む意識」は、ともに高くなっている。(P29)(P40)(P55)

『地域と学校が協力への理解を深める』は、「地域住民」「教員」どちらにも共通する最重要項目である。(P30)(P41)(P56)

第3章 県民調査の結果

回収結果

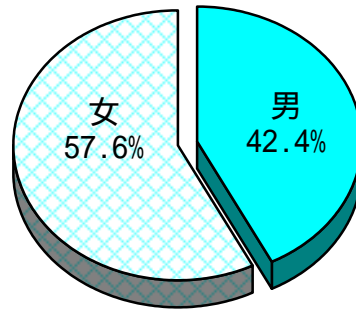
郵送数	3,000人
回収数	959人
回収率	32.0%
有効回答数	955人
有効回答率	31.8%

1 回答者の属性 県民調査

【性別】

性別	人数(人)	割合(%)
男	405	42.4
女	550	57.6
合計	955	100.0

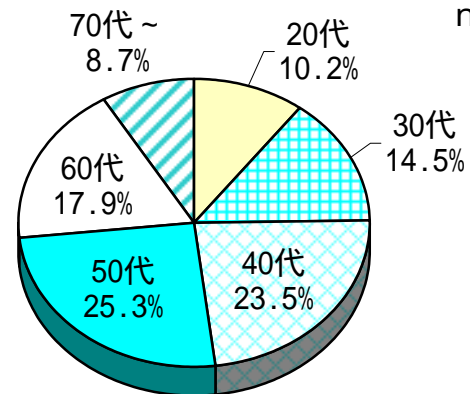
性別



【年齢】

年齢	人数(人)	割合(%)
20代	97	10.2
30代	138	14.5
40代	224	23.5
50代	242	25.3
60代	171	17.9
70代~	83	8.7
合計	955	100.0

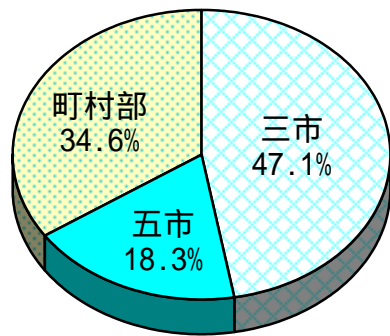
年齢



【居住市町村】

居住分類	居住市町村	回答数(人)
三市	青森市	185
	弘前市	109
	八戸市	144
五市	黒石市	32
	五所川原市	27
	十和田市	43
	三沢市	32
町村部	むつ市	36
	蟹田町	11
	蓬田村	6
	相馬村	9
	藤崎町	18
	大鰐町	30
	田舎館村	21
	深浦町	23
	稲垣村	10
	車力村	9
	金木町	44
	野辺地町	35
	六戸町	26
	川内町	14
	脇野沢村	12
	田子町	22
南部町	17	
倉石村	14	
合計		929

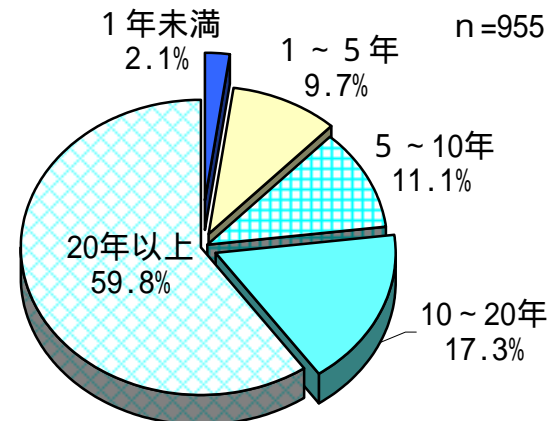
居住分類



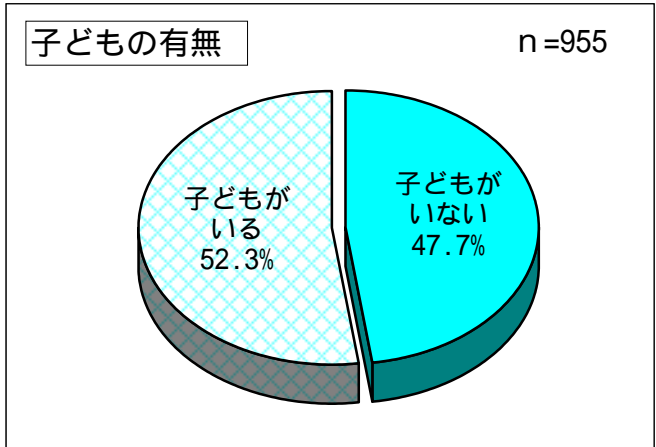
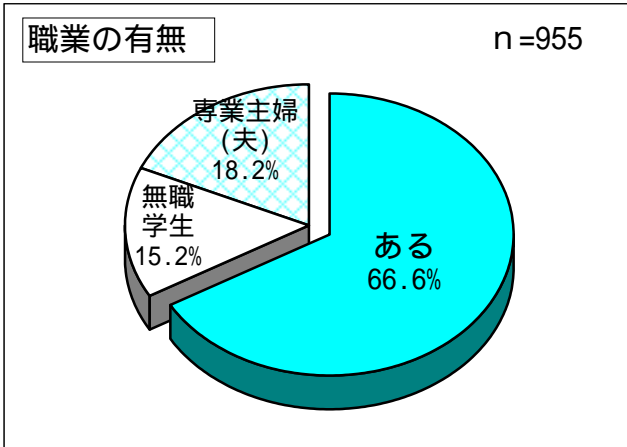
【居住年数】

年数	人数(人)	割合(%)
1年未満	20	2.1
1~5年未満	93	9.7
5~10年未満	106	11.1
10~20年未満	165	17.3
20年以上	571	59.8
合計	955	100.0

居住年数

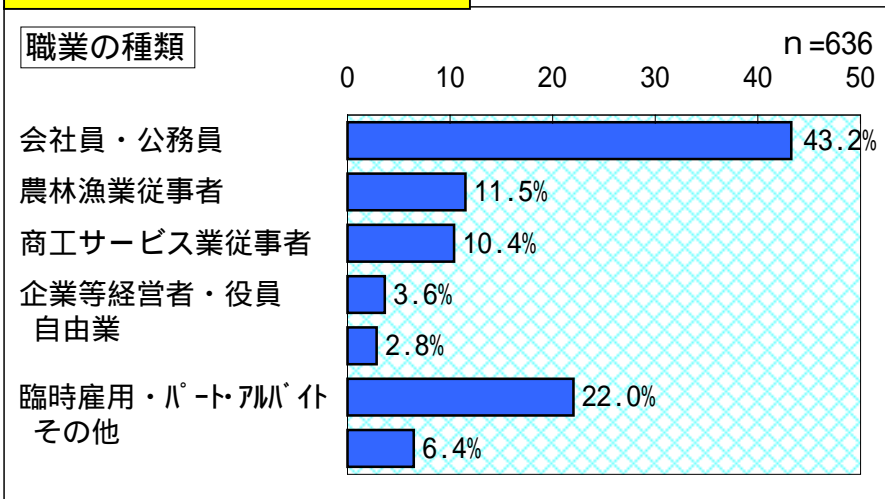


回答者の属性：子どもの有無、職業、土曜・日曜日の休みについて



(ここでは、同居している20歳以下の子どもをさす)

職業が[ある]と答えた人のみ

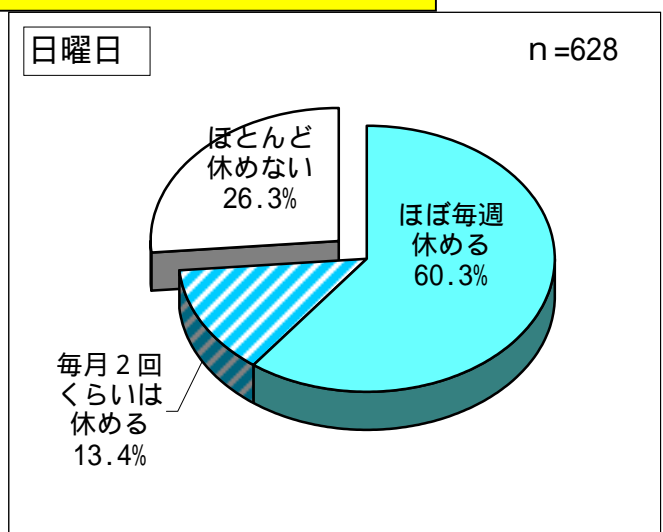
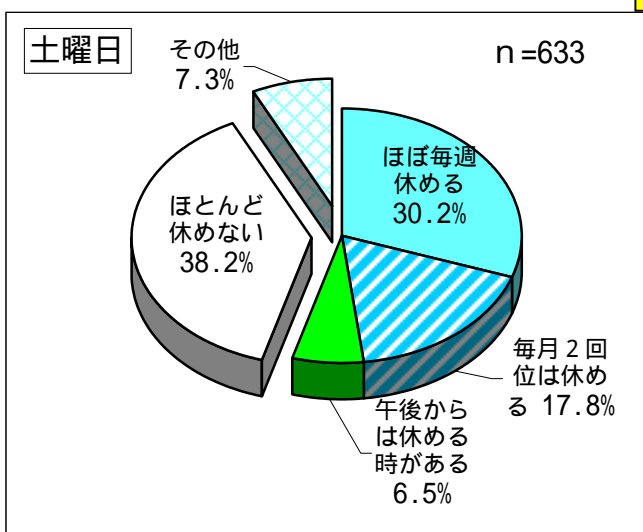


[農林漁業従事者]及び[商工サービス業従事者]は、
 自営者・家族従業者の場合をさす。



【土曜日、日曜日は仕事を休めますか】

職業が[ある]と答えた人のみ



(*各表のデータはP77参照)

2 自由な時間の過ごし方について

問10 あなたは、このごろ『忙しい』と感じることがありますか。（単数回答）

忙しさを感じる人は、

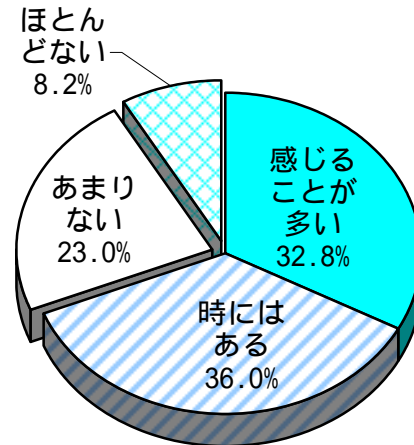
[感じるが多い]
[時にはある]

68.8%



忙しさの有無

n=949



忙しい主な理由は、

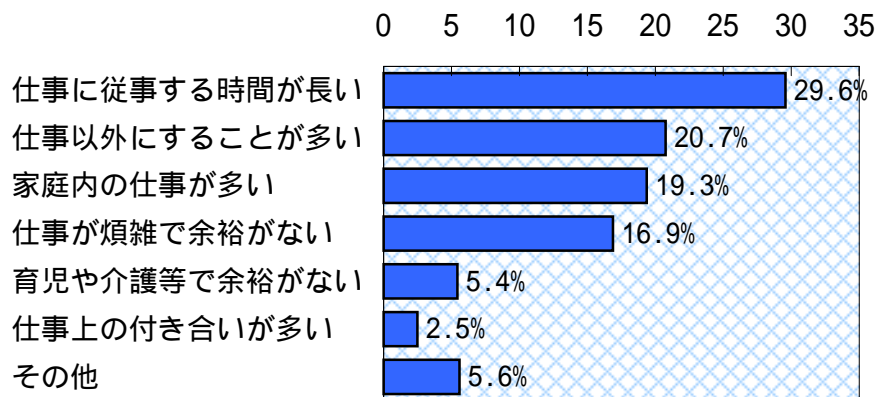
[仕事に従事する時間が長い]

29.6%

忙しいと感じることが[時にはある][感じるが多い]と答えた人のみ

忙しい主な理由（単数回答）

n=646



問11 あなたの自由な時間は、主にどのような時にありますか。（単数回答）

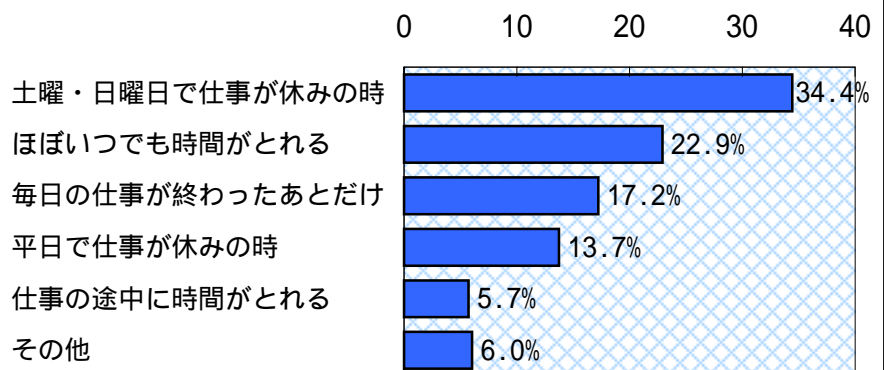
自由な時間は、

[土曜・日曜日で仕事が休みの時]

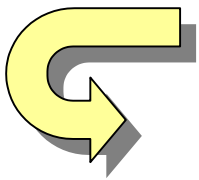
34.4%

自由な時間はいつあるか

n=947



(* 各表のデータはP77参照)



自由な時間にすることは、

『日頃の仕事関係や家事・買い物』 87%

『家族団らんや友人と過ごす』 78%

問12 あなたは、自由な時間があるときは、次のようなことをどの程度しますか。(単数回答)

	よくする	時にはする	あまりしない	ほとんどしない	%	n
日頃の仕事関係や家事・買い物	53%		34%	7	6	917
家族団らんや友人と過ごす	30	48	16	6		905
テレビ・ビデオ視聴やゲーム	25	38	17	20		909
朝遅くまで寝ていたり昼寝	24	38	16	22		912
家庭菜園やガーデニング	25	24	15	36		917
趣味・教養・スポーツ・習い事等	19	24	19	38		910
地域の活動があれば参加	14	28	21	37		905
地域の団体活動へ参加	10	20	18	52		909
映画・スポーツ観戦等の娯楽	9	26	18	47		905
図書館・公民館等の文化施設利用	8	19	25	48		906
音楽会・展覧会・講演会等催し物	7	28	21	44		906

グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (*データP77)



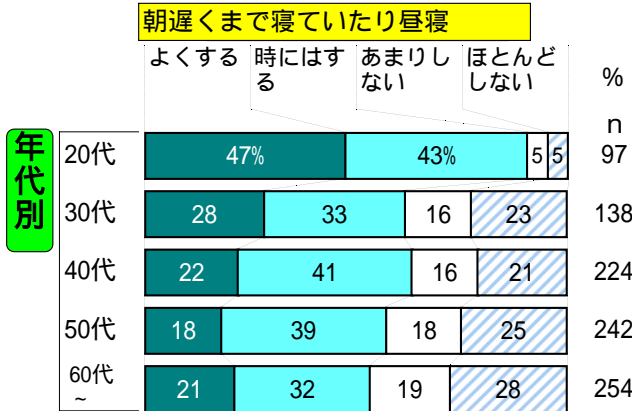
年代によって、自由な時間の過ごし方に違いが見られる。『テレビ・ビデオ視聴やゲーム』、『朝遅くまで寝ていたり昼寝』、『映画・スポーツ観戦等の娯楽』は20代が多く、年代が上がるにつれて減少する。

一方、『家庭菜園やガーデニング』、『音楽会・展覧会・講演会等の催し物』などは、年代が上がるにつれて高くなる傾向がある。(*次ページクロス集計参照)

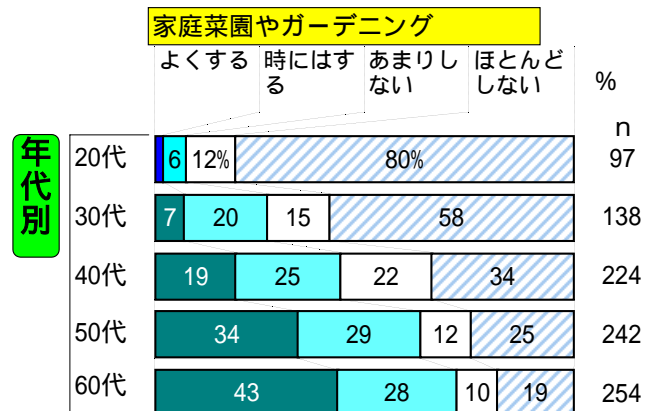
また、『映画・スポーツ観戦等』、『図書館・公民館等』、『音楽会・展覧会』などの項目で、[よくする]を選んだ人が少ないのは、地域によっては映画館など利用できる施設が十分に整備されていないことが考えられる。

参考：問12と年代とのクロス集計

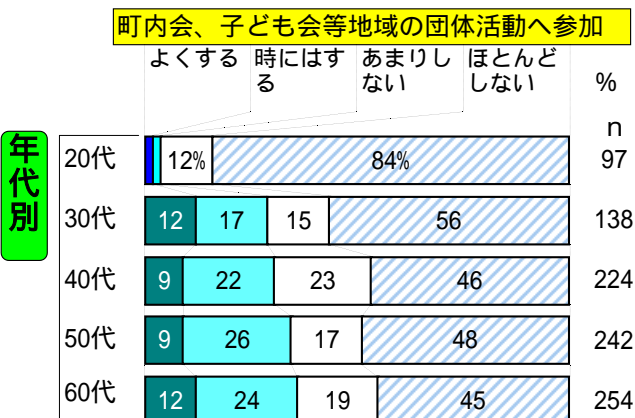
若い年代ほどよくする



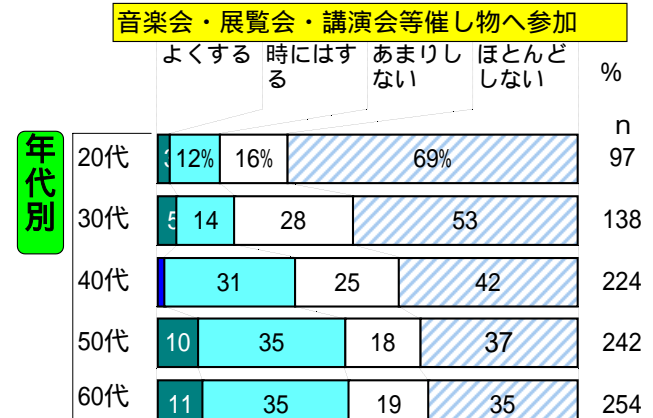
年代による差が顕著である



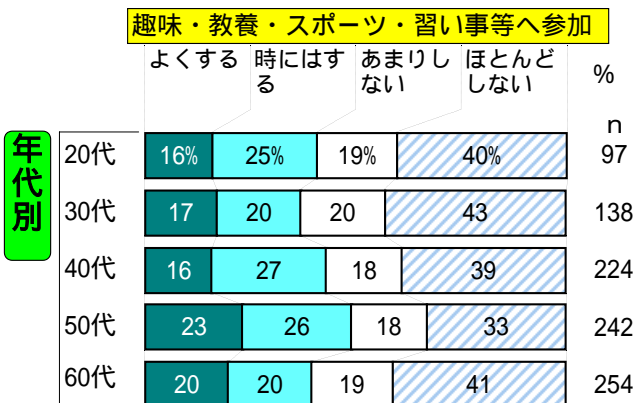
20代と他の年代で差がある



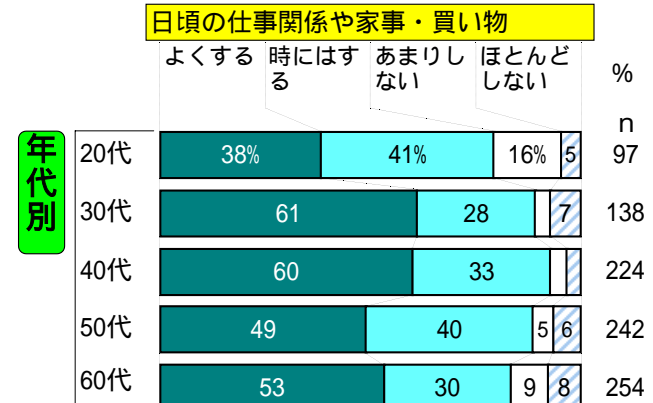
年代が上がるほどよくする



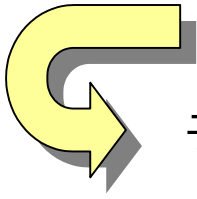
年代による差がない



どの年代でもよくする

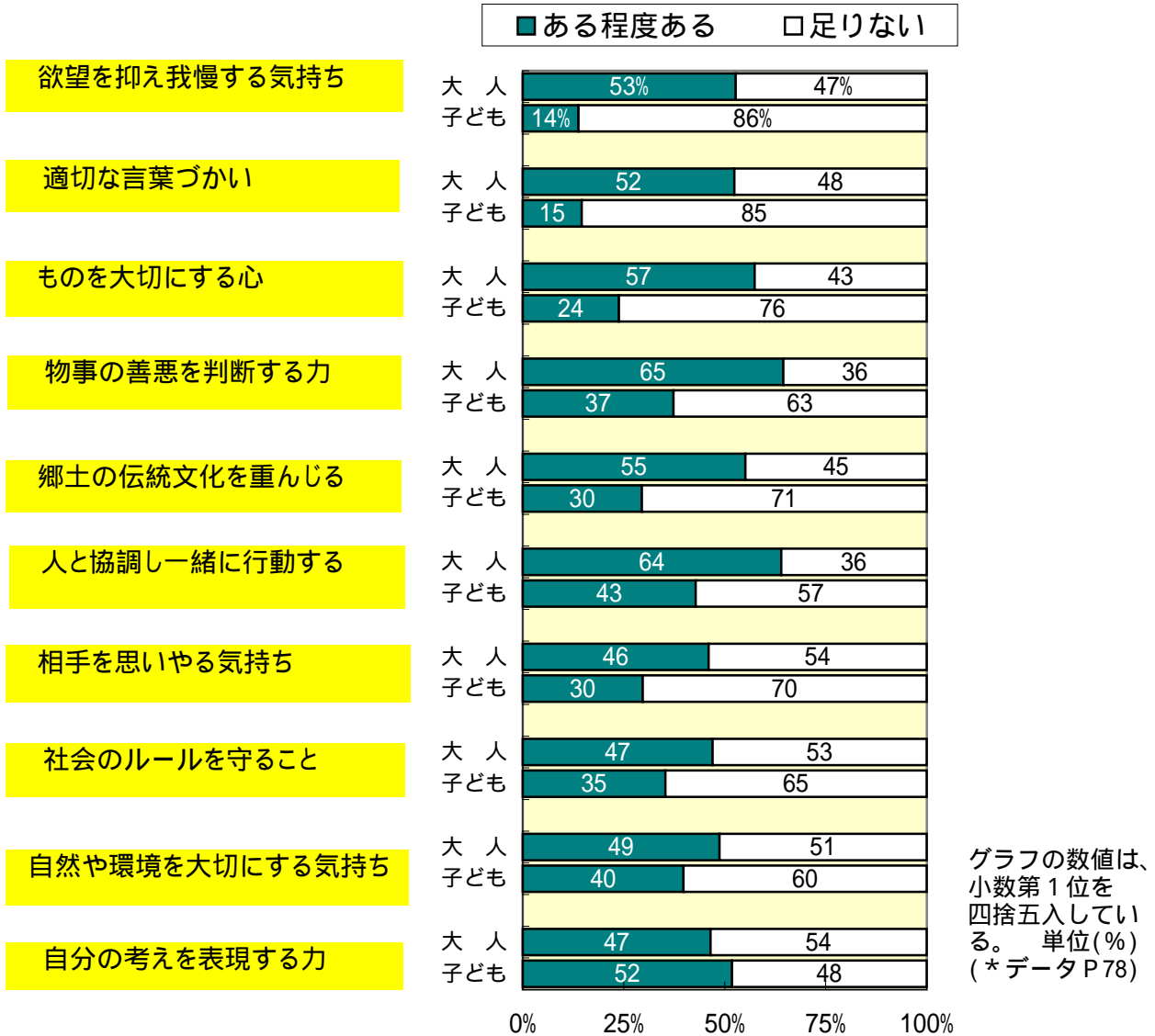


3 今の大人や子どもについて



大人から、今の大人と子どもを見た場合、
子どもに対して、より厳しい見方をしている人が多い。

問13 今の大人や子ども（小・中学生）についてどのような印象をお持ちですか。（単数回答）



子どもに対して、特に厳しい見方をしているもの
『欲望を抑え我慢する気持ち』『適切な言葉づかい』など

大人と子どもで、大きな差が見られないもの
『自然や環境を大切にすること』『社会のルールを守ること』

大人より子どもが優れているもの
『自分の考えを表現する力』



子どもの徳性を育てるのは、

[学校と地域社会の両方の役割]が、高い割合を占める。

(『自分の考えを表現する力の育成』を除く)

問14 小・中学生に次のようなことを指導するのは、家庭はもちろんですがそれ以外では誰の役割だと思いますか。(単数回答)

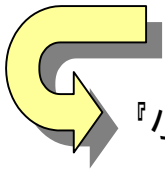
	おもに学校の役割	おもに地域社会の役割	学校と地域社会の両方	どれとも言えない	%	n
思いやりの気持ちを育む	13%	8%	69%	10%		934
自然環境を大切にする気持ち育成	8	19	68	5		919
社会のルール遵守を教える	17	12	66	5		924
人と協調し行動する気持ちの育成	23	6	66	5		926
ものを大切にする心を育む	16	11	63	10		925
物事の善悪を判断する力の育成	22	7	62	9		922
欲望を抑え我慢する気持ちの育成	22	8	52	18		926
伝統文化を重んじる気持ちの育成	7	35	52	6		922
適切な言葉づかいを教える	39	5	49	7		923
自分の考えを表現する力の育成	54	3	35	8		922

グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (*データP78)



『思いやりの気持ちを育む』『自然環境を大切にする気持ちの育成』をはじめ、問13で子どもに対して特に厳しい見方をしている項目でも、[両方の役割]であるとする人が[おもに学校の役割][おもに地域社会の役割]を選んだ人よりも多い。

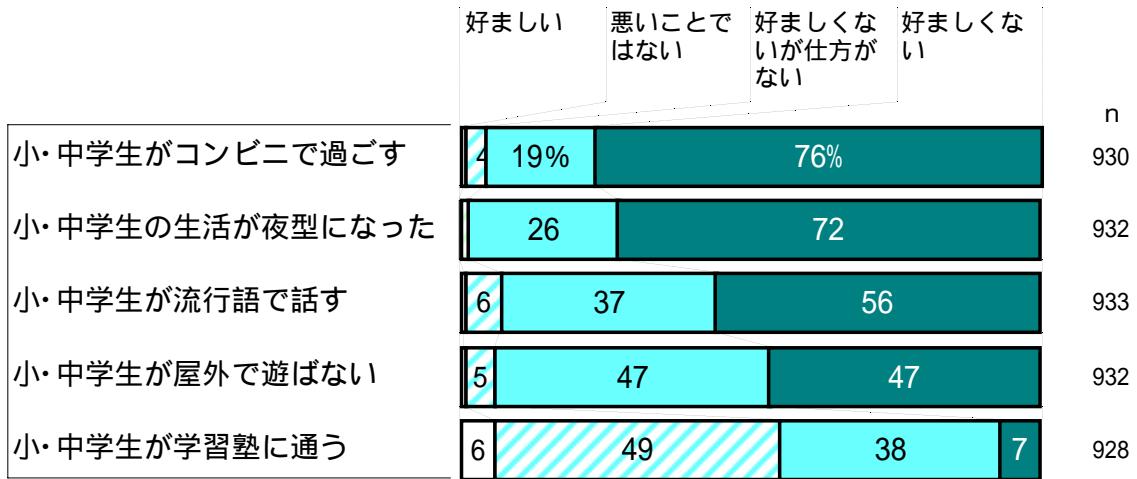
また、『伝統文化を重んじる気持ちの育成』では、[おもに地域社会の役割]を選んだ人が35%おり、『適切な言葉づかいを教える』『自分の考えを表現する力の育成』は、[おもに学校の役割]を選んだ人が多い。 (*教員調査について、同じ設問の結果はP37参照)



子どもの行動・行為について、

『小・中学生がコンビニで長い時間を過ごす』は[好ましくない]76%

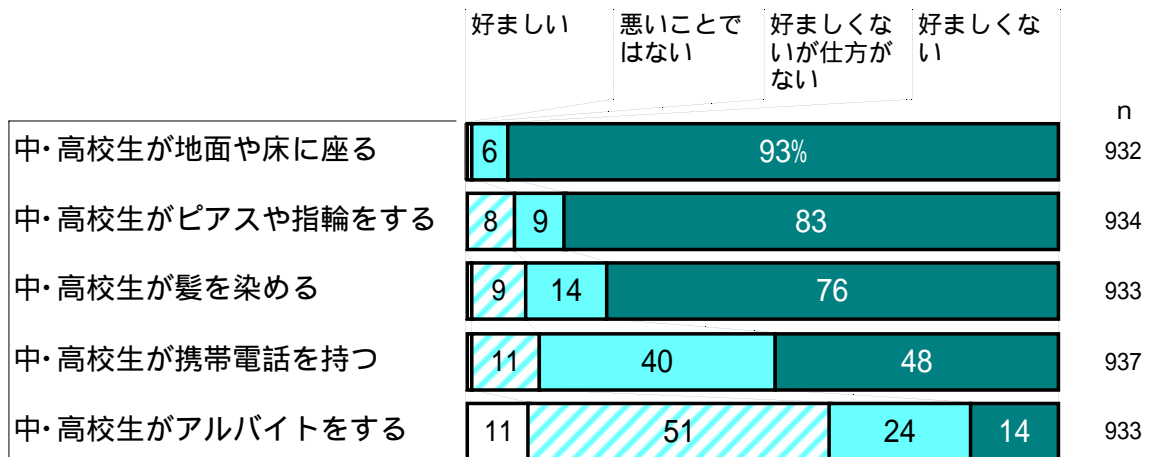
問15 あなたは、小学生や中学生の行動・行為について、どのように思いますか。(単数回答)



子どもの行動・行為について、

『中・高校生が地面や床に座りこんで話す』は[好ましくない]93%

問15 あなたは、中学生や高校生の行動・行為について、どのように思いますか。(単数回答)



グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (*データP78)



子どもの行動・行為について、『小・中学生が流行語で話す』や『中・高校生が髪を染める』などは、年齢とともに否定的傾向が高くなるが、『中・高校生が地面や床に座る』は、年齢に関わらずどの年代でも否定的な意見が多い。 (*次ページクロス集計参照)

自由記述において、特に、中・高校生が店の前に座り込んでものを食べることにについて店主のみならず地域の大人に指導を期待する意見が寄せられているが、子どもの行動・行為の中でもこのような問題については、地域全体として大人が取り組む必要があると考えられる。(P31)

参考：問15と年代とのクロス集計

小・中学生がコンビニで過ごす

年代	%				n
	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方ない	好ましくない	
20代	16%	29%	55%		97
30代	4	20	75		138
40代	4	19	78		224
50代	4	18	79		242
60代	4	17	80		254

小・中学生が流行語で話す

年代	%				n
	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方ない	好ましくない	
20代	26%	45%	28%		97
30代	4	45	50		138
40代	4	38	58		224
50代	4	33	64		242
60代	5	31	63		254

小・中学生が学習塾に通う

年代	%				n
	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方ない	好ましくない	
20代	7	58%	26%	9%	97
30代	4	48	38	10	138
40代	4	52	38	6	224
50代	5	49	40	6	242
60代	10	46	39	5	254

小・中学生が屋外で遊ばない

年代	%				n
	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方ない	好ましくない	
20代	11%	48%	41%		97
30代	6	46	47		138
40代	4	49	48		224
50代	4	53	45		242
60代	6	41	52		254

中・高校生が地面や床に座って話す

年代	%				n
	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方ない	好ましくない	
20代	9%	88%			97
30代	4	94			138
40代	8	91			224
50代	3	95			242
60代	7	92			254

中・高校生が携帯電話を持つ

年代	%				n
	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方ない	好ましくない	
20代	30%	37%	30%		97
30代	11	49	39		138
40代	12	50	38		224
50代	6	36	57		242
60代	6	31	63		254

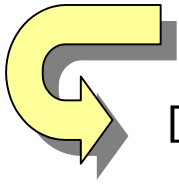
中・高校生がアルバイトをする

年代	%				n
	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方ない	好ましくない	
20代	33%	52%	10	5	97
30代	18	56	17	9	138
40代	7	62	22	9	224
50代	7	47	25	21	242
60代	7	42	35	16	254

中・高校生が髪を染める

年代	%				n
	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方ない	好ましくない	
20代	31%	26%	38%		97
30代	18	22	59		138
40代	6	17	77		224
50代	4	9	87		242
60代	4	7	89		254

4 居住する地域のことについて



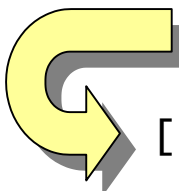
住んでいる地域への関心は、

[関心がある・やや関心がある] 63% ~ 85%

問16 あなたは、お住まいの地域のことについて、どれくらい関心をおもちですか。(単数回答)

	関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	%	n
地域の自然・生活環境へ	40%	45%	13%			925
地域の話題や出来事へ	31	46	19	4		925
地域に住む高齢者等へ	26	48	23	3		919
地域に住む子どもへ	25	47	24	4		927
地域内の小・中学校へ	28	41	27	4		915
地域に住む人々へ	20	43	31	6		926

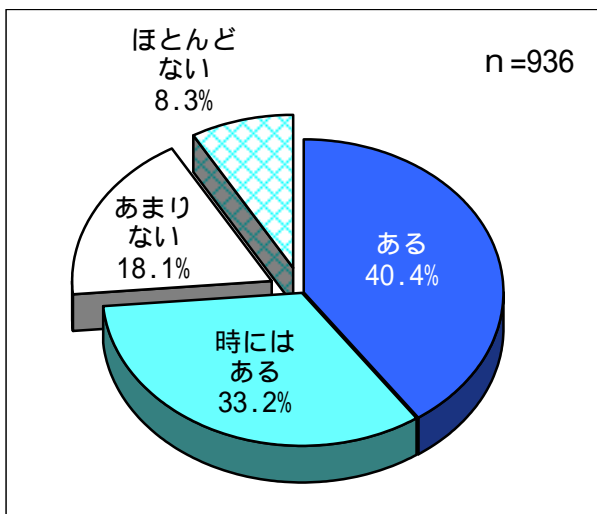
グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (*データP79)



地域の人々との交流や付き合いは、

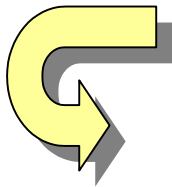
[ある・時にはある] 73.6%

問17 あなたは、隣近所や地域の方々と交流やお付き合いがありますか。(単数回答)



他方、日頃、地域の人々との交流や付き合いが[ほとんどない・あまりない]と答えた人が26.4%もいることが注目される。

地域の人々との交流は、年齢とともに盛んになり、居住地域(三市、五市町村部)や居住年数による違いが見られる。
(*P26クロス集計参照)



参加したことがある地域活動は、

- 『地域の清掃やリサイクル活動』 64%
- 『祝いごとや不幸の手伝い』 63%
- 『学校の活動への協力・手伝い』 59%
- 『お祭りや行事等への協力活動』 58%



問18 あなたは、次のような地域の活動に参加したことがありますか。(単数回答)

	(^o^)参加したことがある	(-_-)参加したことがない	n
地域の清掃やリサイクル活動	64%	36%	932
祝いごとや不幸の手伝い	63	37	927
学校の活動への協力・手伝い	59	41	926
お祭りや行事等への協力活動	58	42	929
子ども会やPTAの役員	48	52	924
町内会や自治会等の役員	45	55	925
地域の防犯や交通安全活動	33	67	924
青年団・婦人会等の活動	32	68	931
高齢者と子ども達の交流活動	28	72	928
芸能文化の伝承に関する活動	22	78	924
国際理解・国際交流に関する活動	11	89	923

グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (*データP79)



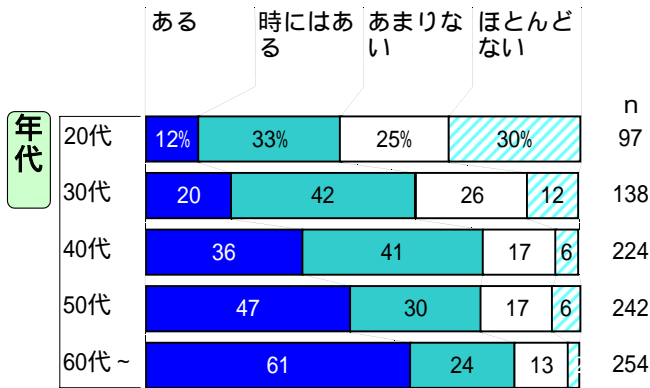
地域活動の中で『国際理解・国際交流に関する活動』へ参加したことがある人は、11%である。本県は「青森県国際推進化プラン」(H9)により国際交流の推進を図っているが、実際に国際交流に関する活動を行っているのは一部の地域や人に限られるようである。

地域活動への参加率は、居住地域により違いが見られ、町村部>五市>三市の順に高い傾向がある。また、居住年数が長いほど活動への参加率が高くなる項目が多い。

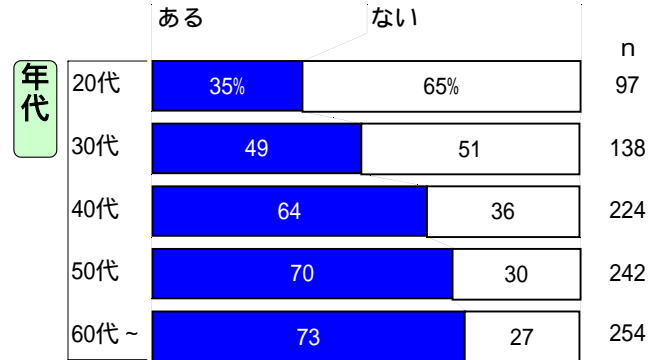
例：『地域の清掃やリサイクル活動』『祝いごとや不幸の手伝い』『町内会や自治会等の役員』『子ども会やPTAの役員』ほか (*P26・P62・P63クロス集計参照)

参考：問17・問18に関するクロス集計

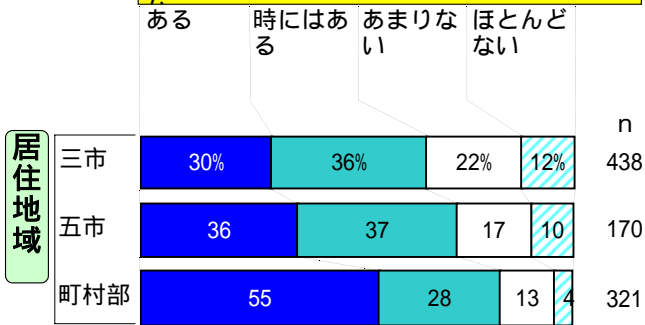
問17 地域の人々と交流や付き合いがあるか



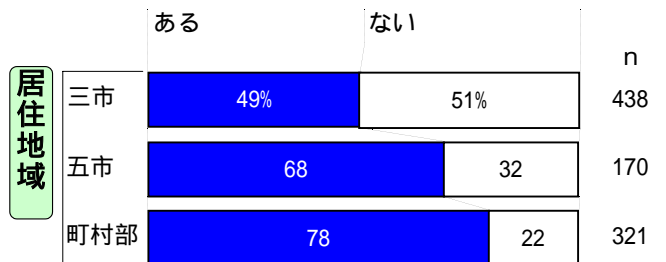
問18 祝いごとや不幸の手伝い



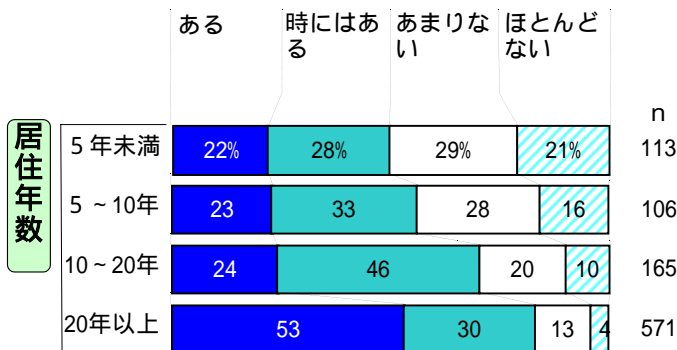
問17 地域の人々と交流や付き合いがある



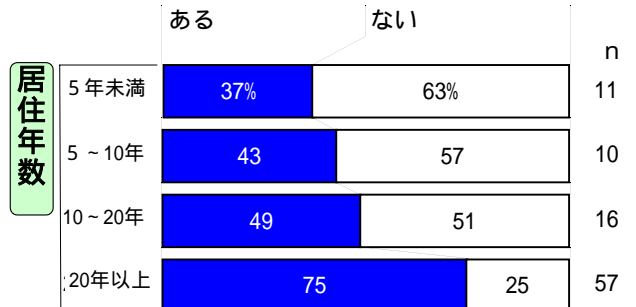
問18 祝いごとや不幸の手伝い



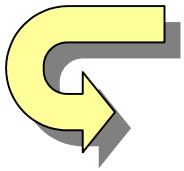
問17 地域の人々と交流や付き合いがあるか



問18 祝いごとや不幸の手伝い



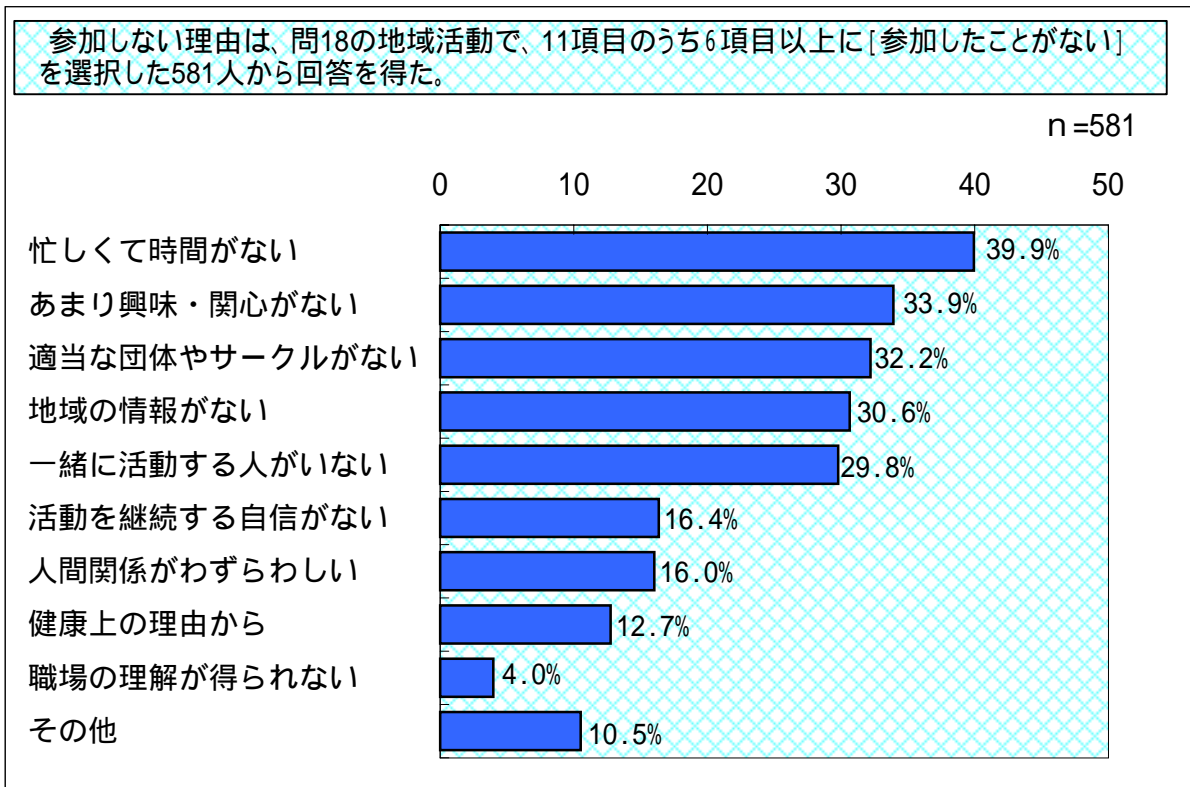
問18の他の項目のクロス集計は、P61～63参照



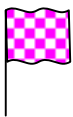
地域活動へ参加しない理由は、

- 『忙しくて時間がない』 39.9%
- 『あまり興味・関心がない』 33.9%
- 『適当な団体・サークルがない』 32.2%
- 『地域の情報がない』 30.6%
- 『一緒に活動する人がいない』 29.8%

地域活動に参加しない理由は。(複数回答)



グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (*データP79)



年代により、参加しない理由に差が見られる。複数回答のため、『忙しくて時間がない』とそれ以外の数項目を加えて選ぶ傾向があるが、20代では『あまり興味・関心がない』が第1位であり、30代からは地域の情報関係(団体サークル情報を含む)を理由にあげる人が多い。
(*P50クロス集計参照)

	第1位・割合(%)		第2位・割合(%)	
20代	あまり興味・関心がない	49%	忙しくて時間がない	41%
30代	忙しくて時間がない	47%	地域の情報がない	38%
40代	忙しくて時間がない	46%	適当な団体やサークルがない	36%
50代	忙しくて時間がない	43%	適当な団体やサークルがない	35%
60代~	適当な団体やサークルがない	34%	健康上の理由から	33%

5 子どもの豊かな人間性を育むための活動について

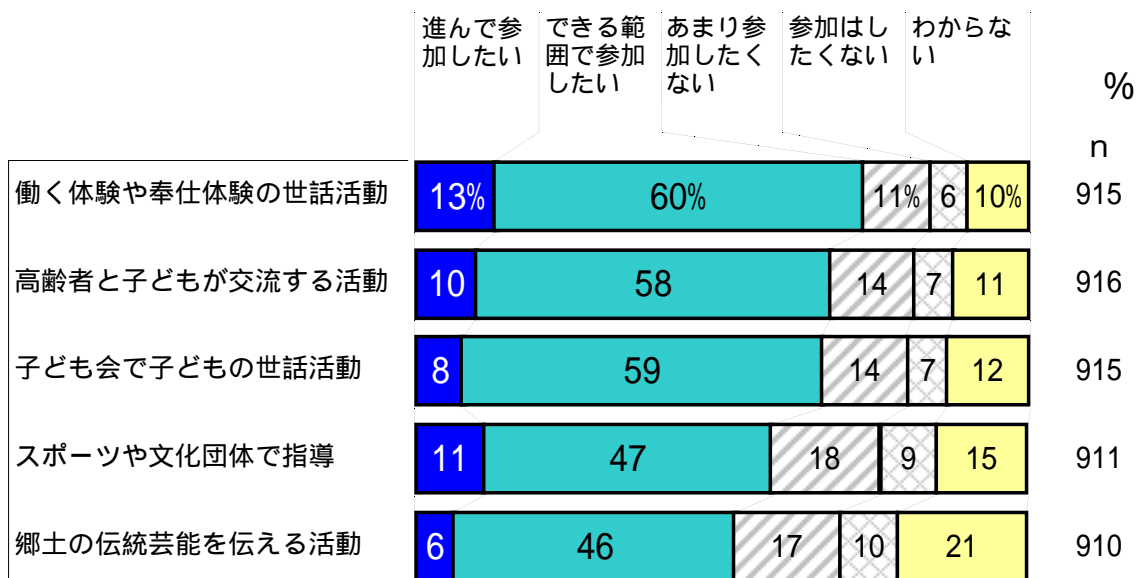


子どもを育成する地域活動に、
過半数の人が参加を希望している。

〔 進んで参加したい
できる範囲で参加したい 〕 52% ~ 73%



問19 あなたは、子どもの豊かな人間性を育むために地域活動を行うとしたら参加しますか。(単数回答)



グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (* データP79)



地域活動への参加は、

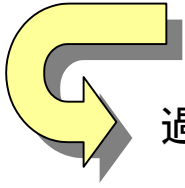
『働く体験や奉仕活動の世話活動』に、 [進んで参加したい] 73%
[できる範囲で参加したい]

『高齢者と子どもが交流する活動』に、 [進んで参加したい] 68%
[できる範囲で参加したい]

などであり、参加を望む割合は高い。『郷土の伝統芸能を伝える活動』や『スポーツや文化団体で指導』への参加希望が他より低くなっているのは、これらの指導が、技能を持つ人に限られるということが考えられる。

また、性別・年代・子どもの有無や居住地(市部、町村部)などにより違いが見られる。

(* P67~71クロス集計参照)

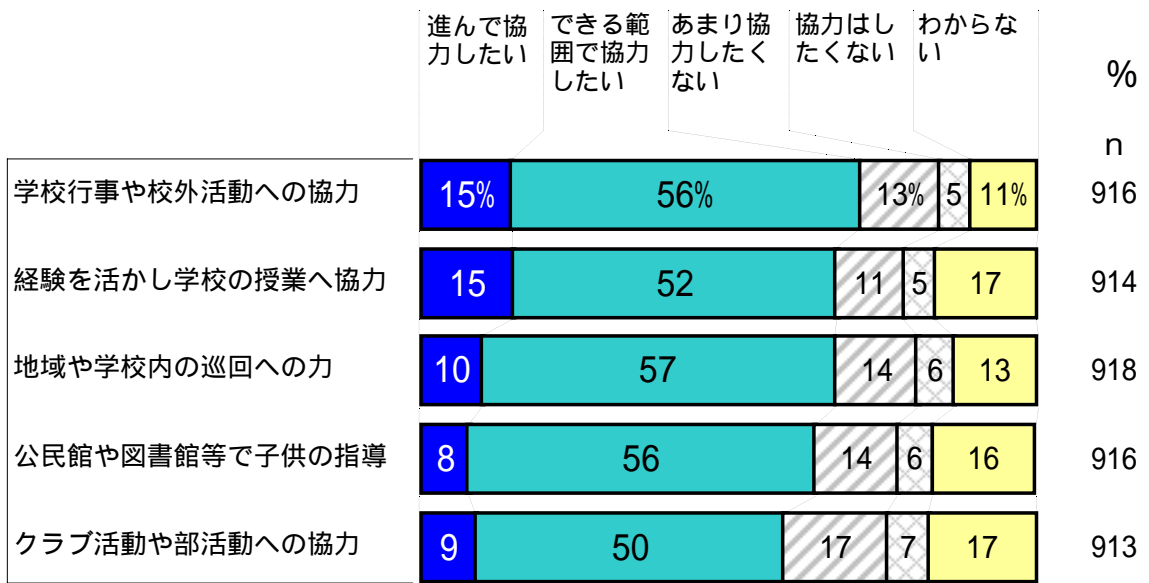


学校等の教育活動に、
過半数の人が協力意識を持っている。

〔 進んで協力したい
できる範囲で協力したい 〕 59% ~ 71%



問20 あなたが、学校や教育委員会などから次のような協力を依頼されたらどうしますか。(単数回答)



グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (*データP79)



学校等への協力は、

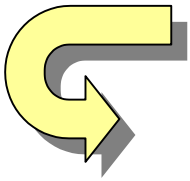
『学校行事や校外活動への協力』に、 [進んで協力したい] 71%
[できる範囲で協力したい]

『経験を活かして学校の授業へ協力』に、 [進んで協力したい] 67%
[できる範囲で協力したい]

などであり、協力を望む割合は高い。

また、性別・年代や子どもの有無などにより、違いが見られる。『クラブ活動や部活動への協力』は、男性の割合が女性よりも高くなっており、また若い人の方が積極的に望む割合が高い。全体的には、子どもがある人の方が、協力意識が高い傾向が見られる。

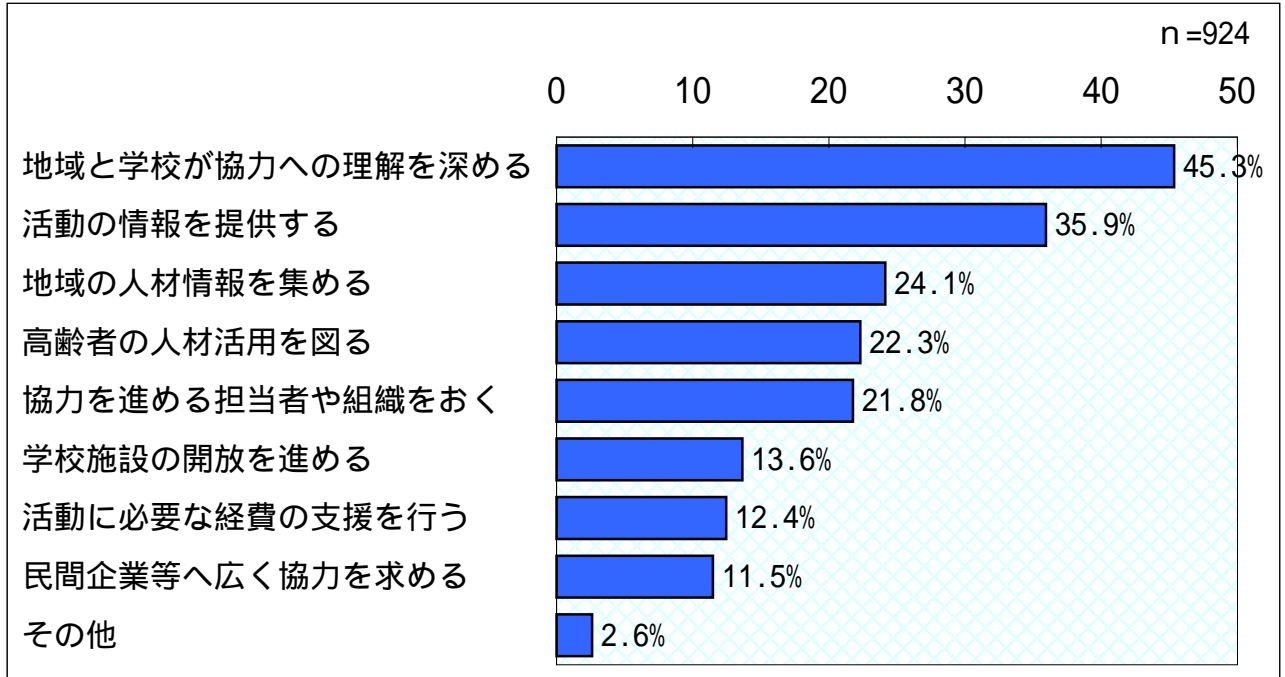
(* P67~69クロス集計参照)



地域と学校の協力を重要なことは、

- 『地域と学校が協力への理解を深める』 45.3%
- 『活動の情報を提供する』 35.9%

問21 地域と学校が協力して社会全体で子どもを育てていくために、重要なことは何ですか。（複数回答）



(*データP79)



協りに重要なこととして、『地域と学校が協力への理解を深める』を選んだ人が多くこれは県民調査と教員調査で同じ結果である。このことから、地域住民は、まず第一にお互いの理解が重要であるを感じていることがわかる。 (*教員調査はP41参照)

年代により、重要と思う項目に差が見られる。30代以上では『地域と学校が協力への理解を深める』が第1位であるが、20代では『活動の情報を提供する』、『地域の人材情報を集める』を選ぶ割合が高い。今の若い世代は、具体的な情報から地域と学校の関わりについて考えていくことがうかがえる。 (*P74クロス集計参照)

	第1位・割合 (%)		第2位・割合 (%)	
20代	活動の情報を提供する	47%	地域の人材情報を提供する	32%
30代	協力への理解を深める	42%	活動の情報を提供する	39%
40代	協力への理解を深める	36%	活動の情報を提供する	35%
50代	協力への理解を深める	49%	活動の情報を提供する	36%
60代～	協力への理解を深める	57%	活動の情報を提供する	30%

問22 自由記述

大分類	小分類	記述内容	件数
家庭	親	親が身を正すこと、親を見て子どもが育つ、子どもより親の教育が緊急必要。	12
		多くの親は教育に自信を失っている、ちゃんと叱らない親が多い。	4
		今の若い親は過保護すぎる、若い親が社会のルールを守らない。	4
		働く母親、子育てへの支援を	3
	家庭	親自身、地域活動へ参加する意識を	1
		家庭の躰をしっかりと、何よりも家庭教育、家庭教育の向上を図る必要がある。	12
		基本は家庭環境、家庭生活が第一、家族関係の見直しを	10
	親子	家庭における親子の対話・触れ合い、コミュニケーション	7
		核家族が多い。	3
68件	親子	親子が一緒に活動する、親子が参加できるサークル活動の場を提供する。	10
地域社会	地域社会	子供は休みでも親は仕事、子供だけで参加できる行事を	2
		子ども会・町内会行事への参加が年々減っている、もっと地域活動を積極的に	11
		助け助けられる地域、隣組	3
		地域で色々なイベント、サークル活動を増やす。	2
		店の前に座り込んで物を食べる等の行為を店主のみならず地域の大人が指導する。	2
19件		学生は時間があるので、学生を実際の活動に活かす。	1
学校	学校	先生の質を上げる、教員の指導・採用について	5
		学校の先生方に頑張ってほしい、先生の子どもへの接し方について	3
		学校にPTAボランティアを	2
		学校の先生の特権を増す。	1
		学校週休2日制で、先生方が多忙になった。	1
12件			
今の大人・子ども	大人	今の大人に問題有り、大人の責任・姿勢、子どもを悪くするのは世の大人	9
		まず、我々大人がしっかりして、子どもの見本になれ。	8
		大人の常識を強いている。双方が意見を出し合える環境作り	5
		大人の苦勞体験や戦争体験を子どもに伝える。	2
	子ども	今の子供達は恵まれすぎてわがまま	3
子どもを個人として扱い、責任を持たせる。		3	
35件		その他：子どもの食事、子どもの実態について	5
現状提案	社会	学歴重視の社会をやめる、競争だけでなく、社会が変わらなければいけない。	5
		他人の子ども・自分の子どもの別なく注意できる社会を	2
		地域活動の日は、大人・子どもも参加できるよう休日にする。	1
	環境	子どもが外に出て行ける環境を整える、公共施設や公園が少ない。	10
		社会的環境が壊れつつある。	3
	教育一般	道徳、情操、心を育てる教育が足りない、命・死に対する教育が必要	11
		学区割り、障害者・健常者が共に学べる環境、教育制度について	4
		学校週5日制は不安である。	3
		勉強は受験のためだけではない	2
		「テレビ課外授業ようこそ先輩」の内容がよい。子供達に熱中させるものが必要	2
		郷土の祭りで心身の成長を	2
		その他：国語教育、挨拶教育、芸術教育（名作やクラシックを若い世代に）	5
		マスコミの悪影響を無くする。	1
	教育費が高すぎる。	1	
	幼児教育の必要性	1	
	交流	高齢者・ハンディをもつ人々・異年齢、様々な経験のある人達との交流・触れ合い	16
		子どもが交流できる施設を増やし、体験学習の推進	2
体験経験	子どもの時から多くの体験・経験をさせる、教室以外での教育を増やす。	12	
	子供は風の子、野外での集団遊びを	3	
連携・協力	働く体験を	2	
	地域と学校が一体となって活動する、地域住民と学校職員の協力	7	
	協力したいが、やり方がわからない。	6	
	学校・家庭・地域の三者の連携が必要、親と地域・PTAと学校の連携	3	
113件	家庭と地域の連携で、学校はあてにならない。	3	
	学校、企業の協力	1	
行政	行政に期待する、中央市民センターの行事、アウガの図書館が良い。	5	
その他	その他	高齢のため子どもに距離ができた、子供がいない、健康に問題あり、アンケートについて	12
12件			



第4章 教員調査の結果

回収結果

郵送数	1,000人
回収数	482人
回収率	48.2%
有効回答数	479人
有効回答率	47.0%

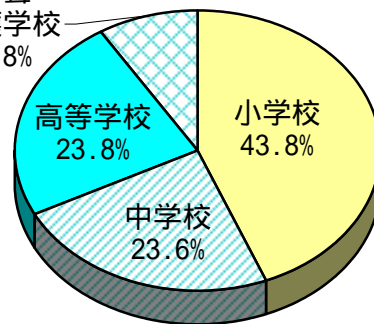
1 回答者の属性 教員調査

【校種別】

カテゴリー名	人数(人)	割合(%)
小学校	210	43.8
中学校	113	23.6
高等学校	114	23.8
盲・聾・養護学校	42	8.8
全体	479	100.0

校種

盲・聾・
養護学校
8.8%

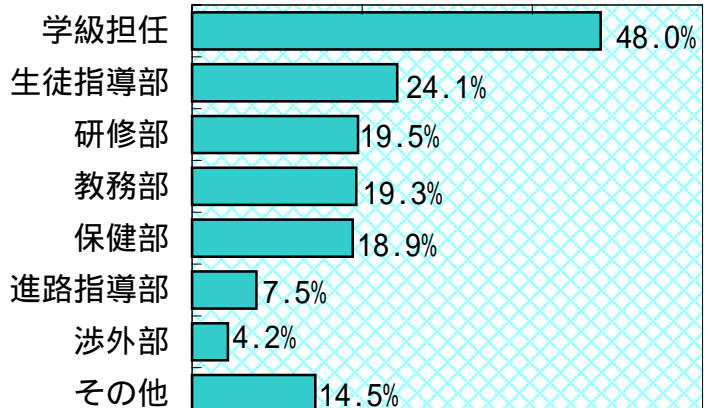


n=479

【校務分掌】(複数回答)

カテゴリー名	人数(人)	割合(%)
学級担任	229	48.0
生徒指導部	115	24.1
研修部	93	19.5
教務部	92	19.3
保健部	90	18.9
進路指導部	36	7.5
渉外部	20	4.2
その他	69	14.5
全体	477	100.0

校務分掌

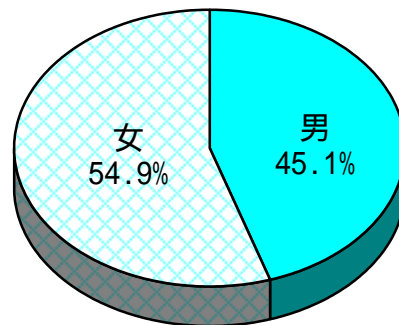


n=477

【性別】

カテゴリー名	人数(人)	割合(%)
男	216	45.1
女	263	54.9
全体	479	100.0

性別

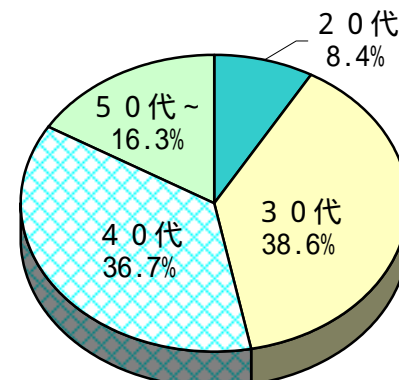


n=479

【年齢】

カテゴリー名	人数(人)	割合(%)
20代	40	8.4
30代	185	38.6
40代	176	36.7
50代~	78	16.3
全体	479	100.0

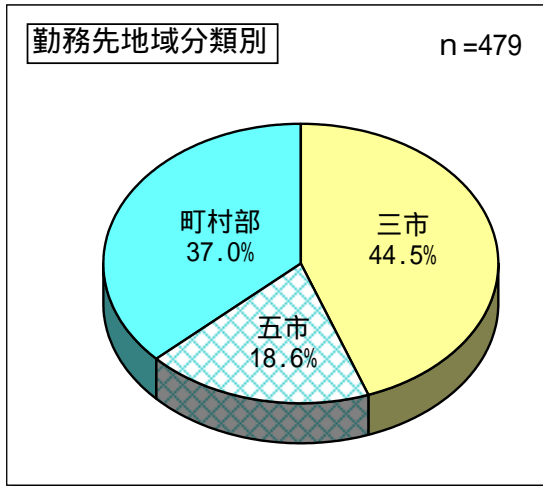
年齢



n=479

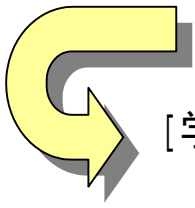
【勤務先の市町村】

カテゴリー名	人数(人)	割合(%)
三市	213	44.5
五市	89	18.6
町村部	177	37.0
全体	479	100.0



地域分類	No.	市町村名	人数(人)	割合(%)
三市	1	青森市	98	20.5
	2	弘前市	46	9.6
	3	八戸市	69	14.4
五市	4	黒石市	19	4.0
	5	五所川原市	19	4.0
	6	十和田市	23	4.8
	7	三沢市	11	2.3
	8	むつ市	17	3.5
町村部	9	平内町	2	0.4
	10	蟹田町	2	0.4
	11	今別町	1	0.2
	12	蓬田村	0	0.0
	13	平舘村	1	0.2
	14	三厩村	1	0.2
	15	鱒ヶ沢町	7	1.5
	16	木造町	7	1.5
	17	深浦町	3	0.6
	18	森田村	1	0.2
	19	岩崎村	1	0.2
	20	柏村	2	0.4
	21	稲垣村	0	0.0
	22	車力村	3	0.6
	23	岩木町	6	1.3
	24	相馬村	1	0.2
	25	西目屋村	0	0.0
	26	藤崎町	4	0.8
	27	大鰐町	4	0.8
	28	尾上町	3	0.6
	29	浪岡町	2	0.4
	30	平賀町	7	1.5
	31	常盤村	1	0.2
	32	田舎館村	3	0.6
	33	碓ヶ関村	2	0.4
	34	板柳町	5	1.0
	35	金木町	2	0.4
	36	中里町	3	0.6
	37	鶴田町	5	1.0
	38	市浦村	0	0.0
	39	小泊村	2	0.4
	40	野辺地町	4	0.8
	41	七戸町	6	1.3
	42	百石町	3	0.6
	43	十和田湖町	5	1.0
	44	六戸町	3	0.6
	45	横浜町	4	0.8
46	上北町	2	0.4	
47	東北町	3	0.6	
48	天間林村	2	0.4	
49	下田町	4	0.8	
50	六ヶ所村	4	0.8	
51	川内町	3	0.6	
52	大畑町	3	0.6	
53	大間町	4	0.8	
54	東通村	8	1.7	
55	風間浦村	1	0.2	
56	佐井村	2	0.4	
57	脇野沢村	2	0.4	
58	三戸町	5	1.0	
59	五戸町	4	0.8	
60	田子町	3	0.6	
61	名川町	5	1.0	
62	南部町	2	0.4	
63	階上町	5	1.0	
64	福地村	1	0.2	
65	南郷村	5	1.0	
66	倉石村	2	0.4	
67	新郷村	1	0.2	
	全体		479	100.0

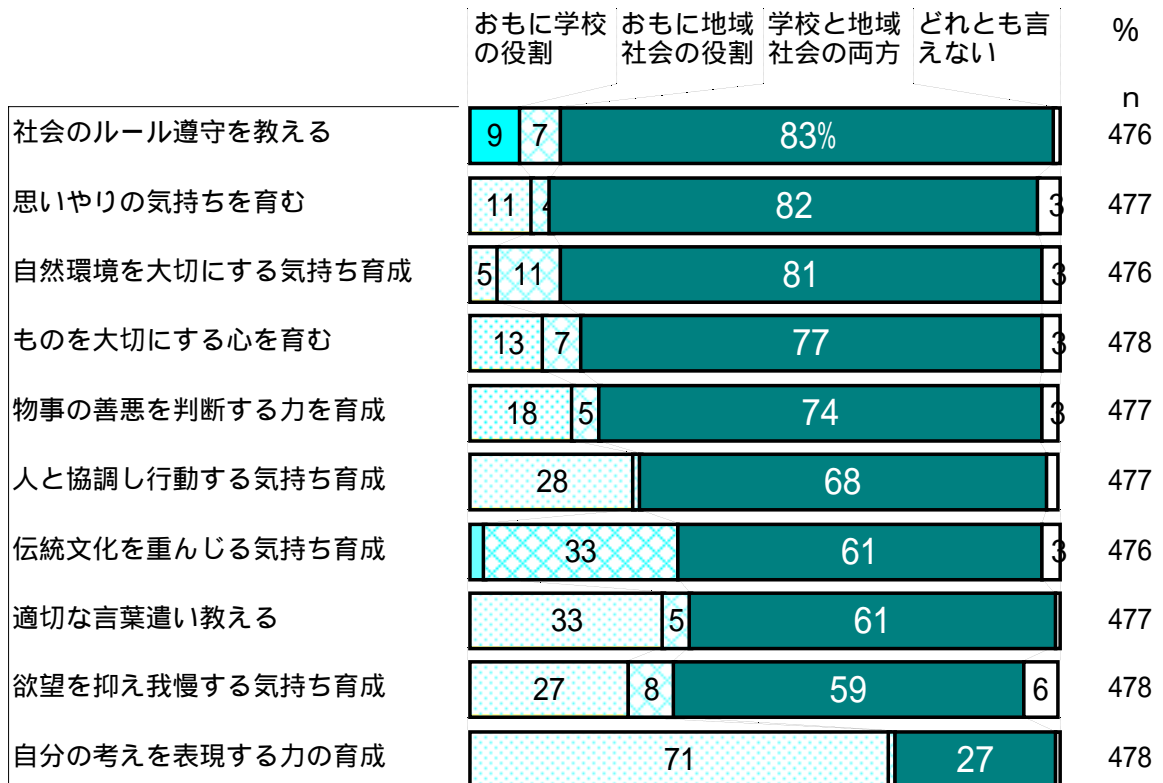
2 学校や地域社会の役割について



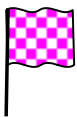
子どもの徳性を育てるのは、
[学校と地域社会の両方の役割]が、高い割合を占める。

(『自分の考えを表現する力の育成』を除く)

問6 子どもに対して、次のことを指導するのは、家庭はもちろんですが、誰の役割だと思いますか。(単数回答)



グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (*データP80)



『社会のルール遵守を教える』『思いやりの気持ちを育む』をはじめ、ほとんどの項目で[両方の役割]とする人が多い。これは、県民調査でも同じ結果が得られている。

また、教員調査、県民調査とも[両方の役割]とする上位3項目は同じになっており、子どもの徳性を育てるのは、[学校と地域社会の両方]の役割であるとする意見は、学校地域社会で共通する点がある。

他方、『自分の考えを表現する力の育成』は[おもに学校の役割]と考える教員が71%おり、県民調査の54%よりも高くなっている。この結果から、教員がこれを学校教育の役割として意識していることがうかがえる。(*県民調査はP21参照)

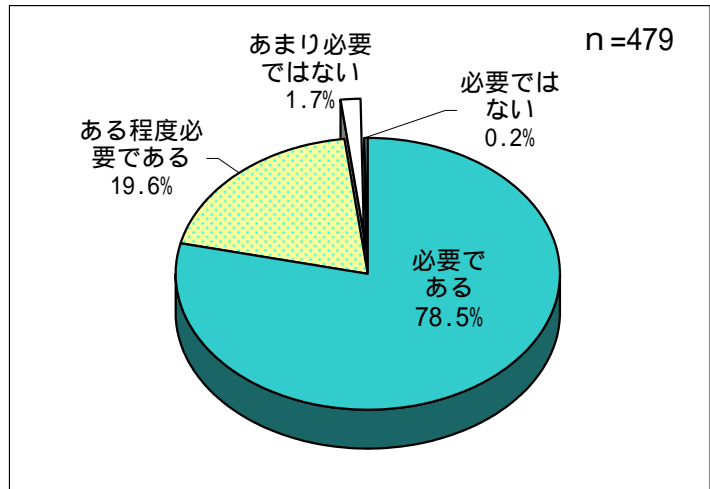
3 地域社会の教育力との連携・協力について

必要性

問7 学校が地域社会の教育力と連携・協力を進めていくことは必要ですか。(単数回答)

学校と地域社会の連携・協力は、

- [必要である] 78.5%
- [ある程度必要である] 19.6%

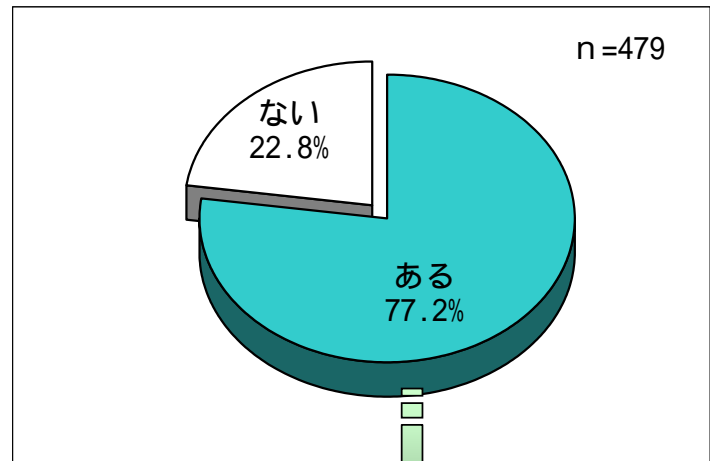


活用状況

問8 地域社会の教育力を活用した活動を行ったことがありますか。(単数回答)

地域社会の教育力の活用は、

- [行ったことがある] 77.2%
- [行ったことがない] 22.8%

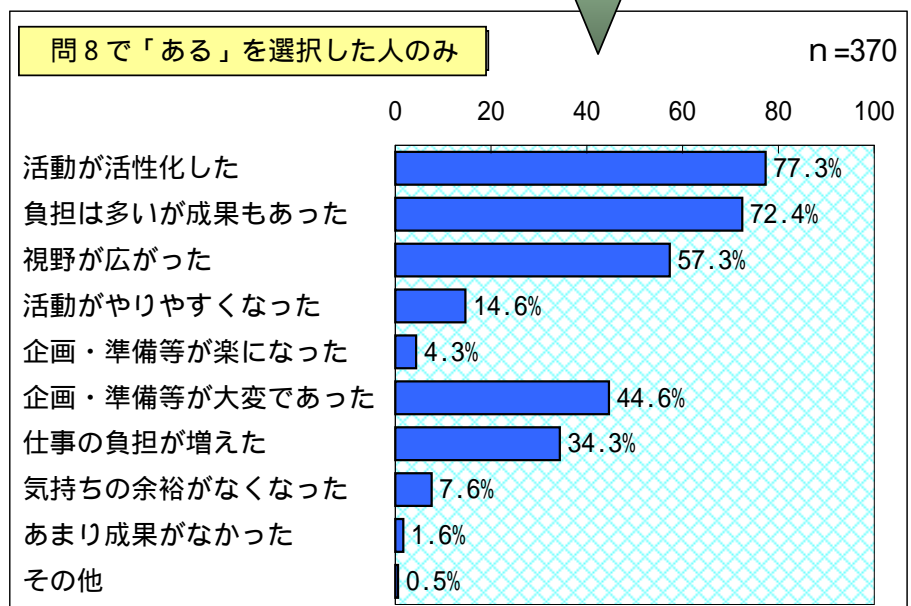


活用結果

問9 地域社会の教育力を活用した結果(複数回答)

活用した結果、

- [活動が活性化した] 77.3%
- [負担は多いが成果もあった] 72.4%



(*各グラフのデータP80)

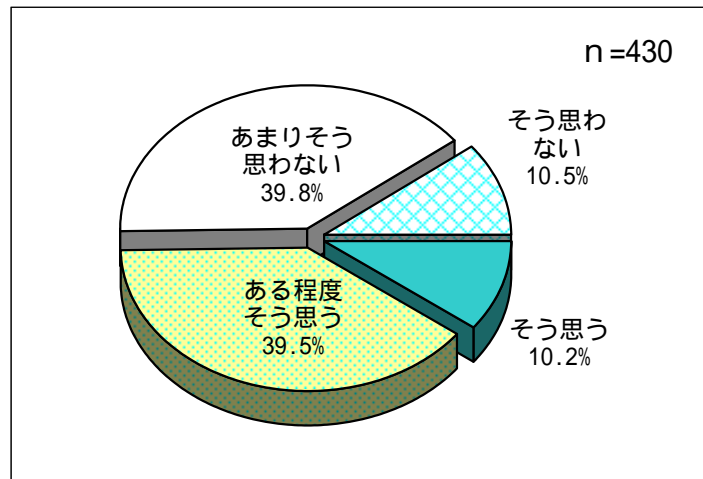
共通理解

問10 あなたの学校では、地域社会の教育力との連携・協力について職員間で十分な共通理解がなされていると思いますか。(単数回答)

連携・協力の共通理解がなされているか、

[そう思う]
[ある程度そう思う] 49.7%

[あまりそう思わない]
[そう思わない] 50.3%



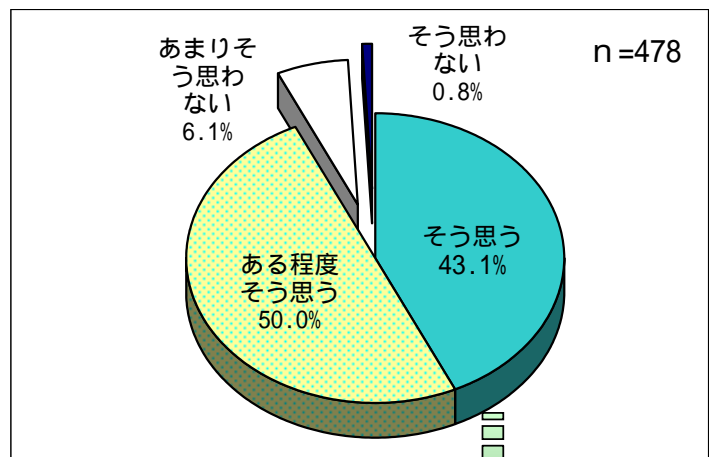
今後の意識

問11 あなたは、今後、自分の授業や担当する行事等で、地域社会の教育力と連携・協力した活動を取り入れてみたいですか。(単数回答)

連携・協力への取り組み意欲は、

[そう思う] 43.1%

[ある程度そう思う] 50.0%



連携の相手

問12 どのような相手・機関や施設等と連携・協力したいですか。(複数回答)

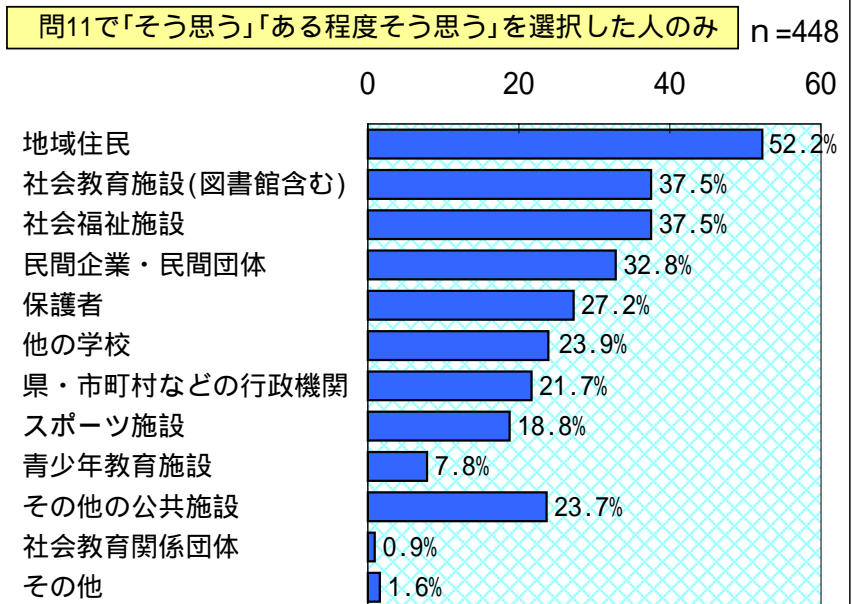
連携協力したい相手は、

[地域住民]
52.2%

[社会教育施設]
37.5%

[社会福祉施設]
37.5%

(*各グラフのデータP80)

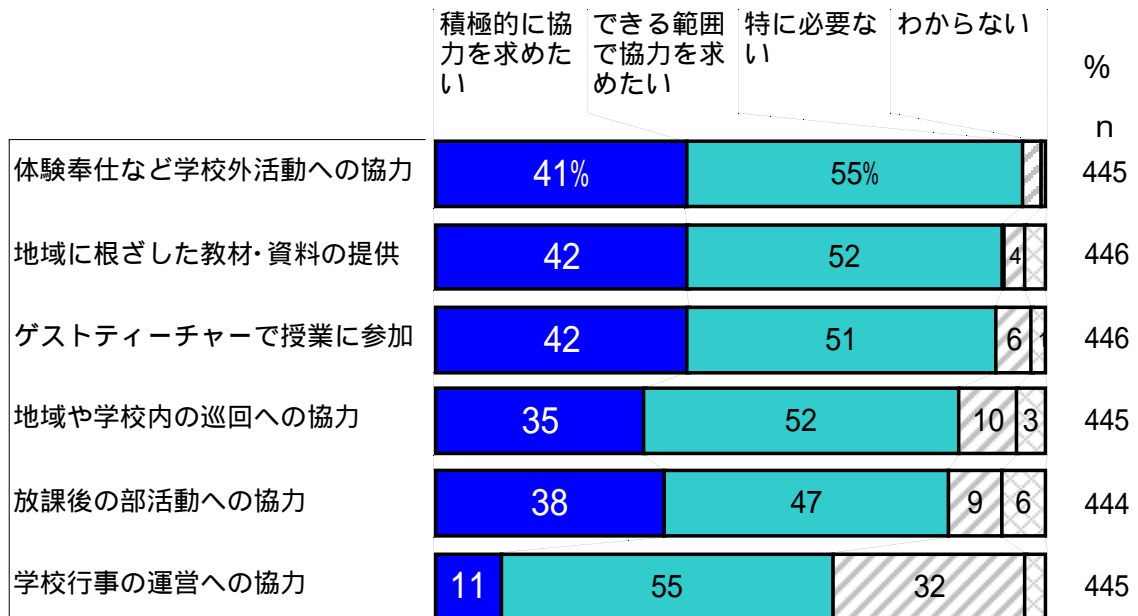




学校の授業や教育活動に対して、

教員が、地域住民の協力を望む割合はかなり高い。

問13 地域住民へ学校の授業や教育活動に協力をお願いすることについて、どう思いますか。(単数回答)



グラフの数値は、小数第1位を四捨五入している。(単位%) (* データP80)

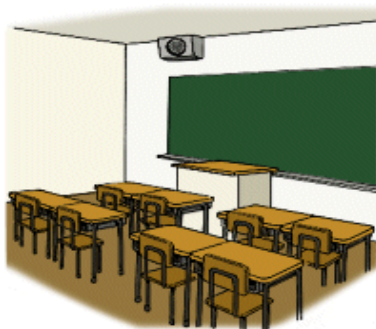


教員の意識は、

- 『体験奉仕など学校外活動への協力』に、[積極的に協力を求めたい] 96%
[できる範囲で協力を求めたい]
- 『地域に根ざした教材・資料の提供』に、[積極的に協力を求めたい] 94%
[できる範囲で協力を求めたい]
- 『ゲストティーチャーで授業に参加』に、[積極的に協力を求めたい] 93%
[できる範囲で協力を求めたい]

などであり、協力を望む割合は高い。また、校種や年代などにより、違いが見られる。

(* P43クロス集計参照)



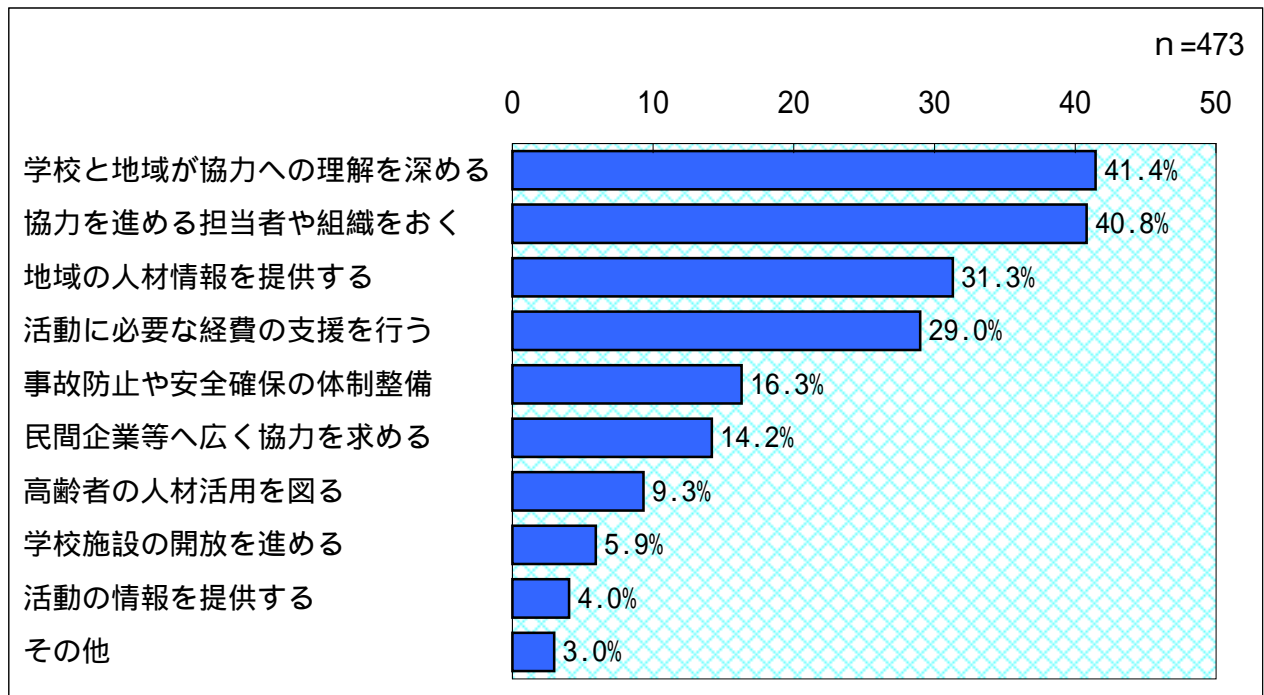


学校と地域社会の協りに重要なことは、

『学校と地域が協力への理解を深める』 41.4%

『協力を進める担当者や組織をおく』 40.8%

問14 学校と地域社会が協力して子どもを育てていくために、重要なことは何ですか。（単数回答）



(*データP80)



学校と地域の協力については、『学校と地域が協力への理解を深める』を選んだ人が多く、これは県民調査と教員調査で同じ結果である。 (* 県民調査はP30参照)

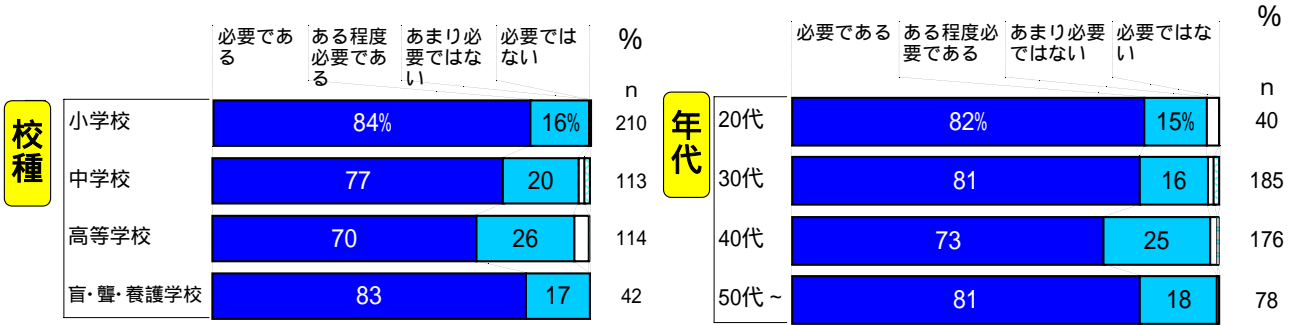
年代により意識の違いが見られる。20代では『協力への理解』を選ぶ割合がかなり高いが、30代・40代では『協力を進める担当者や組織をおく』が第1位である。

このことから、実際に、地域の教育力を活用した割合が高い30代・40代では、学社連携・融合を進めるうえで、専門の担当者や組織が必要であることを強く感じていることがうかがえる。 (* P74クロス集計参照)

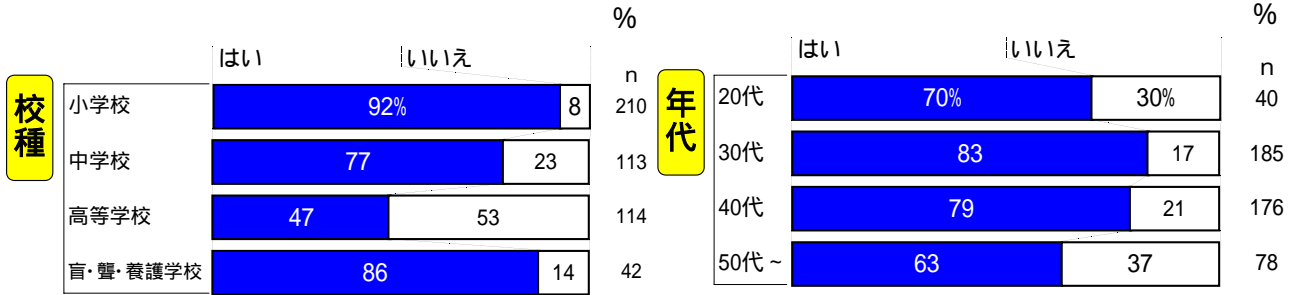
	第1位・割合 (%)		第2位・割合 (%)	
20代	協力への理解を深める	55%	担当者や組織を置く	32%
30代	担当者や組織を置く	43%	協力への理解を深める	44%
40代	担当者や組織を置く	46%	必要な経費の支援を行う	36%
50代	協力への理解を深める	46%	活動の情報を提供する	32%

参考：連携・協力についてのクロス集計

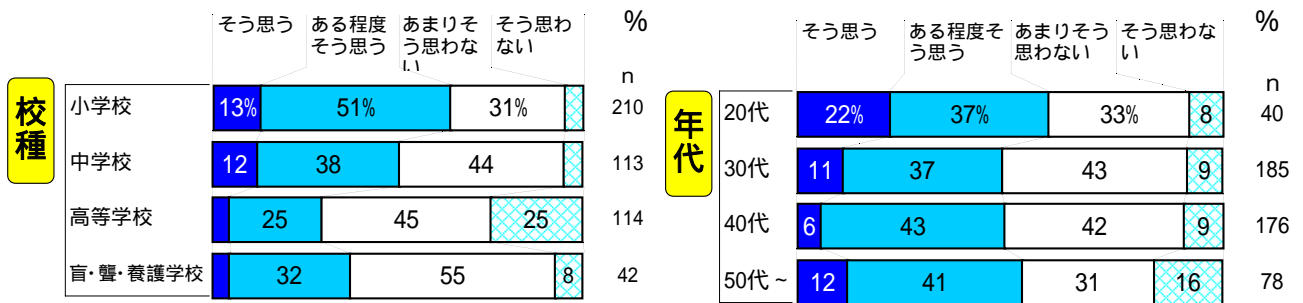
問7 連携・協力の必要性



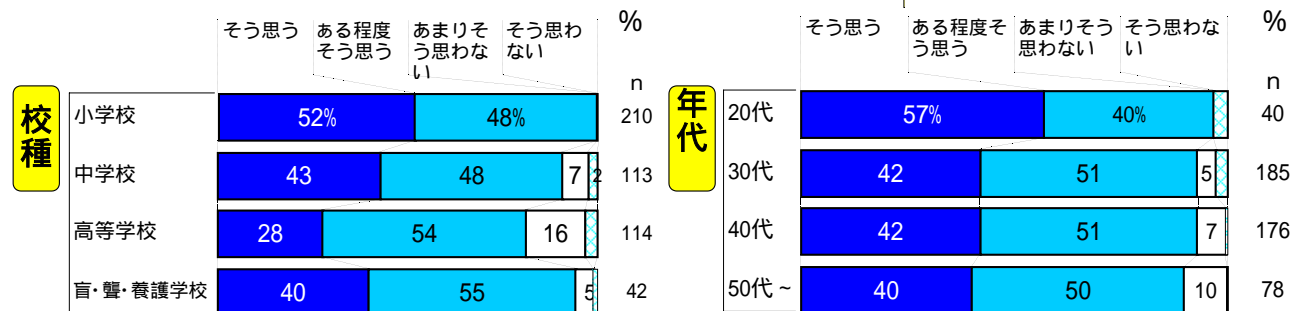
問8 地域の教育力活用の有無



問10 連携・協力の共通理解

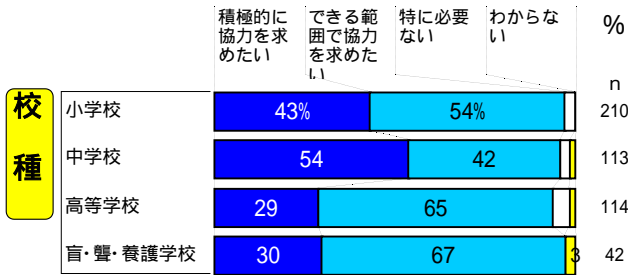


問11 連携・協力への取り組みの意志

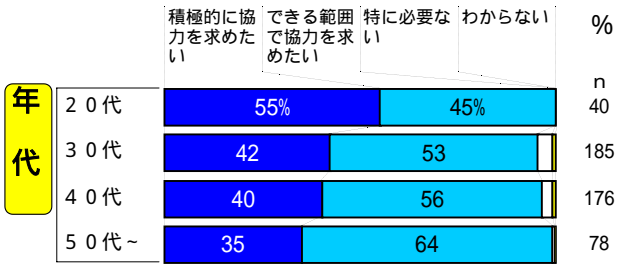


参考：学校への協力についてのクロス集計

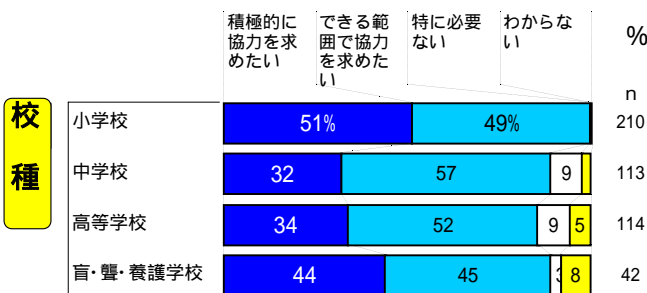
体験・奉仕など学校外活動への協力



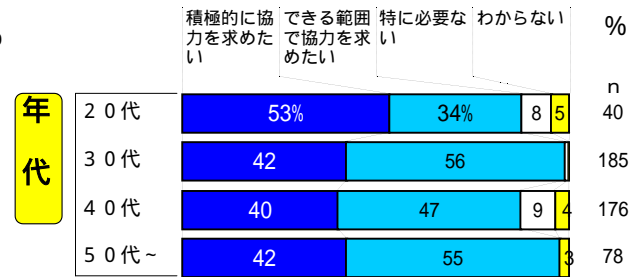
体験・奉仕など学校外活動への協力



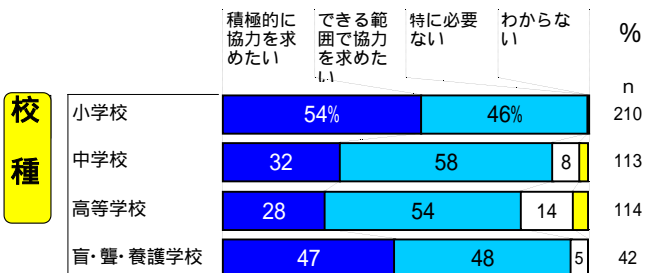
地域に根ざした教材・資料の提供



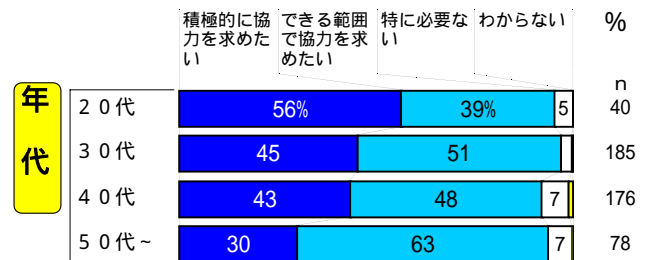
地域に根ざした教材・資料の提供



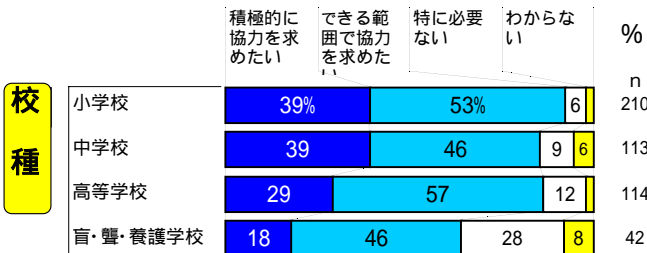
ゲストティーチャーで授業に参加



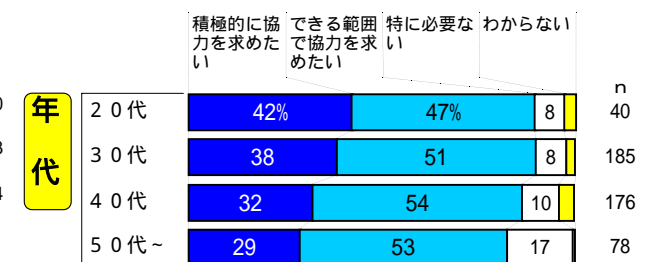
ゲストティーチャーで授業に参加



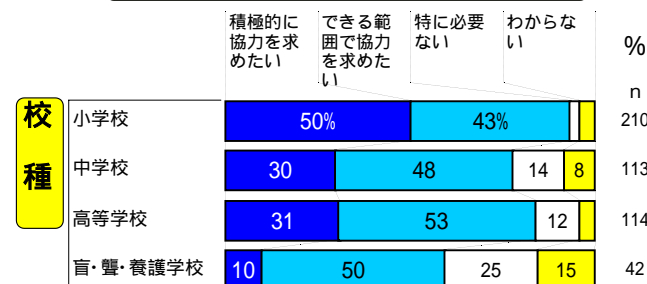
地域や学校内の巡回への協力



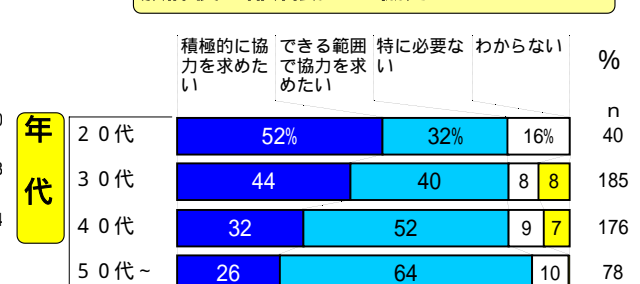
地域や学校内の巡回への協力



放課後の部活動への協力



放課後の部活動への協力



問9 地域社会の教育力を活用した結果の自由記述

分類	記述内容	件数
学 校	企画・準備、事前・事後指導について	30
	<ul style="list-style-type: none"> ・起案や書類作成など事務的な仕事が多く負担だ。 ・交渉や手続きが慣れないこともあり大変である。教師の渉外活動が増える。 ・限られた時間で企画・準備・指導するため余裕がなかった（今の学校教育は多忙すぎる） ・単学級だと一人で準備するのが大変 ・3学級以上になると事前の計画に非常に時間がかかる。（小規模校がやりやすい） ・事前・事後指導は大変ではあるが、子どもにとっても教師にとっても得るもの大きい。 	
	事前打ち合わせ・連絡調整について	30
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は平日、協力者は休日を望むなど日程が合わず、時間確保や調整が大変 ・目的やねらいを確認し、理解してもらい、それに沿った協力をしてもらうのが大変 ・面識ない人にどこまで要求できるか不安。コンタクトを取るのは気持ち的に負担が大きい。 	
	人材情報・人材確保について	23
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の人材リストがないので、その手配が大変である。 ・単発的に協力してくれるゲストティーチャーは多いが、年間通じてとなると難しい。 ・人材はインターネット等で検索できるが、学校の状況や生徒の実態に即した指導や活動のできる人材を探すのは難しい。 ・地域の人材、文化、施設について知らないことが多かったので、よい機会になった。 	
	学社融合の機構・校内体制について	11
<ul style="list-style-type: none"> ・管理職及び周りの職員の理解など学校内での協力・支援体制が重要 ・学校担当者や地域を結ぶ仲介役が、校内または校外にいてマネージしてほしい。 		
111件	学校側の問題、活用方法について	12
	<ul style="list-style-type: none"> ・任せきりや丸投げはしたくない。（講演会の講師だけの活用など） ・学校行事との重複 ・授業時数がそれにとられ、他教科に食い込んでしまう。 	
	その他の課題	5
	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段の確保が難しい。（学校から施設等まで生徒の移動が大変、学校にバスが必要） ・協力者の災害等への対応や生徒の安全確保に対する責任の所在について 	
地 域	相手側の問題	11
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの年齢に合った説明の仕方ができないと、子どもが騒ぐので汗が出る思いであった。人前で話すことに慣れた人材を捜すのが大変 ・地域社会の人は協力したいが、その方法がわからない場合がある。 ・お年寄りの方との行事は、その方々が黙々とやってくれるのでよいが、逆に、交流しているという感じがしなかった。（そば打ち等で作業中など） 	
	連携・協力について	4
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の協力・理解がなければ難しい。学校と地域の連携がとれていない。 	
24件	理解について	9
	<ul style="list-style-type: none"> ・住民にとって、学校は未だに敷居が高い存在である。学校の積極的な働きかけが必要。学校を地域に開くことで勉強になった。学校と地域社会教育の連携がとれていない。 ・事業者によっては学校の体験学習に理解不足であり、職場体験を断られることが多い。 ・地域の公共施設（社会教育）に連携を依頼しても拒否されたことがあった。 ・障害について無理解なので、受け入れてくれる場に限られる。 	
経 費 13件	予算、経費について	13
	<ul style="list-style-type: none"> ・講師への謝金、生徒の移動するときの交通費等の予算の問題、経費が不足している。 ・報酬がないので、快く引き受けてくれない場合があり頼みにくい。 	
一 般 の 他 10件	<ul style="list-style-type: none"> ・多すぎると単なるイベントの消化作業になる。 ・効果はあるが、もっと大事なことは生徒の生活指導、躰、基礎学力の定着、精神の安定化など。年に1度や2度の外部講師でできることではない。学校はあれもこれも目指すのではなく、最も重要なことにエネルギーを傾注すべき。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・成果はあるが、大学受験を目前にしては、充分な活動ができないかな。 ・地域内での人間関係、トラブルに巻き込まれることもあった。俗に言う地元の有力者等 ・大変だが、大いに成果がある 	

問11 地域社会の教育力と連携・協力しない理由

分類	項目	記述内容	件数
取り組み上の課題 19件	負担	学校の仕事だけで精一杯、準備や打ち合わせの時間的余裕がないので負担である。	10
		学校側での負担増が見込まれる。	1
	事務処理	前後の事務処理が負担に思う。	2
	情報なし	どのような人材・材料が周辺に存在するか思いつかない。	2
	体制・その他	学校の体制として難しい、専門的な機関があれば別だが。	2
単位時間が少ない。 希望はするが、子供たちの態度の悪さに怒って帰ってしまうであろう。		1 1	
な必要 6件	必要なし	科目の性格上、必要としないため。	3
		自分の担当する授業はないし、行事も特殊なので考えにくい。	1
		あまり必要性を感じない。	2
その他 4件	その他	地域が学校の教育活動に非協力的であり理解を示さない。	1
		地域社会の教育力が弱く、学校に頼りすぎていると思われるから。	1
		地域社会の教育力は学校外活動において充実させてほしい。学校は独自のすべきことをしっかりやるべきで、学校と地域が融合し地域が学校に入り込んでくるのは賛成できない。	1
		わずらわしい時があるから トラブルあり	1

第5章 分析と考察

1 県民調査の結果から

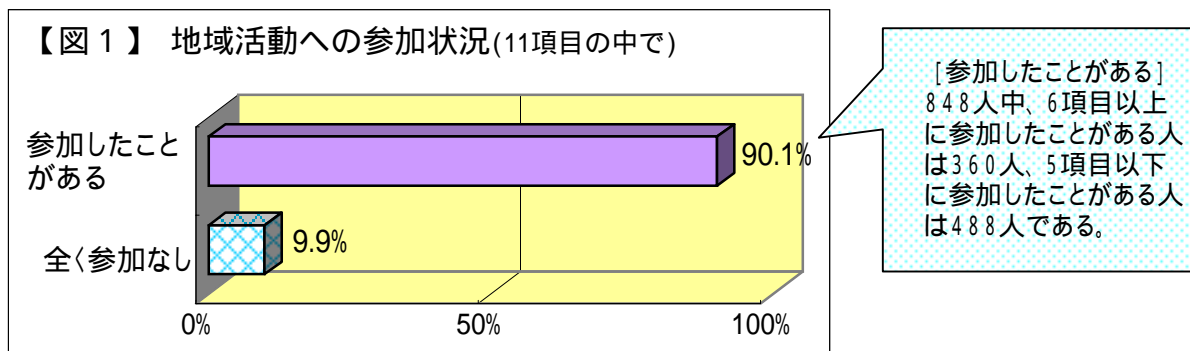
県民調査は、子どもの豊かな人間性を育むための活動について、「地域と学校を結ぶ住民の地域活動」に着目し調査を実施した。

学校、家庭、地域社会の連携・協力が必要とされる中で、家庭教育との関わりについては、昨年度当センターで調査を実施しており、平成13年度「家庭の教育力に関する調査報告書」としてまとめている。

(1) 地域活動の状況について

住民の9割(90.1%)は、何らかの地域活動に参加したことがある。

今回の調査から、県民の6割が20年以上現在の地域(住所)に住んでおり、また、4人中3人の割合で、地域の人々と近所づきあいが[ある・時にはある]という結果が得られている。その中で、何らかの地域活動に[参加したことがある]と答えた人は、約9割である。(図1参照)最も多かったのは、『地域の清掃やリサイクル活動』への参加(64%)であり、子どもの育成に関わる『学校の活動へ協力・手伝い』には、59%の人が参加していることがわかる。地域社会における人間性の希薄化が指摘される中で、全体で見ると、848人(90.1%)が何らかの地域活動に参加しており、全く参加したことがない93人(9.9%)を大きく上回っている。



地域活動への参加状況は、年代及び居住地域や居住年数により、次のような違いが見られる。

参加率が高い順に、町村部 > 五市 > 三市となる。(『高齢者と子どもの交流活動』など)

居住年数が高いほど高い。(『町内会や自治会等の役員』など)

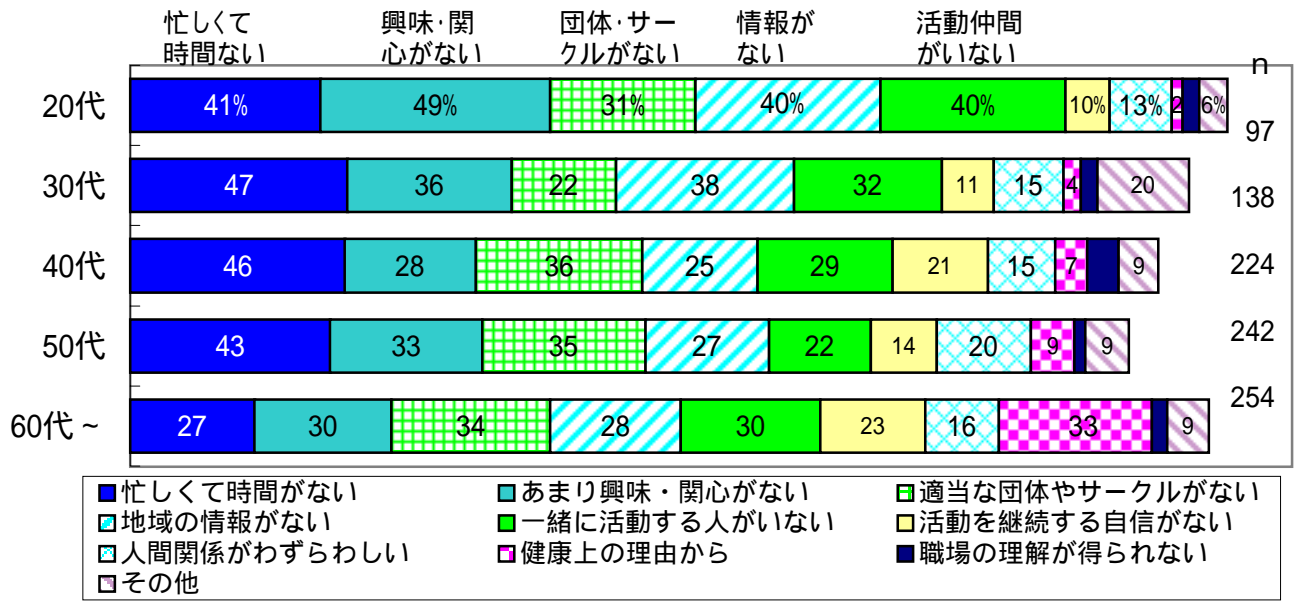
年代が上がるにつれ参加率は増す傾向にあるが、顕著な違いは見られない。しかし、『地域の防犯や交通安全活動』『子ども会やPTAの役員』など子どもに関連する項目では、40代・50代の参加率が高い。(* P61 ~ 63クロス集計参照)

また、年代により参加内容にも違いが見られる。40代は『学校の活動へ協力・手伝い』が78%で、参加の高い項目第1位であることから、学齢期の子どもを持つ親が多く学校への関心が高いことがわかる。中でも、『お祭りや行事等への協力』に20代の58%が参加したことがあると答えており、若い世代の参加が高い項目第1位であることが注目される。

地域活動に参加しない理由は、20代では[あまり興味・関心がない]、年代が上ると[忙しくて時間がない]が多くなる。

次ページ図2は、地域活動に参加しない場合の要因を探るため[参加したことがない人](地域活動11項目のうち6項目以上)にその理由を尋ねたものである。

【図2】 地域活動への参加しない理由と年代とのクロス集計



結果を見ると、年代により意識の違いが見られる。30代～50代では、「忙しくて時間がない」が第1位であるが、20代では、49%の人が「あまり興味・関心がない」を選んでおり、理由の第1位になっている。また、複数回答であることから、どの年代でも情報関係「適当な団体サークルがない、地域の情報がない、一緒に活動する人がいない」を理由にあげる人が多い。

さて、「忙しくて時間がない」ことが、活動の阻害要因としてあげられる場合が多いので、ここでは「忙しさや職業の有無」と地域活動への参加について考えてみる。P64のクロス集計結果を見ると、忙しさを感じる人が多い人が、特に、地域活動へ参加する割合が低いとは言えず、逆にやや高い傾向が見られる。また、P65の結果を見ると、職業がある人が地域活動へ参加する割合が特に低くなる傾向は見られないので、本調査からは、「忙しさや職業の有無」が阻害要因になるとは言えない。

この結果から、地域活動を活性化し地域社会の教育力につなげていくためには、例えば、20代の参加が高い『お祭りや地域の行事等』において、若い世代が興味・関心を持てるような工夫をしていくことや、「地縁」ではなく「テーマ縁」などによる新しいネットワークづくりを進めていくことが考えられる。そのためには、どの年代にとっても必要である情報が、使いやすい方法で提供されることが必要であると思われる。

(2) 子どもの豊かな人間性を育むための地域活動について

過半数の人が、子どもを育成する地域活動へ参加を希望している。

過半数の人が、学校等の教育活動へ協力意識を持っている。

全体的に見ると、子どもを育成する地域活動では、「進んで参加したい・できる範囲で参加したい」を選んだ人が過半数を超えており、『働く体験や奉仕体験の世話活動』では、73%の人が参加を希望している。『郷土の伝統芸能を伝える』や『スポーツや文化団体で指導』への参加希望が他より低くなっているのは、これらの指導が技能を持った人に限られるためと考えられる。(P28・29)

学校等への協力活動についても、全体的には、ほぼ同様な傾向が見られる。属性などとの関連で見てみると、性別・年代・子どもの有無・地域の人々との交流の程度などにより違いが見られる。

(* P67～70クロス集計参照)

地域活動や学校等の教育活動に関して、男性の参加・協力意識は高い傾向にある。

本調査では、地域活動への参加意識(5項目)と学校等の教育活動への協力意識(5項目)を尋ねてみた。その結果、『学校の授業への協力』など9項目で[進んで参加(協力)したい]男性の割合が女性を上回っており、男性の参加・協力意識は高いことがうかがえる。(『高齢者と子ども達の交流活動』を除く) (* P66・P67クロス集計参照)

図3では、今後『学校の授業へ協力』したいかどうかの集計結果であり、男性の協力意識が高くなっている。

【図3】

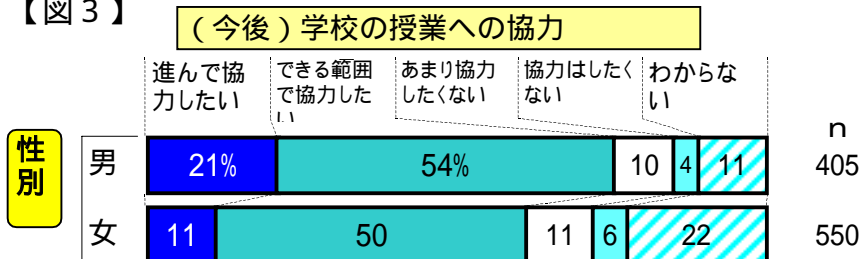
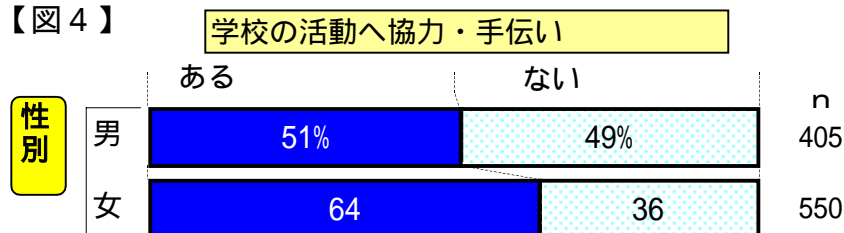


図4では、地域活動として、実際に『学校の活動へ協力・手伝い』をしたことがあるかどうかの集計結果であり、女性の参加率が高くなっている。

【図4】



学校の参観日やPTA活動への参加率は、現状では、女性の方が高い傾向にあるが、(今後)『学校の授業へ協力』したいかどうかを聞いた結果、逆に男性の協力意識が高い傾向が見られる。

他の要因(忙しさの有無・子どもの有無や参加しない理由等)と性別との関連を調べた結果、特に男性の参加・協力意識の高さと結びつくようなはっきりした相関は見られない。

(P73クロス集計参照)

このことから、本調査においては、性別が要因になるかどうかは明確ではないものの、男性の参加・協力意識が高いということが、今後の地域活動に結びついて活用されていくよう、働きかけていく必要があるものと考えられる。

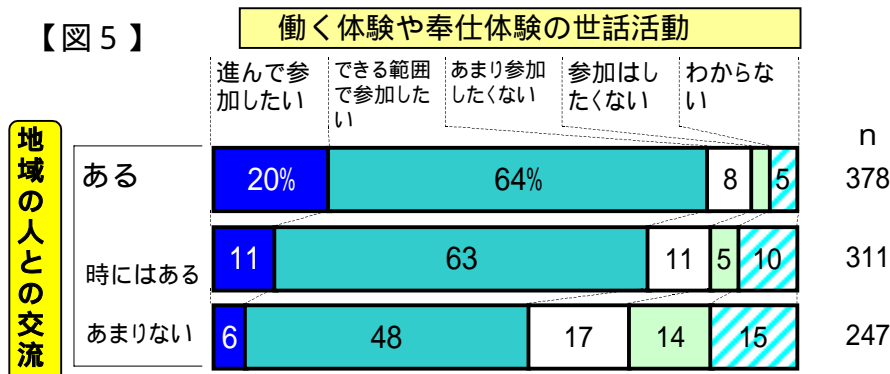
隣近所や地域の人々との交流がある人ほど、協力意識が高い。

地域の人々との交流の程度によって、住民の協力意識にかなりの違いが見られる。(図5参照) 地域活動への参加・学校等への協力(10項目頂すべて)において、地域の人々との交流が[ある]人ほど、子どもを育成する教育活動への参加・協力意識が高い結果が得られている。

(* P70クロス集計参照)

図5では、地域の人々との交流が[ある]人は、『働く体験体験の世話活動』へ[進んで参加したい・できる範囲で参加したい]が84%になっている。

【図5】



(3) 県民の学習活動等への参加と協力意識について

学習活動等によく参加する人ほど、地域活動や学校への協力意識が高い。

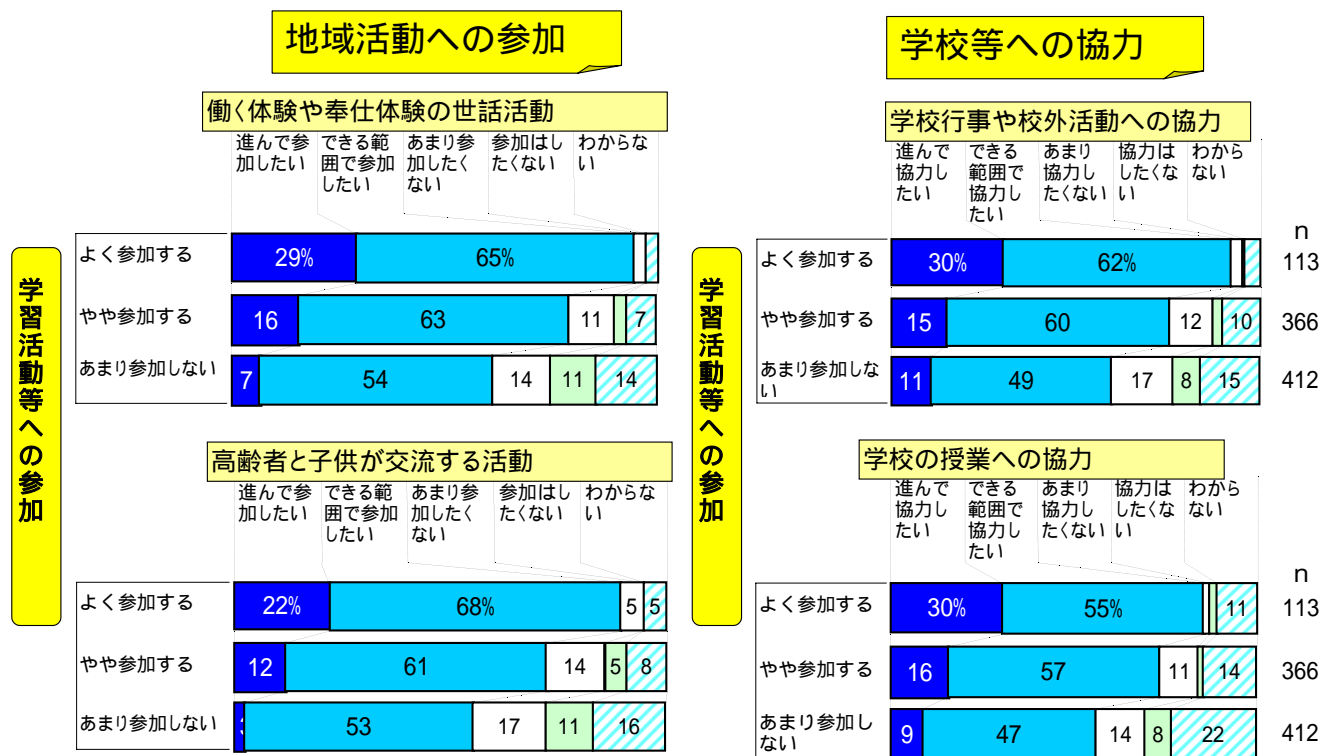
『図書館や公民館、博物館などの文化的な施設を利用する』ことや、『町内会・子ども会・老人会など地域の団体活動へ参加する』ことなど、学習活動や社会参加活動への参加状況と、子どもの豊かな人間性を育むための地域活動及び学校等への協力に対する意識をクロス集計したところ、学習活動等への参加が多い人ほど「進んで協力したい」という回答が多く、地域での子どもの教育活動に積極的に参画する意欲が高い傾向が見られる。

普段から『趣味、教養、スポーツ、習いごとなどに参加』したり、『図書館や公民館などを利用する』人や、『地域の活動(お祭りや清掃など)に参加』する人は、地域内の学校やそこを取り巻く自然環境・生活環境への関心が高く、地域の人々との交流や付き合いも盛んであり、地域での子どもの支援に積極的であることがわかる。

生涯学習を通じて学んだ地域の人々が、学校を支援することを通じて自らのまちへの帰属意識を高め、さらには今後の地域振興に大きな役割を果たすものと考えられる。

(* P72クロス集計参照)

【図6】 学習活動等への参加と参加・協力意識のクロス集計



県民の学習活動及び地域活動等への参加(以下、「学習活動等への参加」とする)と、協力意識の関係を調べるために、以下の方法により、回答者を3つのグループに分類した。まず、問12「自由な時間があるときは、次のようなことをどの程度するか」の中から5項目を選び、それぞれについて[よくする]を4点、[時にはする]を3点、[あまりしない]を2点、[ほとんどしない]を1点とした。次に、回答者ごとに選んだ選択肢の得点を合計し、「学習活動等への参加」得点を算出した。その得点が15点以上であれば「よく参加する」グループ、10点以上15点未満であれば「やや参加する」グループ、10点未満であれば「あまり参加しない」グループに分類した。学習活動等への参加状況を測るために選んだ項目は、『趣味、教養、スポーツ、習い事などに参加する』『地域の活動(お祭りや清掃など)があるときは参加する』『音楽会や展覧会、講演会など催し物に参加する』『町内会、子ども会など地域の団体活動に参加する』『図書館や公民館など文化的施設を利用する』の5項目である。

2 教員調査の結果から

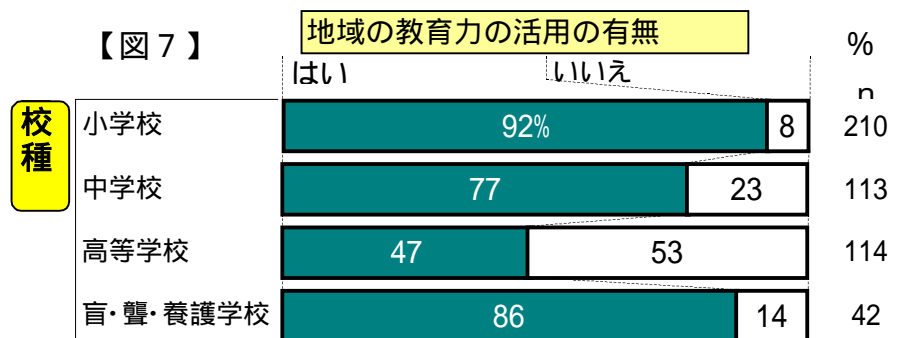
教員調査は、子どもの豊かな人間性を育むために、「地域の力を教育に活かす」ことに着目して調査を実施した。

(1) 地域社会の教育力の活用について(実態)

教員の77.2%が、地域社会の教育力を活用した取り組みを「行ったことがある」と答えており、4人中3人の割合で活用していることがわかる。

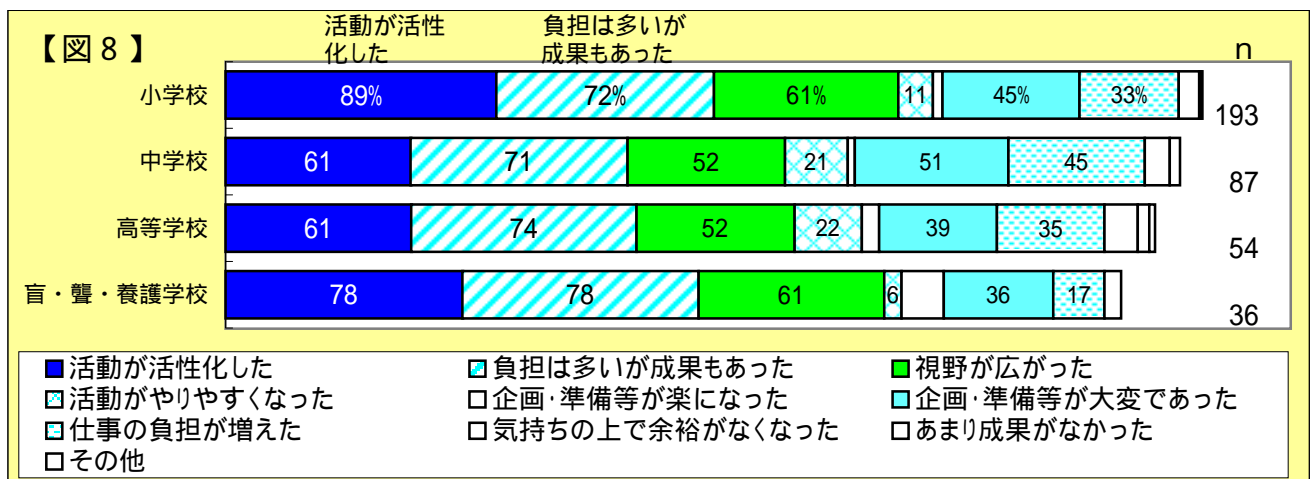
本県では、平成9年第3次青森県長期総合教育計画において、学社融合の推進が策定されている。本調査では、その後の学社融合の進展による個々の教員の取り組み状況や今後の意識を尋ねてみた。図7は、地域の教育力活用の有無を校種別に表したものである。調査対象は、学校行事や総合的な学習の時間などの担当者が教諭以外の場合も考えられるので、教諭及び養護教諭とした。

小学校では92%の教員が、地域社会の教育力を活用した取り組みを行っており、活用率が最も高い。次に、盲・聾・養護学校、中学校、高等学校の順になっており、活用率はそれぞれ86%、77%、47%である。



活用した結果の第1位は、小学校では「活動が活性化した」、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校では「負担は多いが成果もあった」であり、肯定的に評価する項目が上位を占めている。

図8は、「活用したことがある」教員370人の結果を、校種別に表したものである。活用の結果を、成果と負担の両面を含めて聞いてみたところ、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校では「負担は多いが成果もあった」が第1位で、それぞれ71%、74%、78%である。小学校ではさらに進んで「活動が活性化した」を選んだ教員が89%おり、活用結果の第1位になっている。このことから、地域社会の教育力の活用は、学校現場では頻繁に行われるようになってきており、学校教育の重要な要素になってきていることがわかる。



「活用したことがある」と回答した人(370人)の集計

(2) 連携・協力の課題と今後の取り組み意識について

連携・協力について、職員間での共通理解の状況は半々である。
 今後の取り組みについては、大部分の教員が肯定的な回答をしている。

地域社会の教育力との連携・協力について、職員間で十分な共通理解がなされているかの設問では、[「そう思う・ある程度そう思う」と「あまりそう思わない・そう思わない」]を選んだ割合がほぼ半々になっている。

他方、今後の取り組みについては[「そう思う」]43.1%、[「ある程度そう思う」]50.0%であり、大部分の教員が取り組みに肯定的な意見を持っている。それ以外を選んだ人の理由は、負担の大きさを理由にあげている場合が多い。
 (* P45自由記述参照)

今後、連携・協力したい相手は校種により異なる。
 (* P76クロス集計参照)

小学校	: 1 [地域住民]	63%	2 [社会教育施設]	45%
中学校	: 1 [社会福祉施設]	46%	2 [民間企業・団体]	44%
高等学校	: 1 [民間企業・団体]	50%	2 [地域住民]	37%
盲・聾・養護学校	: 1 [地域住民]	65%	2 [他の学校]	48%

(3) 地域住民へ協力を依頼することについて

教員が、学校の授業や教育活動に対して、地域住民の協力を望む割合はかなり高い。

『体験・奉仕など学校外活動への協力』では、96%の教員が[「積極的に協力を求めたい・できる範囲で協力を求めたい」]と回答している。全体的に見ると、『学校行事の運営への協力』を除き、どの項目でも85%以上の教員が協力を望んでいる。『学校行事の運営への協力』が低いのは、学校行事の例として遠足や運動会をあげているため、高等学校の教員をはじめ全体的に希望が少なくなっており、必要性を感じていないことが考えられる。
 (* P40・P43・P75クロス集計参照)

また、校種により協力を望む内容に違いが見られる。小学校では、どの項目でも全体的に高い傾向が見られるが、中学校では『体験・奉仕など学校外活動への協力』に[「積極的に協力を求めたい」]が54%であり、他の項目に比べてかなり高くなっている。

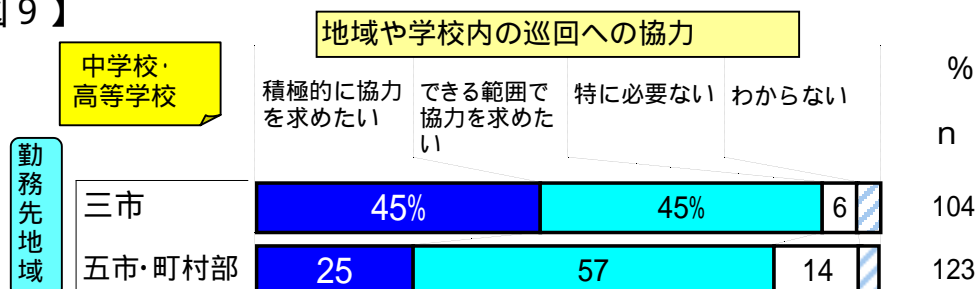
積極的に協力を望む傾向は、どの項目でも若い教員によく見られる。

地域住民への協力依頼は、[「積極的に」][「できる範囲で」]を含めると、年代に関わらずどの年代でも高い傾向が見られる。中でも、20代の教員の場合は『体験・奉仕など学校外活動への協力』に55%が[「積極的に協力を求めたい」]を選んでおり、他の項目でも積極的に協力を求める傾向が見られる。この結果から若い教員は、地域住民と連携・協力した教育活動への意欲が高いことがわかる。
 (* P43クロス集計参照)

三市の教員は、他の地域に比べて『地域や学校内の巡回への協力』を望む割合が高い。

『地域や学校内の巡回への協力』の項目では、中学校・高等学校の場合、三市の教員と他の地域(五市・町村部)の教員では、違いが見られる。三市の中・高校では、地域及び学校内での巡回の必要性を感じていることがうかがわれる。

【図9】



3 調査結果の比較から

ここでは、県民調査と教員調査の2つを比較して、子どもの豊かな人間性を育むために、地域社会と学校が連携・協力して活動することに対する意識や問題の実態を明らかにし、今後の学社融合に繋げていくために重要なことを考察する。

(1) 地域住民と教員の協力意識について

住民が、地域活動により学校へ協力する意識は高い。

教員が、学校の授業や教育活動に対して地域住民の協力を望む割合はかなり高い。

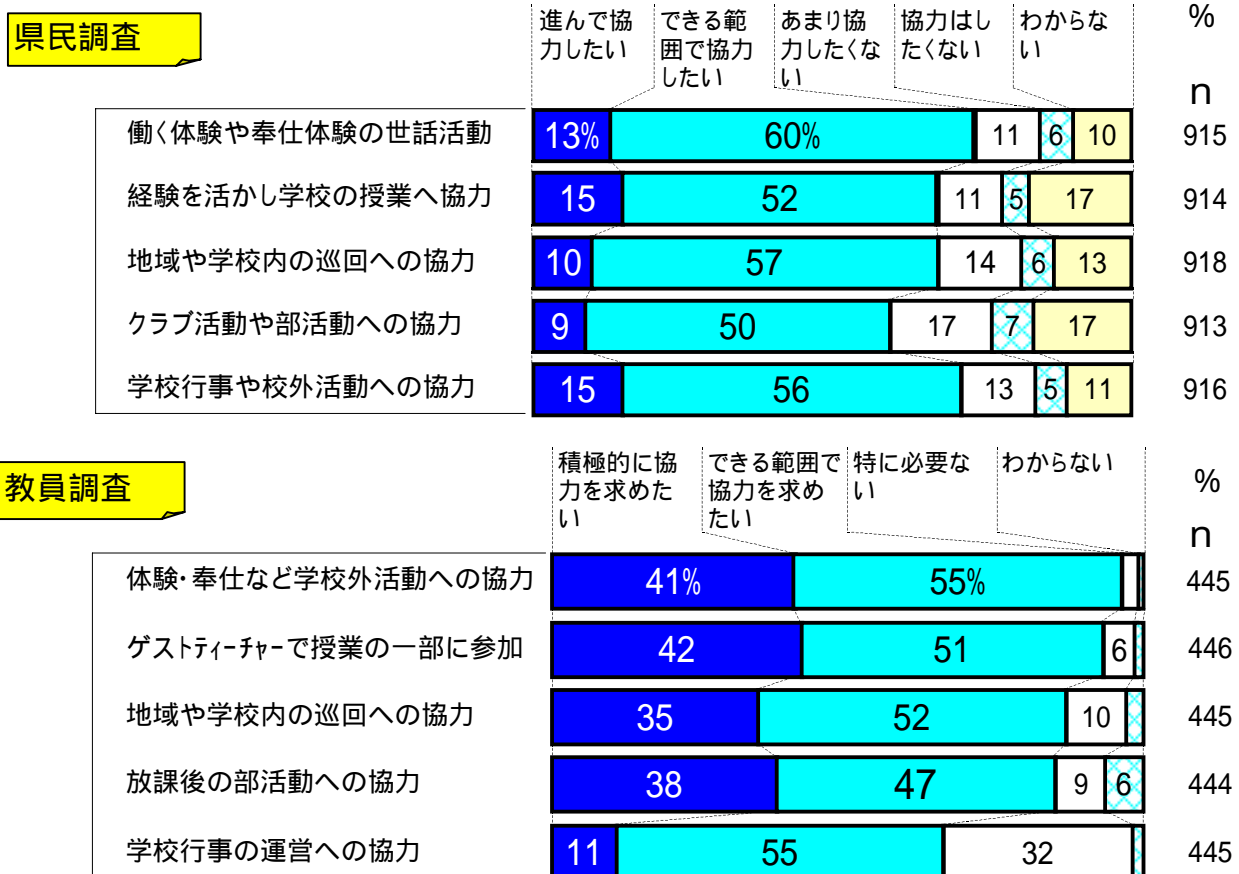
図10は、「地域住民が学校に協力する意識」と「教員が地域住民に協力を望む意識」をまとめたものである。(番号が同じものは同じ内容になっている)

『働く体験や奉仕体験』について、県民調査では[進んで協力したい]13%に対し、教員調査では[積極的に協力を求めたい]41%である。また、『学校の授業』について、県民調査では[進んで協力したい]15%に対し、教員調査では[積極的に協力を求めたい]42%になっている。

この結果から、学社融合の推進により、学校側では地域の教育力を受け入れ、活用したいという意識が高まってきていることがうかがえる。住民側では、学校と協働して教育活動を進める考え方が十分広まっていないにもかかわらず、過半数の人が教育活動への参加を希望しているので、学社融合への機が熟してきていると思われる。

また、「地域住民」「教員」とも、子どもの徳性を育てるのは[学校と地域社会の両方の役割]と回答する人がかなり多い。そこで、子どもの豊かな人間性を育むために地域・家庭だけではなく、学校だけでは難しいことでも、三者が連携・協力することでよりよい活動に発展させていけるよう、お互いを繋ぐものが必要になると考えられる。

【図10】(地域住民と教員の意識の比較)



(2) 地域と学校の連携・協力について

『地域と学校が協力への理解を深める』は、「地域住民」「教員」どちらにも共通する最重要項目である。

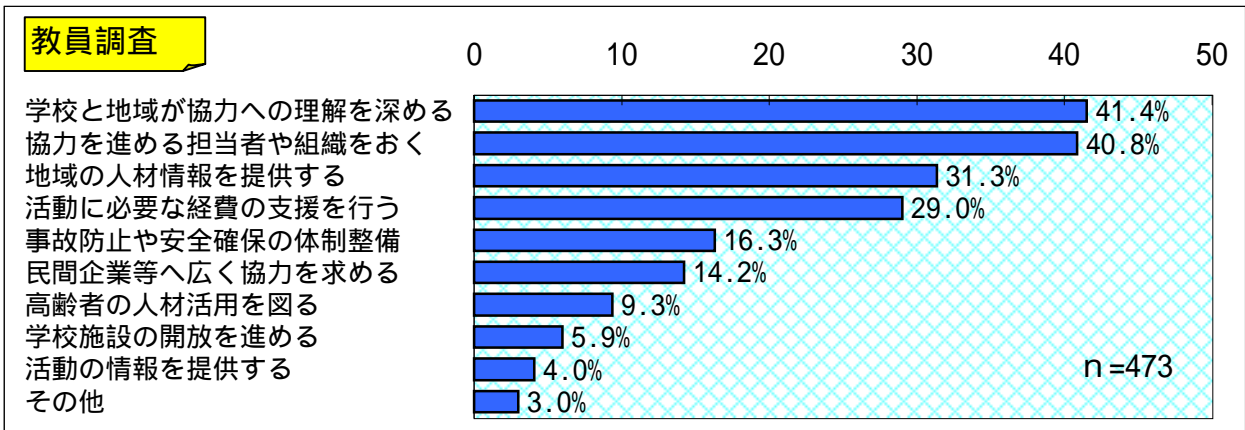
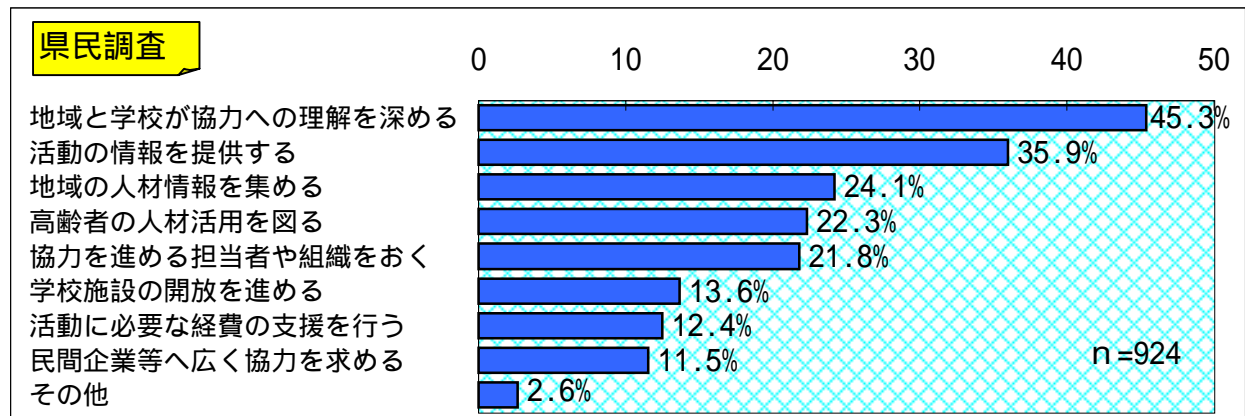
図11は、県民調査と教員調査において「協力を重要なこと」を聞いた結果である。『協力への理解を深める』について、県民調査では45.3%、教員調査では41.4%の人が選んでおり、今後、地域と学校が協力して子どもを育てていく上で、まずは互いの理解が重要であることを相互に感じていることがわかる。

また、県民調査では、『協力への理解』の次に『活動の情報』『人材情報』をあげているが、教員調査では、第1位の『協力への理解』とほぼ同じ割合で『協力を進める担当者や組織をおく』を選んでいる。この結果から、お互いに『協力への理解』を図り、次に実際の連携・協力を進めるためには、県民は『情報』が必要であるとし、教員の場合は『進める担当者や組織』を希望していることがわかる。

教育現場においては、地域社会の教育力を活用した取り組みが既に進んでおり、小学校では92%、中学校では77%の教員が「行ったことがある」と答えている。次に、活用した結果の問題点として、自由記述では「事前の打ち合わせ・連絡調整が大変である」という意見が最も多い。具体的には「面識ない人にどこまでお願いできるかわからず不安」「目的やねらいを理解してもらい、それに沿った協力をしてもらおうが大変」などであり、お互いの理解や意思伝達の面で負担を感じていることがわかる。

このように、学社融合への取り組みは進んでいるが、まだまだ活用する上での課題が多いことが推察される。学社融合をよりよい形で進めていくためには、学校、家庭、地域社会の三者の理解と連携・協力が重要であり、今、子どもが置かれている様々な社会的状況や問題に対して、学校だけで対処するより地域社会を受け入れそれら三者が連携・協働することで、いっそう効果的に問題解決が図られるものと思われる。

【図11】 地域と学校の協りに重要なこと



学校、家庭、地域社会が連携・協力していくために、県民調査及び教員調査の2つの結果からわかるように、子どもの徳性を育てるのは、家庭はもちろんのこと地域社会と学校の両方の役割であることを共通理解し、子どもの豊かな人間性を育むための活動は、学校、家庭はもちろんのこと地域社会においても必要であることを共通理解していくことが重要である。実際に活動を進めるためには、生涯学習等を通じて、地域住民が子どもや学校のことを理解することが必要であり、学校は子どもや学校をとりまく状況について情報を発信しながら、お互いに理解を深めていくことが重要と考えられる。

さらに、相互理解から実際の教育活動に発展させていくためには、教員からの要望が高い『連携・協力を進める担当者や組織おく』ことに関して、学校と地域社会の双方を繋ぐようなコーディネートする体制を整備していくことが今後の課題と考えられる。



あとがきに代えて(委員会より)

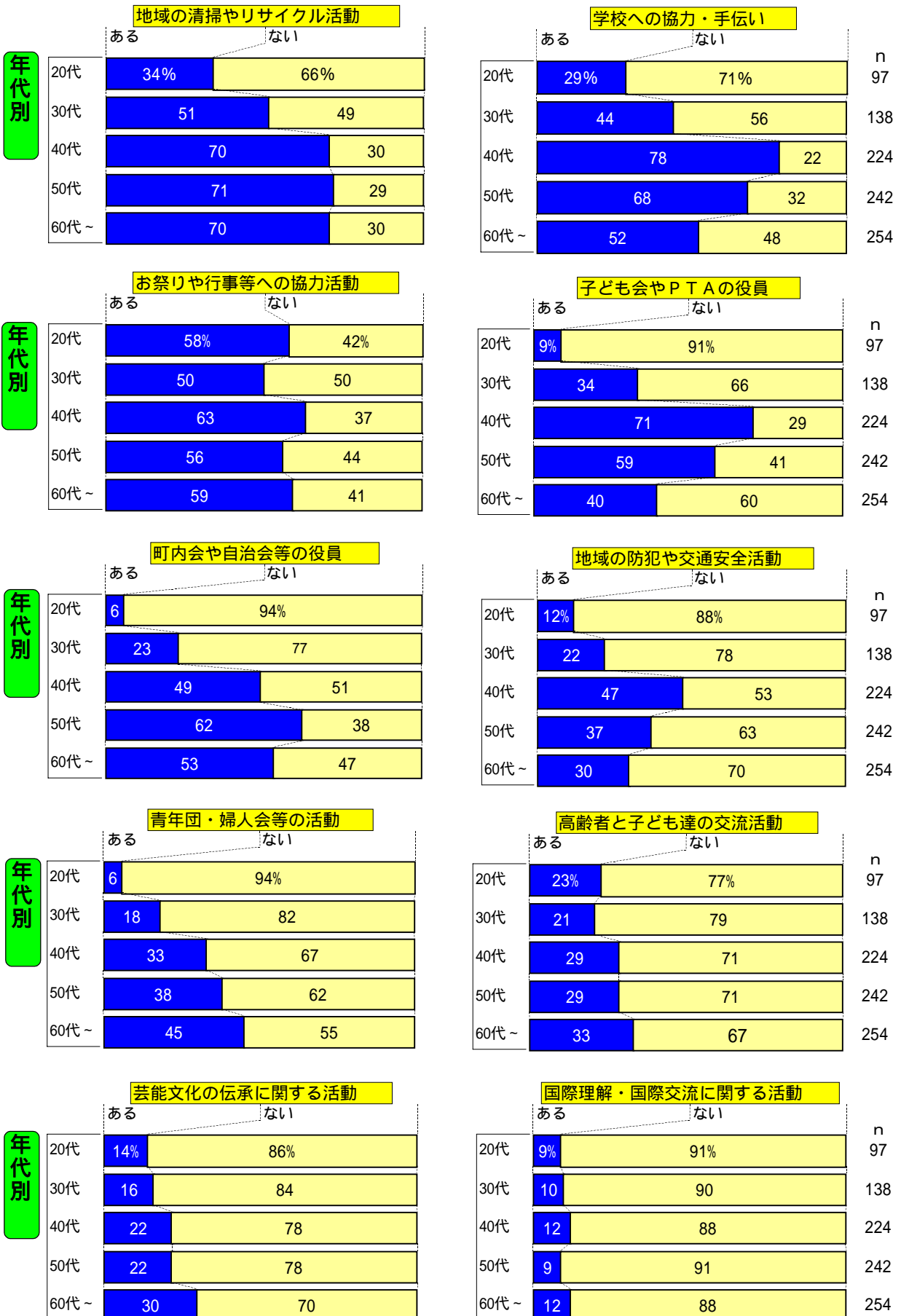
この現代的課題の学習に関する調査研究「子どもの豊かな人間性を育むための活動に関する調査」は、地域と学校を結ぶ住民の地域活動を、地域の力として県民の教育に活かすためには、先ず本県の特徴を生かした地域活動と学社融合との関わりについて、県民や教員の意識や実態を明らかにしなければならないと考えて、平成14年9月から平成14年12月までの約4か月に渡って行われた県民および教員調査に分析と考察を加えてまとめられた青森県総合社会教育センター研究開発課の調査報告書である。この調査研究の目的は、大きく分けて次の二つに求められる。その一つは、都市化や過疎化及び人間性の希薄化に伴う地域社会の教育力の低下の中で、どうしたら地域の人々が気軽に日常的に子どもの心の成長を育む地域活動に参加することができるのか、その教育意識や具体的実際的な方法について探求することであり、二つには、それらに基づく地域社会の子どもの豊かな人間性を育む学習活動を推進するために、学社融合による地域と学校との協働型の先駆的な学習プログラムを研究開発する際の基礎資料を提供しようとするものである。今回の調査研究で最も注目される点は、県民も教員も一様に地域の教育力としての地域活動の必要かつその重要性を指摘し、そして生きる力を育む具体的な地域活動としては、子どもの働く体験や奉仕活動の必要とその問題点を挙げ明らかにされていることである。これは、欲望を抑え我慢する気持ちが足りない今の子どもを、真に豊かな子どもの人間性を育むための学習活動として、今こそ子どもの体験活動や奉仕活動が必要不可欠である、と県民に考えられているからであろう。21世紀は、心が重視される時代である。そこに求められている人間像は、IQ(知能指数) + EQ(倫理指数)の人間である。残忍性の高い人はEQの低い人であり、EQの高い人は奉仕度の高い人間である。それは、社会に何らかの形で役に立つ人間である。そして地域や学校が子どもの体験活動や奉仕活動を実践するに当たって最も大きな問題点は、県民も教員も共に、地域と学校がその協力への理解を深めることの不可欠性で、この両者の協力への理解が地域社会における子どもの体験活動や奉仕活動の成否の鍵となっていることである。この問題は、今後の地域と学校の協働についての学習プログラムを研究開発する際の最も大きな研究課題かも知れない。この調査報告書を作成するに当たっては、いちいち挙げないが、6名の調査研究委員と同じく6名の県生涯学習課及び県総合社会教育センターのスタッフが一丸となって総力を挙げて取り組み、情熱をもって時には激しい議論を戦わせている。それだけに、この調査報告書がこれからの子どもの豊かな人間性を育むための学習活動の研究開発とその実践のために、日本の生涯学習をリードする新しい風となって生かされるように祈念してペンを置きたいと思う。

野口 伐名 (委員会座長)

資料編

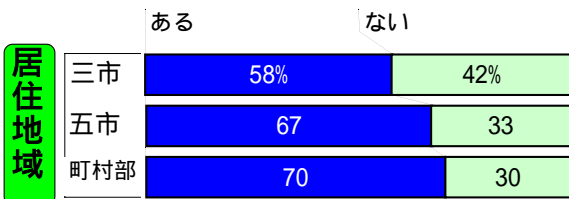
クロス集計結果	61
集計データ	77
県民調査の調査票	81
教員調査の調査票	88
委員名簿、委員会日程	92

問18 年代と地域活動への参加 (クロス集計資料1)

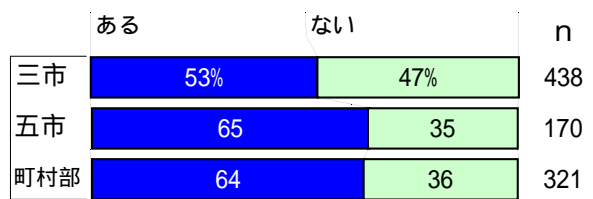


問18 居住地と地域活動への参加 (クロス集計資料2)

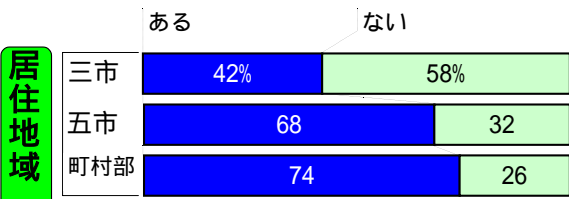
地域の清掃やリサイクル活動



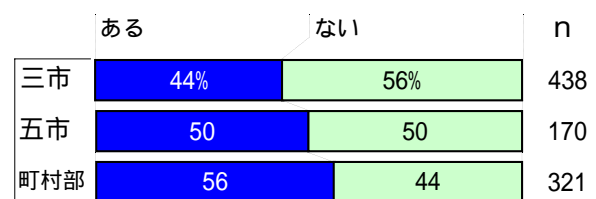
学校への協力・手伝い



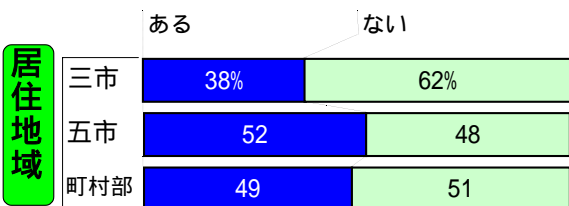
お祭りや行事等への協力活動



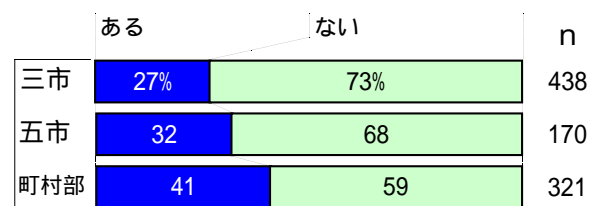
子ども会やPTAの役員



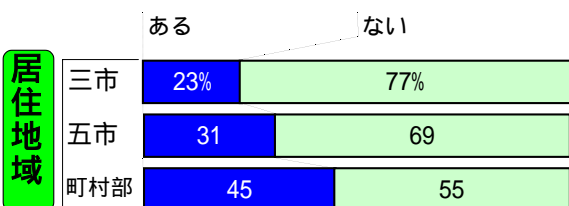
町内会や自治会等の役員



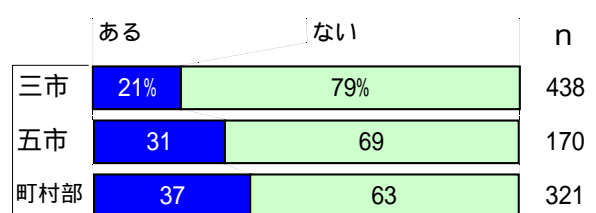
地域の防犯や交通安全活動



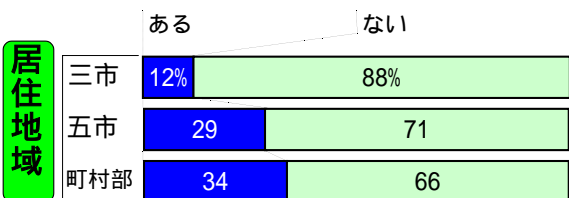
青年団・婦人会等の活動



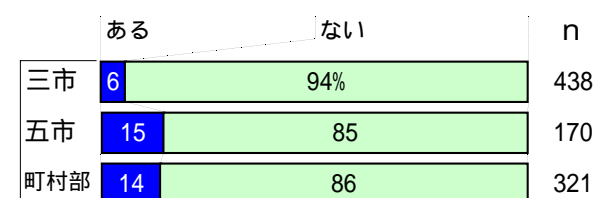
高齢者と子ども達の交流活動



芸能文化の伝承に関する活動

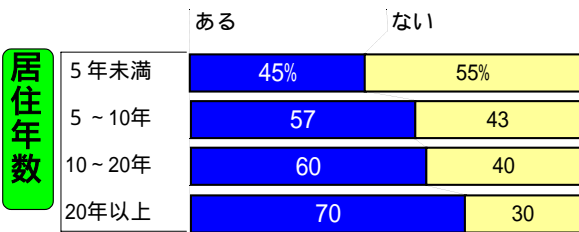


国際理解・国際交流に関する活動

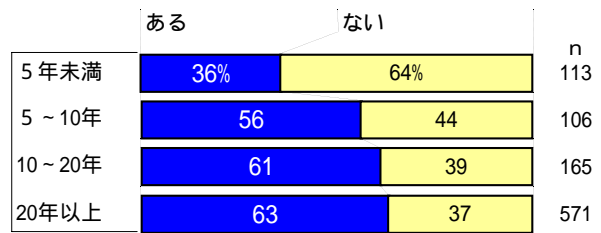


問18 居住年数と地域活動への参加 (クロス集計資料)

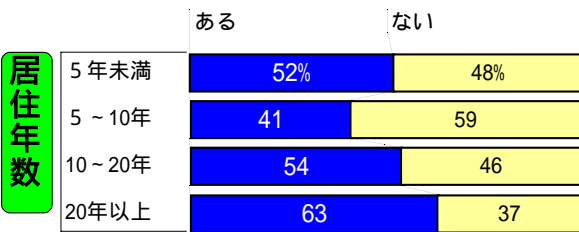
地域の清掃やリサイクル



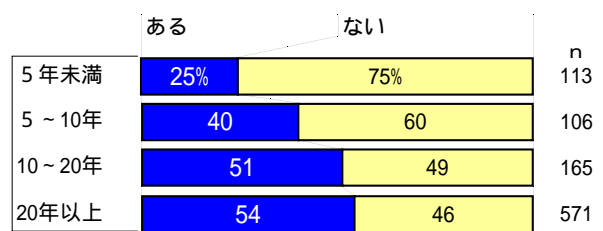
学校への協力・手伝い



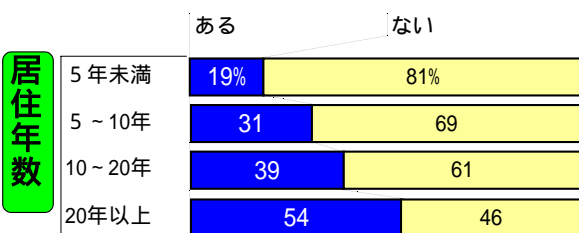
お祭りや行事等への協力



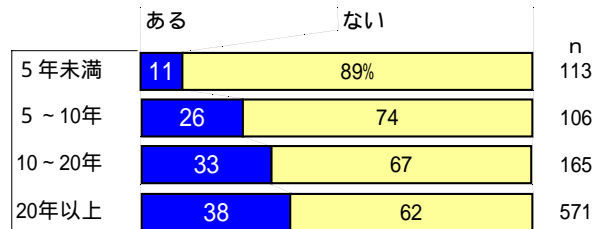
子ども会やPTAの役員



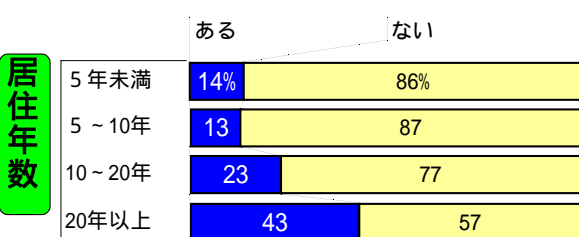
町内会や自治会等の役員



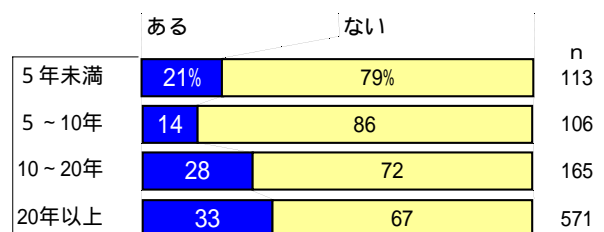
地域の防犯や交通安全活動



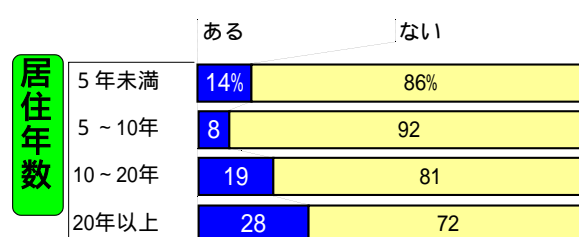
青年団・婦人会等の活動



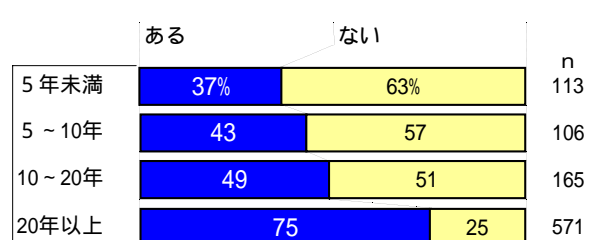
高齢者と子ども達の交流活動



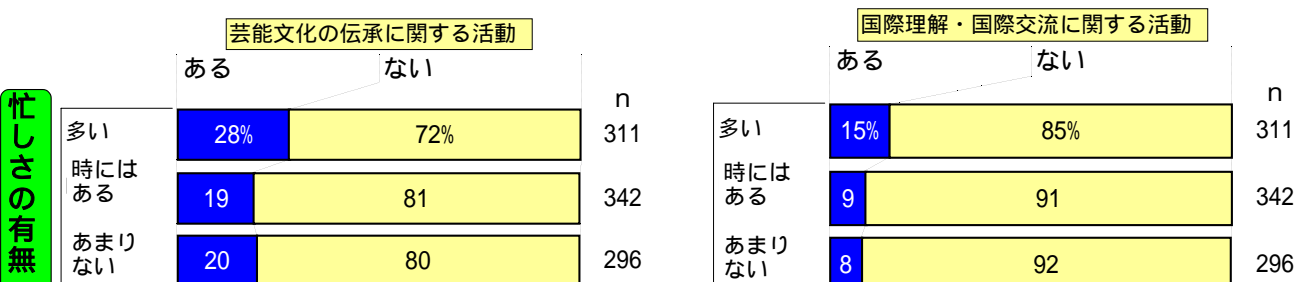
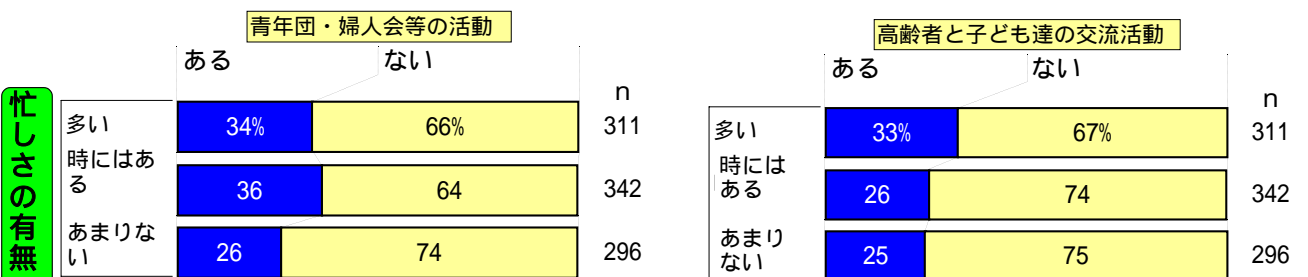
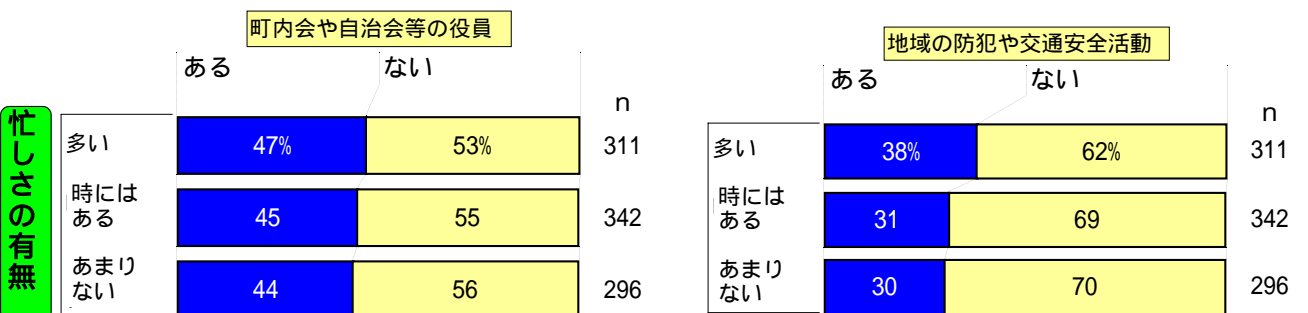
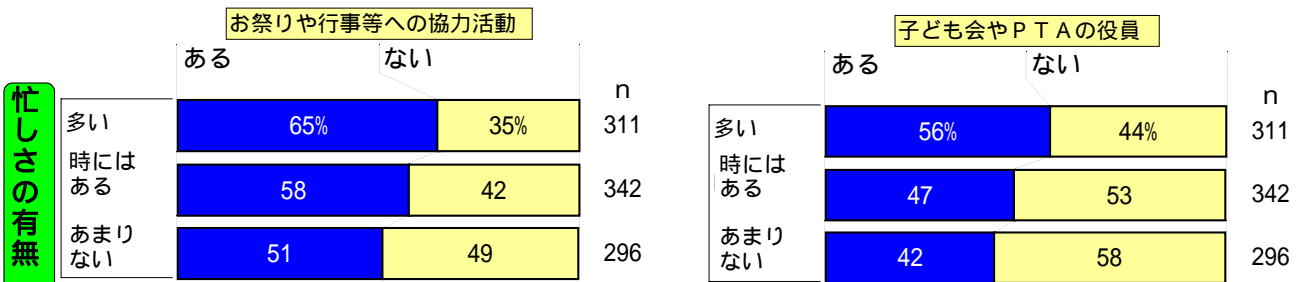
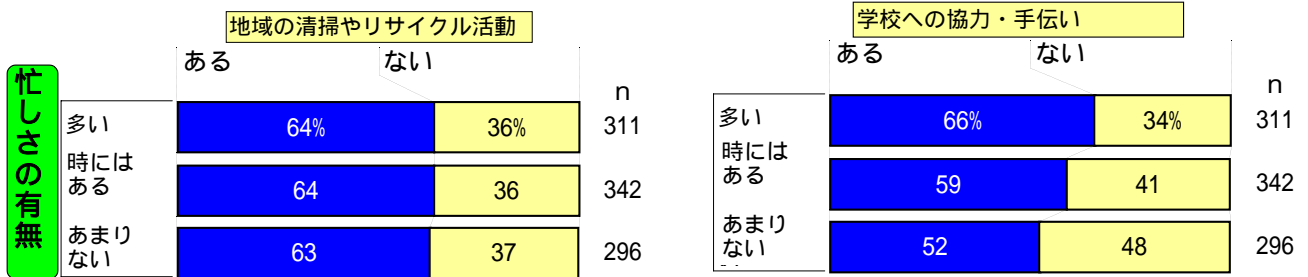
芸能文化の伝承に関する活動



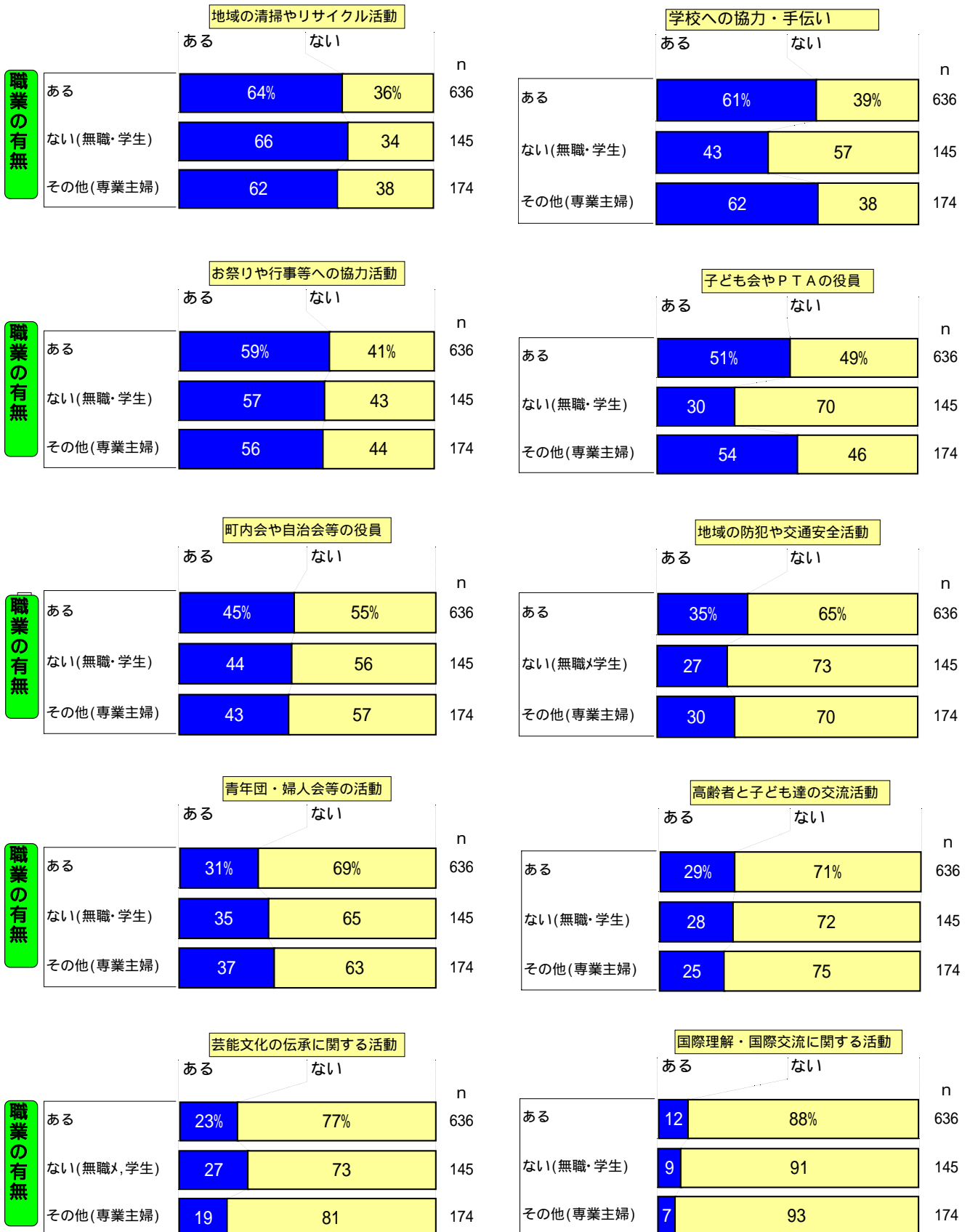
祝いごとや不幸の手伝い



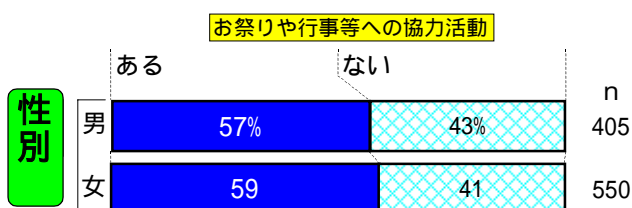
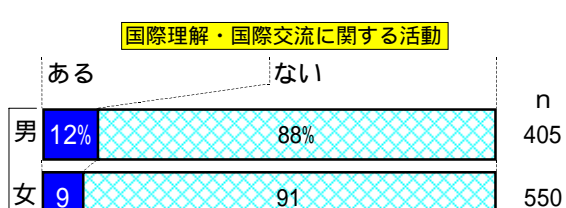
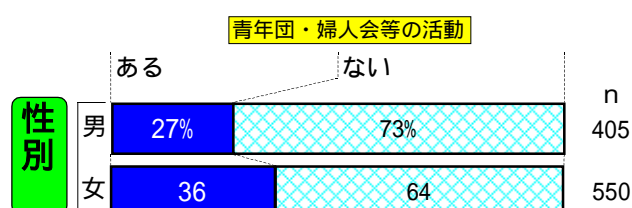
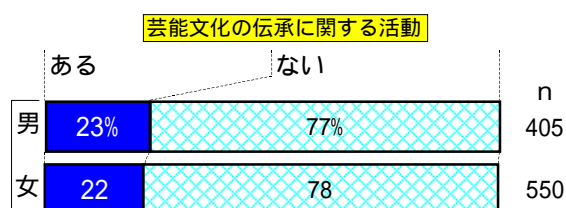
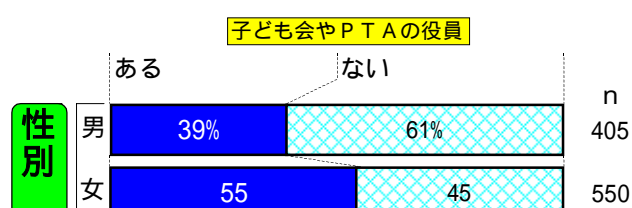
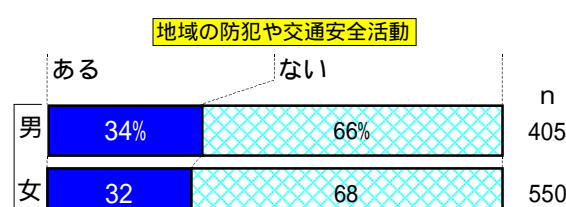
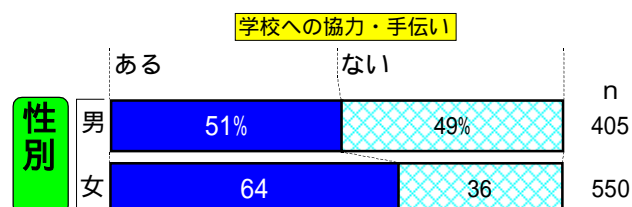
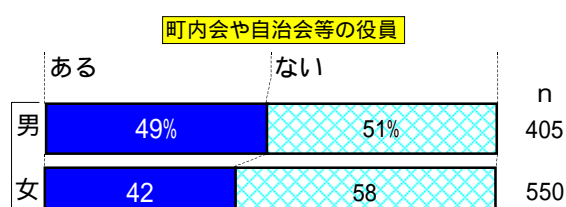
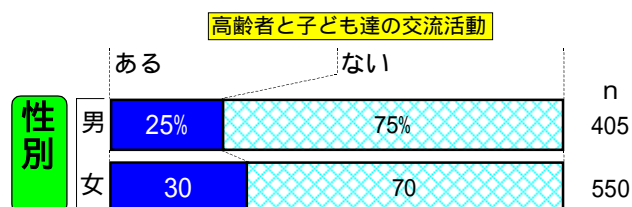
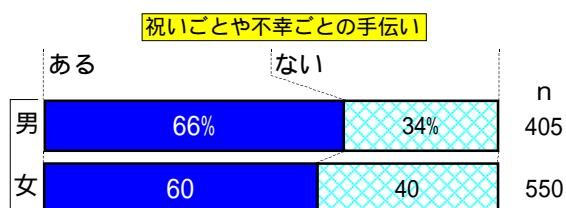
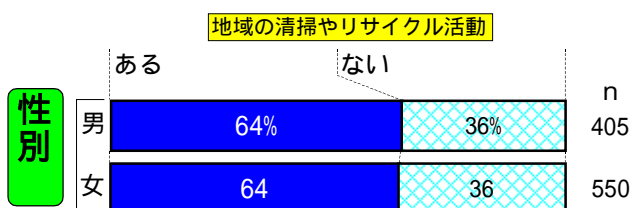
問18 忙しさの有無と地域活動への参加(クロス集計資料)



問18 職業の有無と地域活動への参加 (クロス集計資料5)



問18 性別と地域活動への参加 (クロス集計資料6)

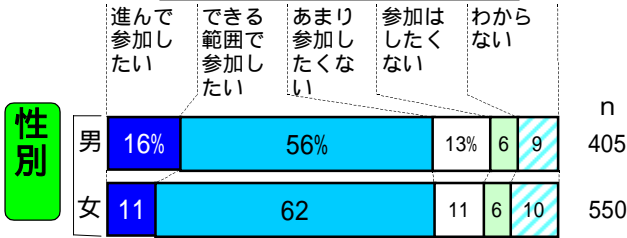


性別と参加・協力意識

(クロス集計資料7)

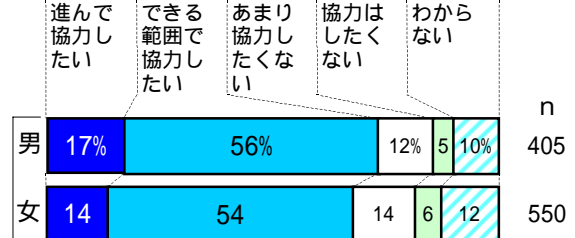
地域活動への参加

働く体験や奉仕体験の世話活動

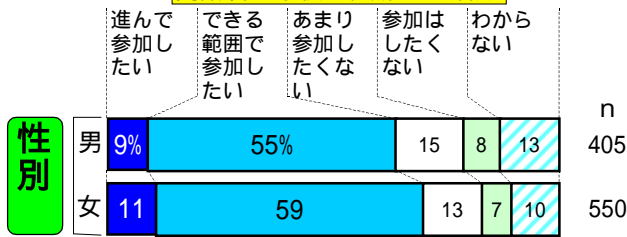


学校等への協力

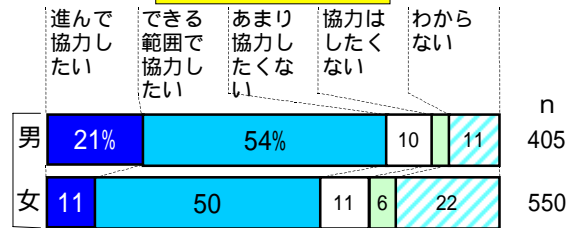
学校行事や校外活動への協力



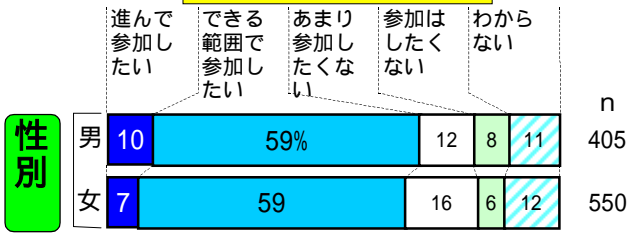
高齢者と子供が交流する活動



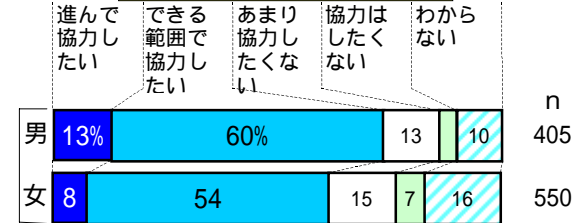
学校の授業への協力



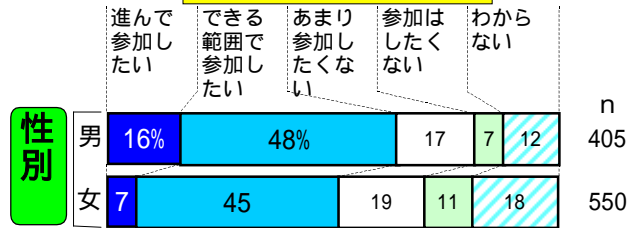
子ども会で子供の世話活動



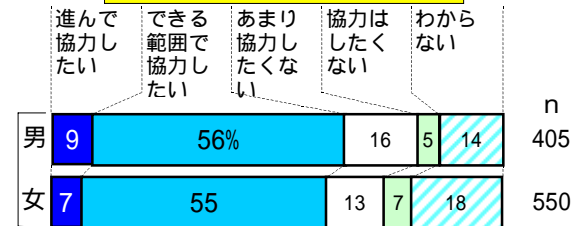
地域や学校内の巡回への協力



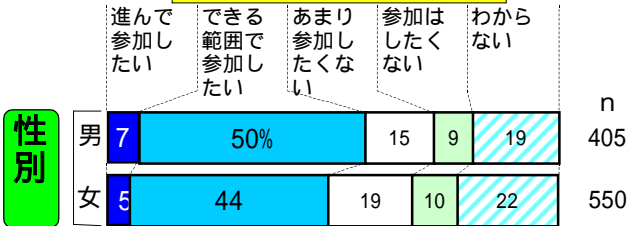
スポーツや文化団体で指導



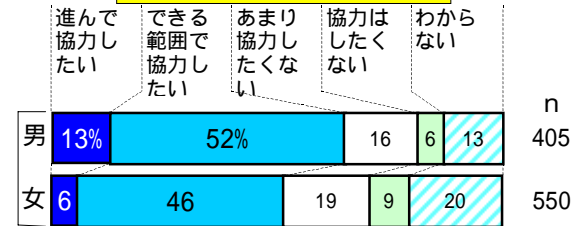
公民館や図書館等で子供の指導



郷土の伝統芸能を伝える活動



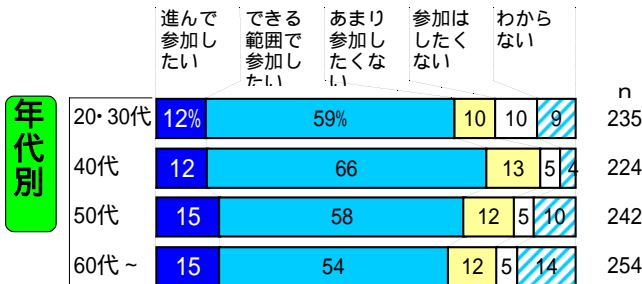
クラブ活動や部活動への協力



年代別と参加・協力意識 (クロス集計資料 8)

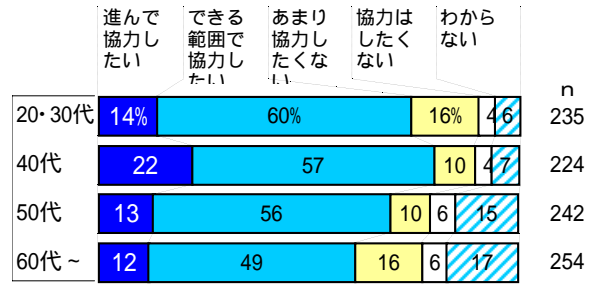
地域活動への参加

働く体験や奉仕体験の世話活動

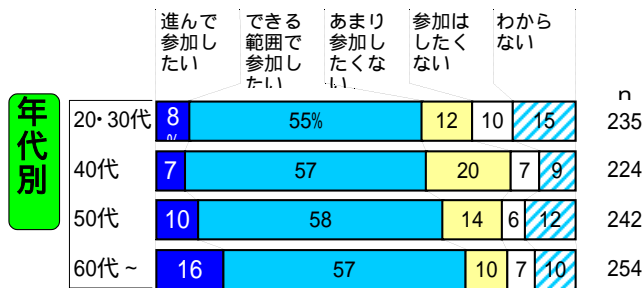


学校等への協力

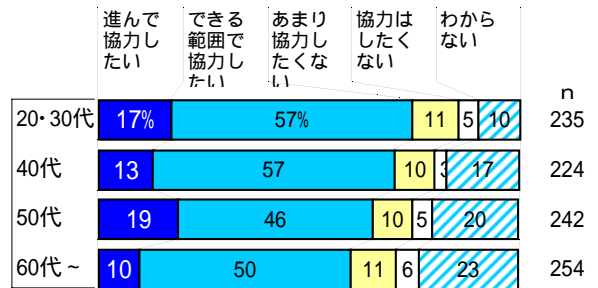
学校行事や校外活動への協力



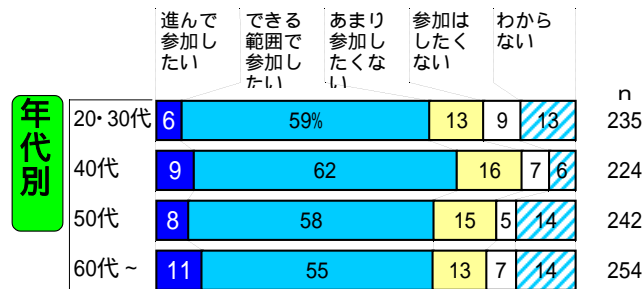
高齢者と子供が交流する活動



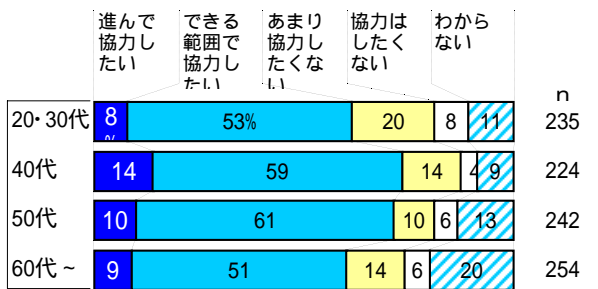
学校の授業への協力



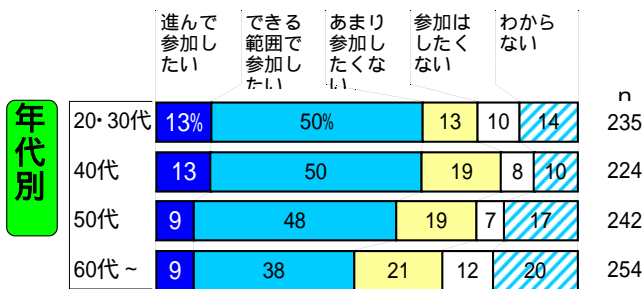
子ども会で子供の世話活動



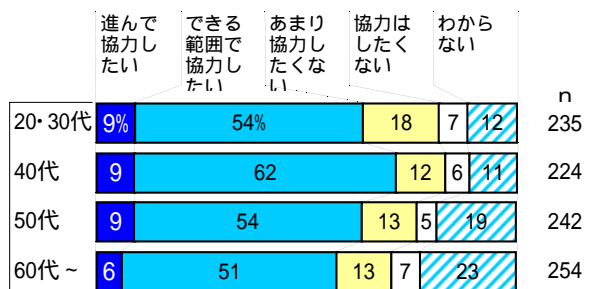
地域や学校内の巡回への協力



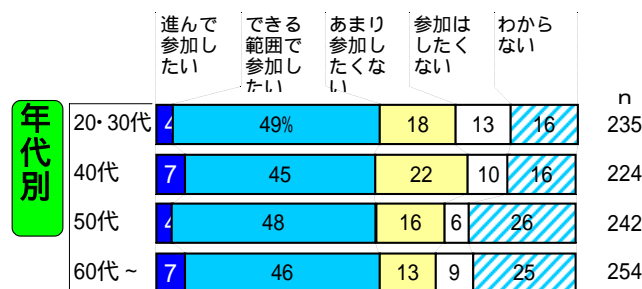
スポーツや文化団体で指導



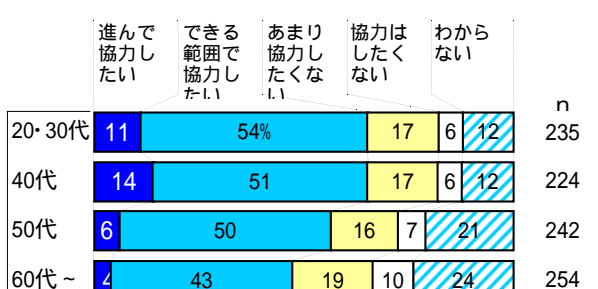
公民館や図書館等で子供の指導



郷土の伝統芸能を伝える活動



クラブ活動や部活動への協力

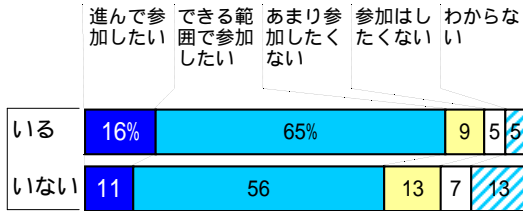


子どもの有無と参加・協力意識 (クロス集計資料 9)

地域活動への参加

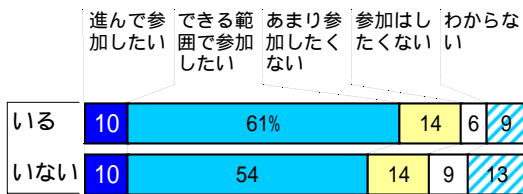
働く体験や奉仕体験の世話活動

子どもの有無



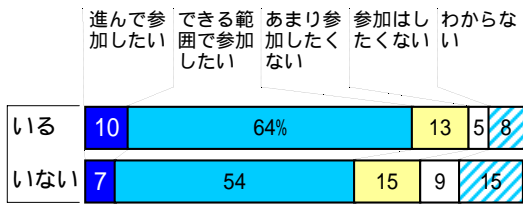
高齢者と子供が交流する活動

子どもの有無



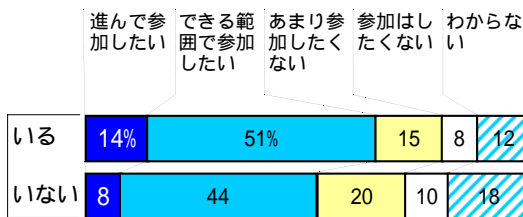
子ども会で子供の世話活動

子どもの有無



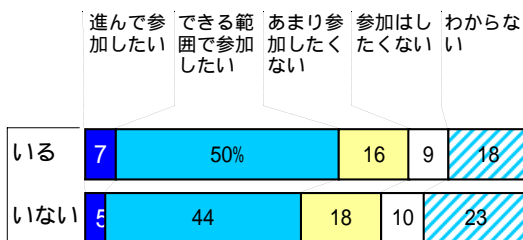
スポーツや文化団体で指導

子どもの有無



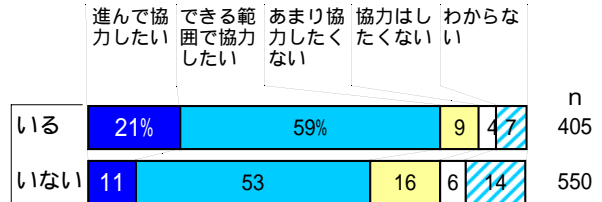
郷土の伝統芸能を伝える活動

子どもの有無

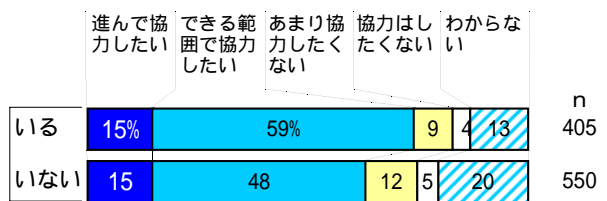


学校等への協力

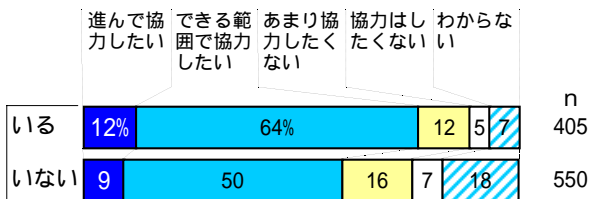
学校行事や校外活動への協力



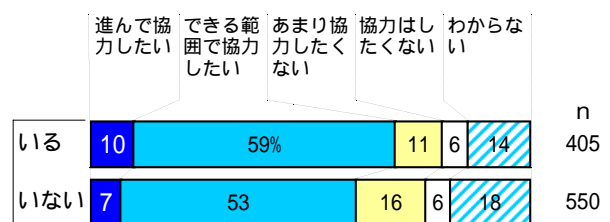
学校の授業への協力



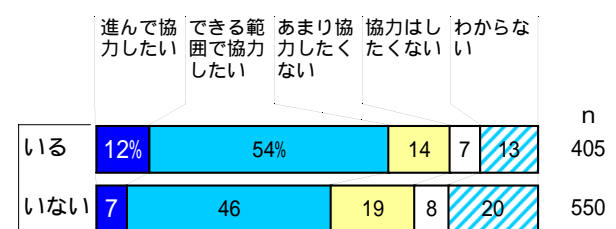
地域や学校内の巡回への協力



公民館や図書館等で子供の指導



クラブ活動や部活動への協力

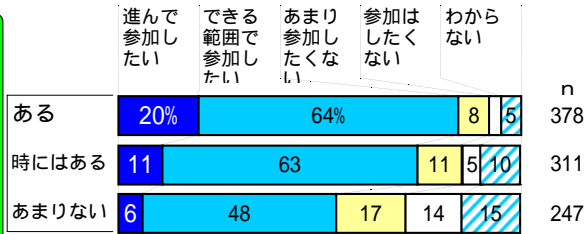


地域の人々との交流と参加・協力意識(クロス集計資料10)

地域活動への参加

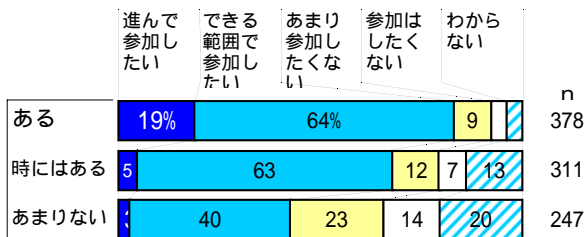
働く体験や奉仕体験の世話活

地域の人々との交流



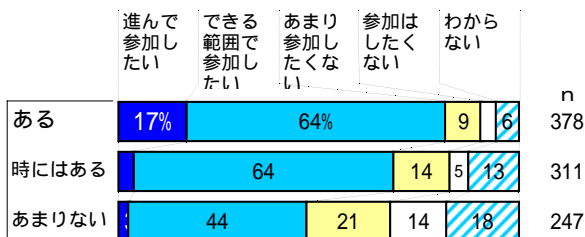
高齢者と子供が交流する活

地域の人々との交流



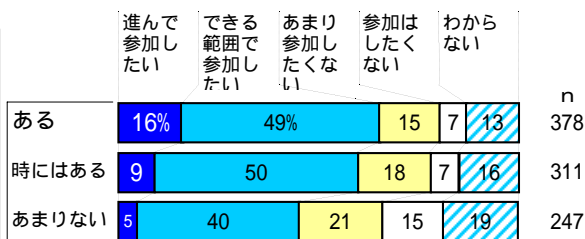
子ども会で子供の世話活

地域の人々との交流



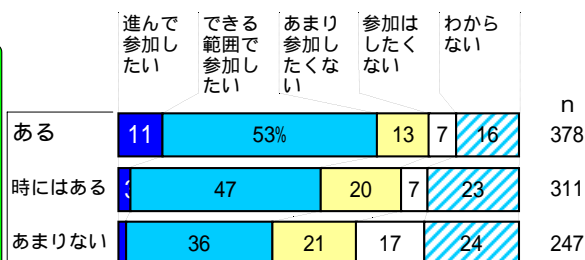
スポーツや文化団体で指

地域の人々との交流



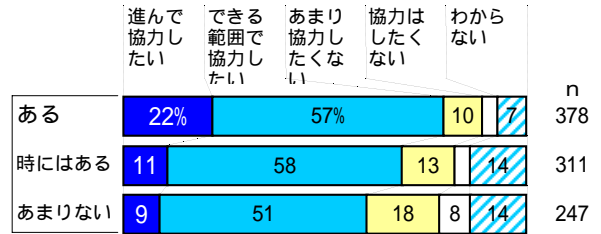
郷土の伝統芸能を伝える活

地域の人々との交流

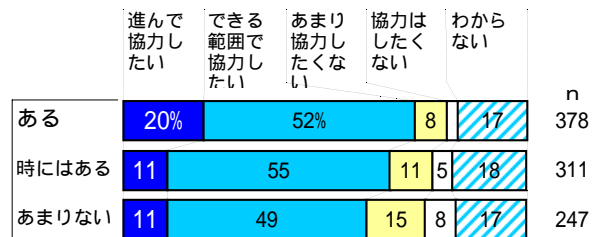


学校等への協力

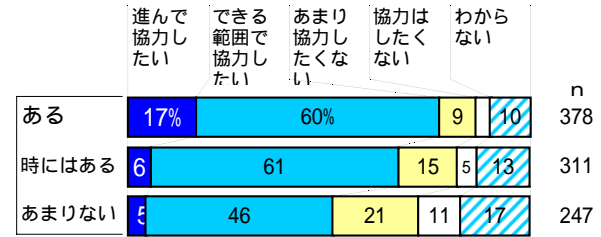
学校行事や校外活動への協



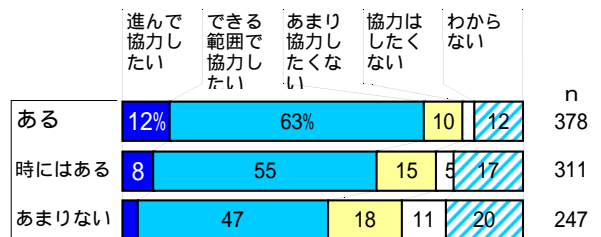
学校の授業への協力



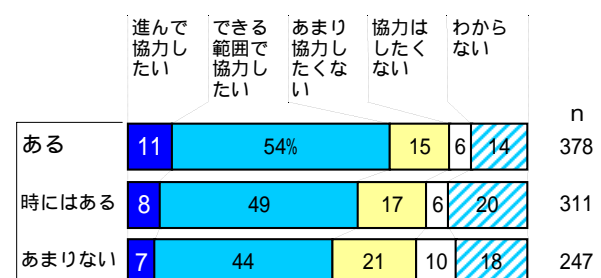
地域や学校内の巡回への協



公民館や図書館等で子供の指

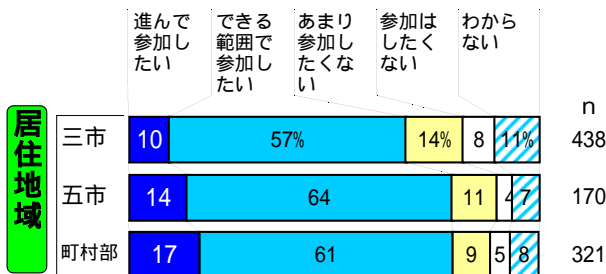


クラブ活動や部活動への協



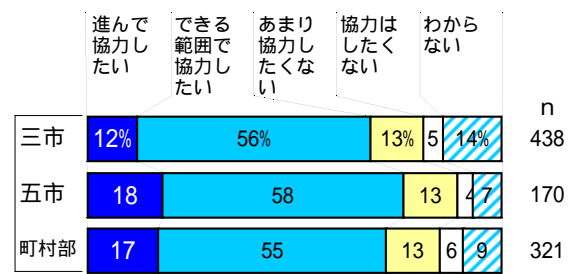
地域活動への参加

働く体験や奉仕体験の世話活動

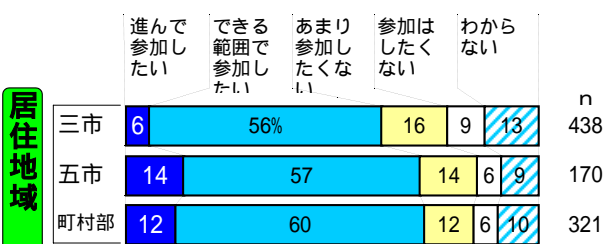


学校等への協力

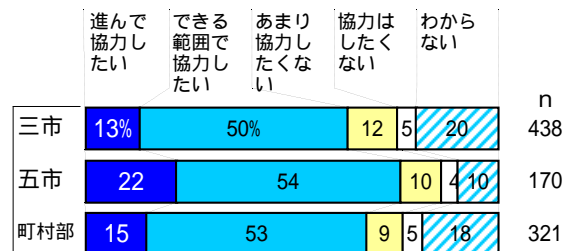
学校行事や校外活動への協力



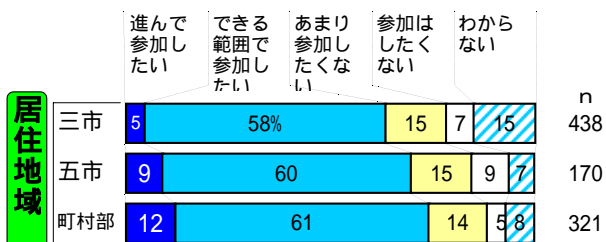
高齢者と子供が交流する活動



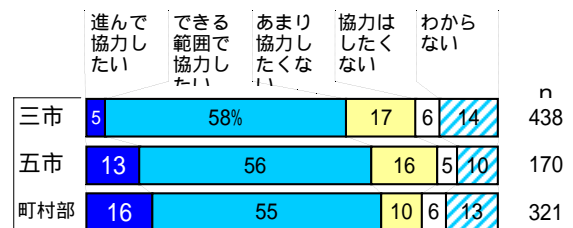
学校の授業への協力



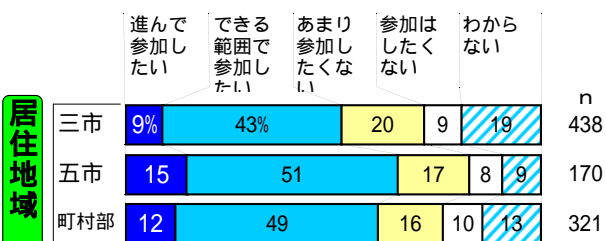
子ども会で子供の世話活動



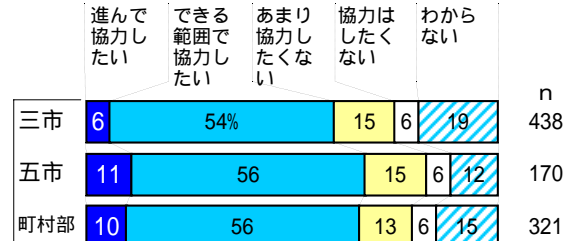
地域や学校内の巡回への協力



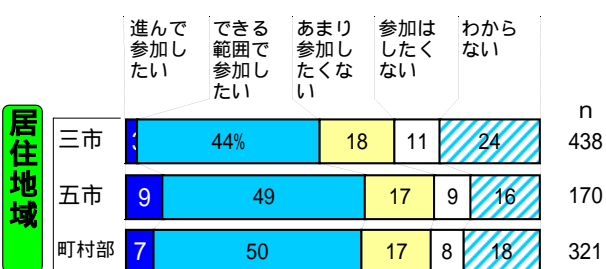
スポーツや文化団体で指導



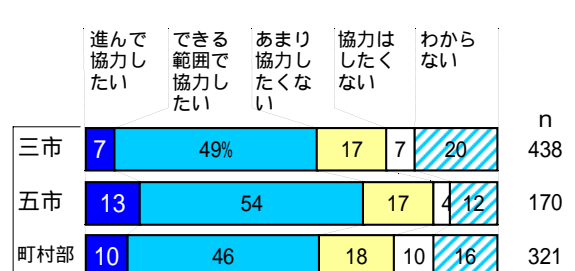
公民館や図書館等で子供の指導



郷土の伝統芸能を伝える活動



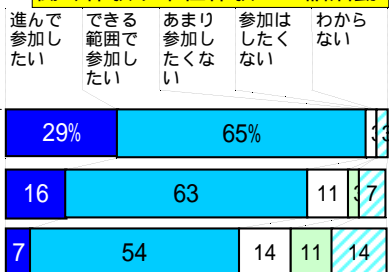
クラブ活動や部活動への協力



学習活動等への参加と参加・協力意識(クロス集計資料12)

地域活動への参加

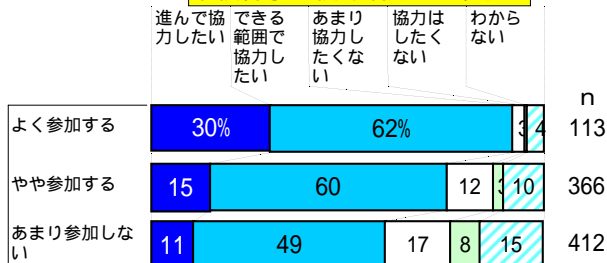
働く体験や奉仕体験の世話活動



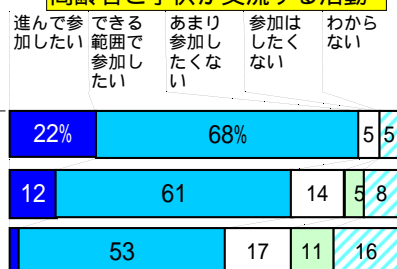
学習活動へ参加

学校等への協力

学校行事や校外活動への協力

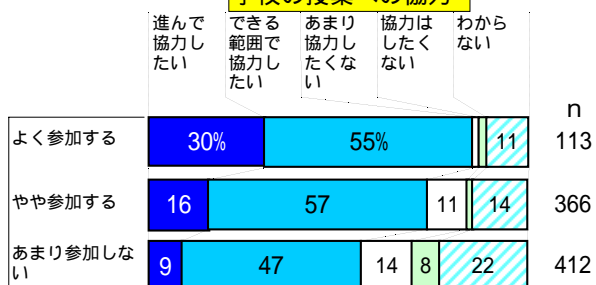


高齢者と子供が交流する活動

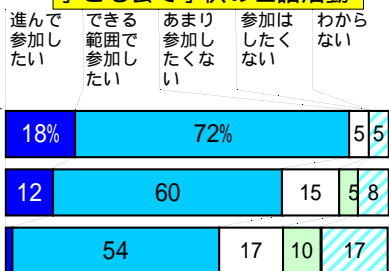


学習活動へ参加

学校の授業への協力

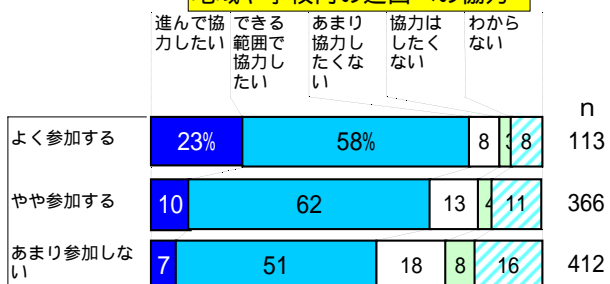


子ども会で子供の世話活動

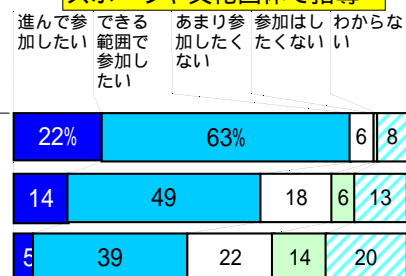


学習活動へ参加

地域や学校内の巡回への協力

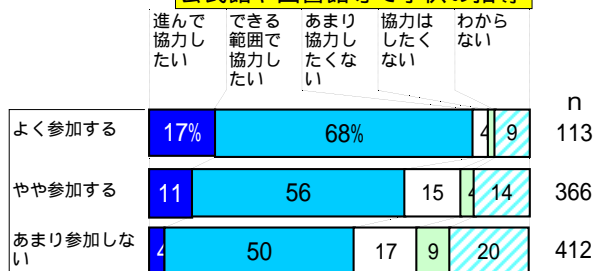


スポーツや文化団体に指導

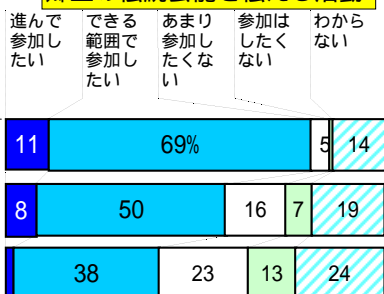


学習活動へ参加

公民館や図書館等で子供の指導

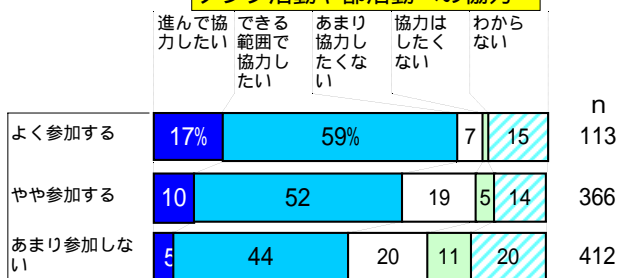


郷土の伝統芸能を伝える活動



学習活動へ参加

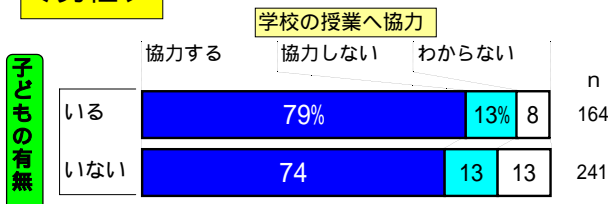
クラブ活動や部活動への協力



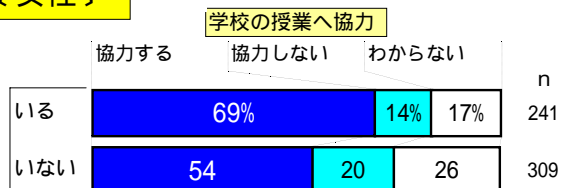
性別と協力意識

(クロス集計資料13)

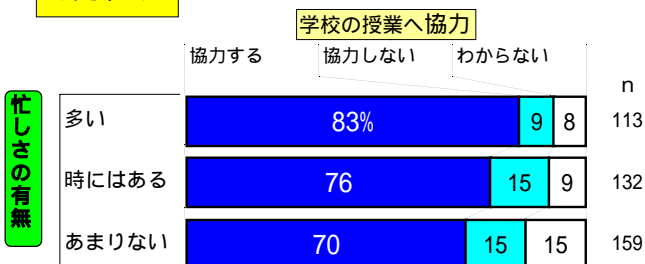
〔男性〕



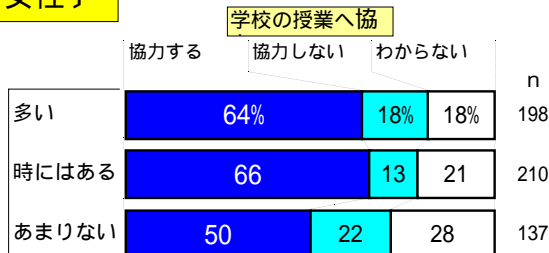
〔女性〕



〔男性〕

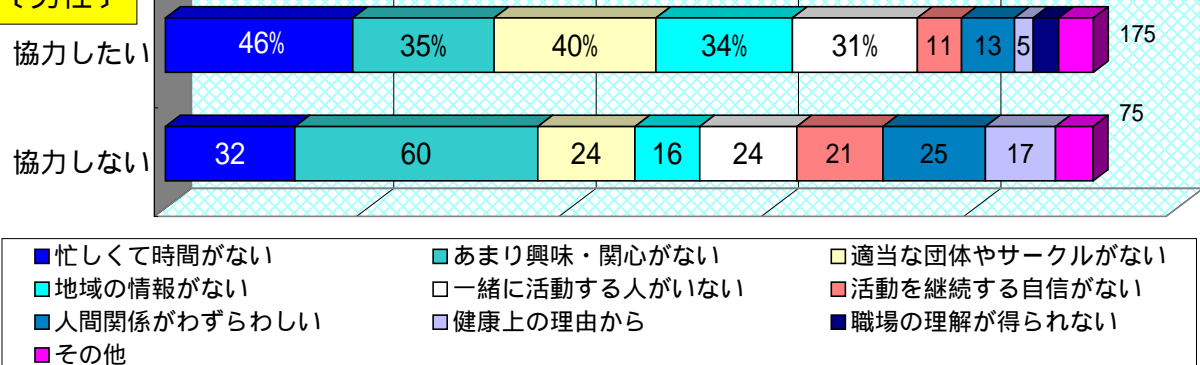


〔女性〕

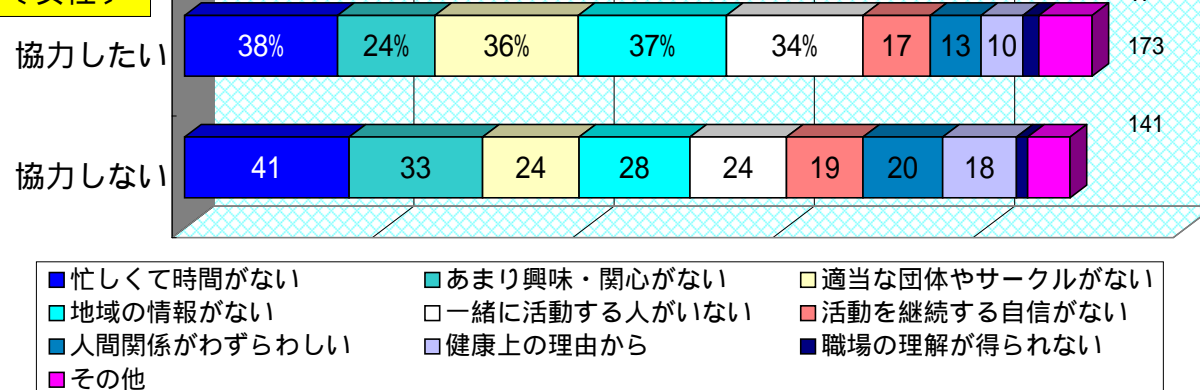


《性別、学校の授業への協力意識と地域活動に参加しない理由》

〔男性〕

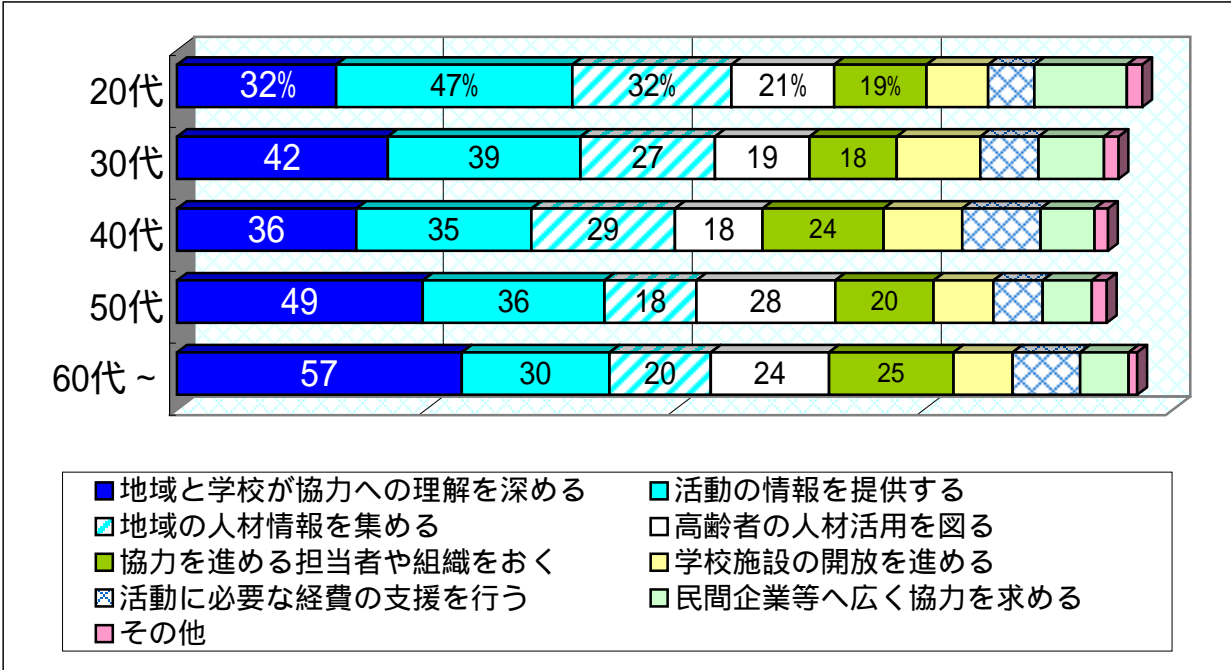


〔女性〕

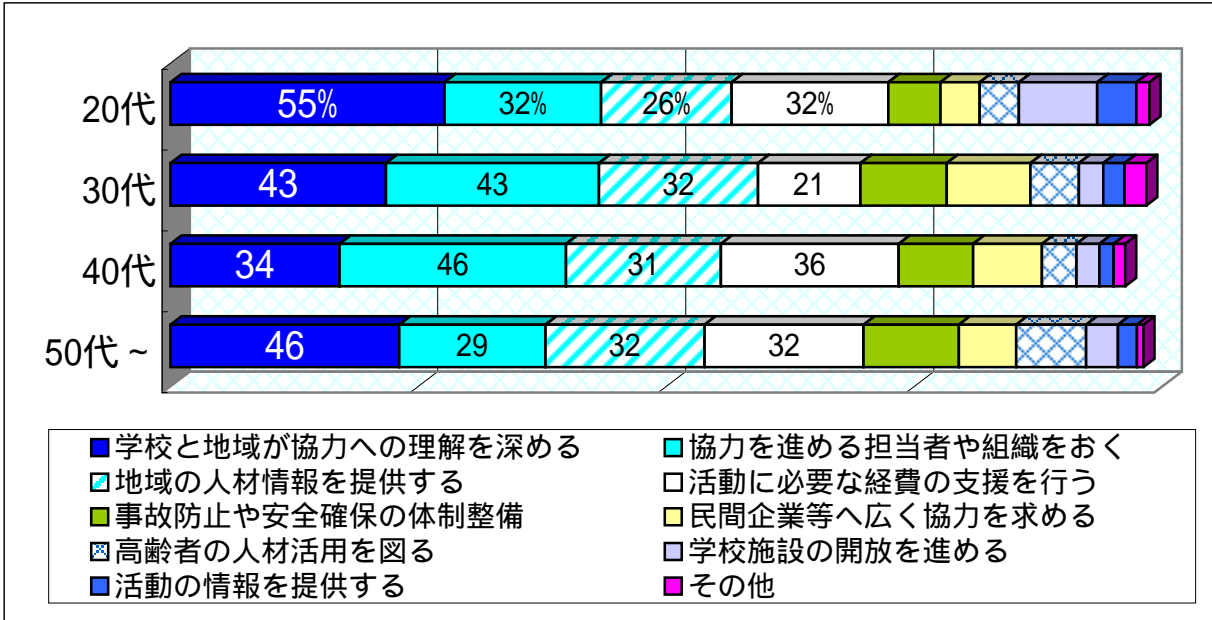


年代と協力に重要なこと (クロス集計資料14)

県民調査

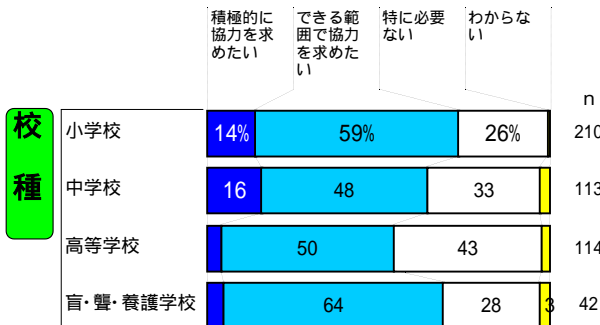


教員調査

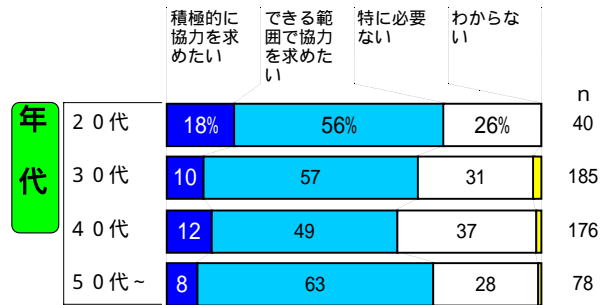


教員調査：校種・年代・性別と学校への協力(クロス集計資料15)

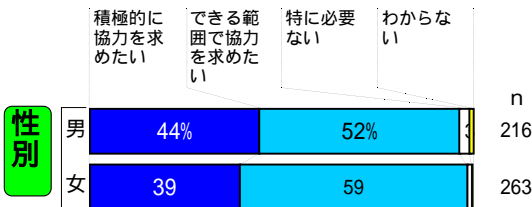
学校行事の運営への協力



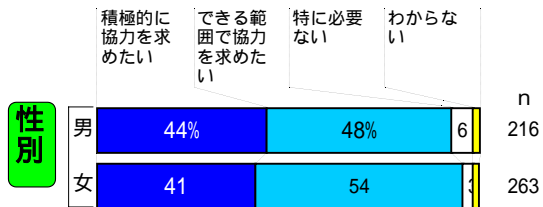
学校行事の運営への協力



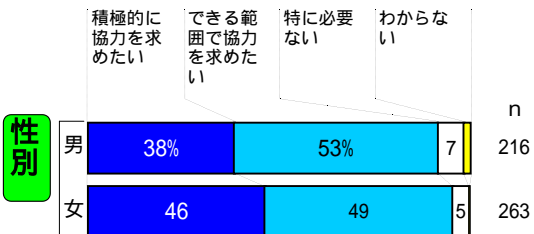
体験奉仕など学校外活動への協力



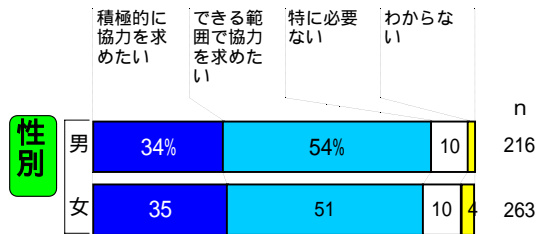
地域に根ざした教材・資料の提供



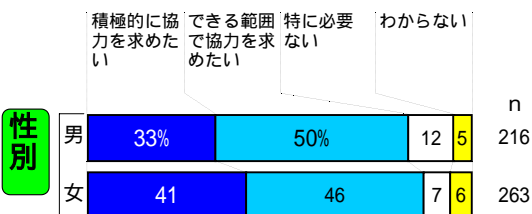
ゲストティチャーで授業に参加



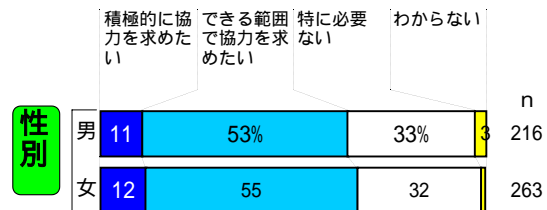
地域や学校内の巡回への協力



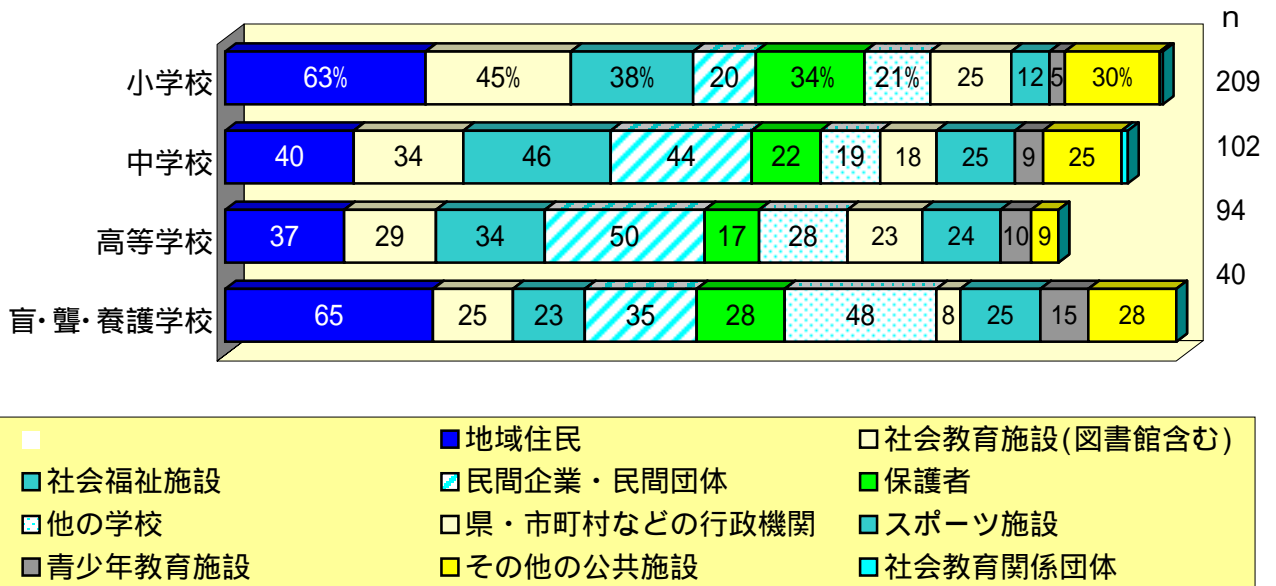
放課後の部活動への協力



学校行事の運営への協力



連携・協力したい相手、機関など



集計データ：県民調査（１）

属性 (単数回答)		
職業の有無	人数(人)	割合(%)
ある	636	66.6
ない(無職、学生)	145	15.2
その他(専業主婦・夫)	174	18.2
全体	955	100.0

属性 (単数回答)		
子どもの有無	人数(人)	割合(%)
いる	499	52.3
いない	456	47.7
全体	955	100.0

属性 (単数回答)		
職業の種類	人数(人)	割合(%)
会社員・公務員	275	43.2
農林漁業従事者	73	11.5
商工サービス業従事者	66	10.4
企業等経営者・役員	23	3.6
自由業	18	2.8
臨時雇用・パート・アルバイト	140	22.0
その他	41	6.4
非該当	319	
全体	636	100.0

属性 (単数回答)		
土曜は仕事を休めるか	人数(人)	割合(%)
ほぼ毎週休める	191	30.2
毎月2回位は休める	113	17.8
午後からは休める時がある	41	6.5
ほとんど休めない	242	38.2
その他	46	7.3
無回答	3	
全体	633	100.0

属性 (単数回答)		
日曜日は仕事を休めるか	人数(人)	割合(%)
ほぼ毎週休める	381	60.3
毎月2回位は休める	85	13.4
ほとんど休めない	166	26.3
無回答	4	
全体	632	100.0

問10 (単数回答)		
忙しさの有無	人数(人)	割合(%)
感じる人が多い	311	32.8
時にはある	342	36.0
あまりない	218	23.0
ほとんどない	78	8.2
無回答	6	
全体	949	100.0

問10 - 付 (単数回答)		
忙しい主な理由	人数(人)	割合(%)
仕事に従事する時間が長い	191	29.6
仕事が煩雑で余裕がない	109	16.9
仕事上の付き合いが多い	16	2.5
仕事以外にすることが多い	134	20.7
家庭内の仕事が多い	125	19.3
育児や介護等で自由な時間がない	35	5.4
その他	36	5.6
無回答	13	
全体	646	100.0

問11 (単数回答)		
自由な時間はいつあるか	人数(人)	割合(%)
土曜・日曜日で仕事が休みのとき	326	34.4
平日で仕事が休みのとき	130	13.7
毎日の仕事が終わったあとだけ	163	17.2
仕事の途中で自由な時間がとれる	54	5.7
ほぼいつでも自由な時間がとれる	217	22.9
その他	57	6.0
無回答	8	
全体	947	100.0

問12	(単数回答)					
	全体	よくする	時にはする	あまりしない	ほとんどしない	無回答
自由な時間にすることは						
日頃の仕事関係や家事・買い物	917	489	312	62	54	38
%	100.0	53.3	34.0	6.8	5.9	
家族団らんや友人と過ごす	905	269	432	146	58	50
%	100.0	29.7	47.7	16.1	6.4	
テレビ・ビデオ視聴やゲーム	909	226	350	152	181	46
%	100.0	24.9	38.5	16.7	19.9	
朝遅くまで寝ていたり昼寝	912	220	342	146	204	43
%	100.0	24.1	37.5	16.0	22.4	
家庭菜園やガーデニング	917	227	221	133	336	38
%	100.0	24.8	24.1	14.5	36.6	
趣味・教養・スポーツ・習い事等	910	173	215	169	353	45
%	100.0	19.0	23.6	18.6	38.8	
地域の活動があれば参加	905	130	251	186	338	50
%	100.0	14.4	27.7	20.6	37.3	
地域の団体活動へ参加	909	87	186	166	470	46
%	100.0	9.6	20.5	18.3	51.7	
映画・スポーツ観戦等の娯楽	905	77	234	163	431	50
%	100.0	8.5	25.9	18.0	47.6	
図書館・公民館等の文化施設利用	906	71	171	231	433	49
%	100.0	7.8	18.9	25.5	47.8	
音楽会・展覧会・講演会等催し物	906	61	257	193	395	49
%	100.0	6.7	28.4	21.3	43.6	

集計データ：県民調査（２）

問13

(単数回答)

今の大人や子どもの印象	今の大人				今の小・中学生			
	全体	ある程度ある	足りない	無回答	全体	ある程度ある	足りない	無回答
欲望を抑え我慢する気持ち	920	485	435	35	900	124	776	55
%	100.0	52.7	47.3		100.0	13.8	86.2	
適切な言葉づかい	915	525	390	40	895	213	682	60
%	100.0	57.4	42.6		100.0	23.8	76.2	
ものを大切にすること	927	486	441	28	903	132	771	52
%	100.0	52.4	47.6		100.0	14.6	85.4	
物事の善悪を判断する力	922	595	327	33	901	336	565	54
%	100.0	64.5	35.5		100.0	37.3	62.7	
郷土の伝統文化を重んじる	915	504	411	40	893	263	630	62
%	100.0	55.1	44.9		100.0	29.5	70.5	
人と協調し一緒に行動する	921	589	332	34	902	386	516	53
%	100.0	64.0	36.0		100.0	42.8	57.2	
相手を思いやる気持ち	920	423	497	35	901	268	633	54
%	100.0	46.0	54.0		100.0	29.7	70.3	
社会のルールを守ること	919	432	487	36	897	317	580	58
%	100.0	47.0	53.0		100.0	35.3	64.7	
自然や環境を大切にすること	924	450	474	31	897	357	540	58
%	100.0	48.7	51.3		100.0	39.8	60.2	
自分の考えを表現する力	917	426	491	38	899	466	433	56
%	100.0	46.5	53.5		100.0	51.8	48.2	

問14

(単数回答)

小・中学生に指導する役割	全体	おもに学校の役割	おもに地域社会の役割	学校と地域社会の両方	どれも言えない	無回答
思いやりの気持ちを育む	934	125	78	637	94	21
%	100.0	13.4	8.4	68.2	10.1	
自然環境を大切にすること	919	72	179	624	44	36
%	100.0	7.8	19.5	67.9	4.8	
社会のルール遵守を教える	924	157	111	611	45	31
%	100.0	17.0	12.0	66.1	4.9	
人と協調し行動する気持ち	926	213	54	614	45	29
%	100.0	23.0	5.8	66.3	4.9	
ものを大切にすること	925	145	98	591	91	30
%	100.0	15.7	10.6	63.9	9.8	
物事の善悪を判断する力	922	201	67	573	81	33
%	100.0	21.8	7.3	62.1	8.8	
欲望を抑え我慢する気持ち	926	208	71	482	165	29
%	100.0	22.5	7.7	52.1	17.8	
伝統文化を重んじる気持ち	922	60	320	491	51	33
%	100.0	6.5	34.7	53.3	5.5	
適切な言葉づかいを教える	923	364	48	444	67	32
%	100.0	39.4	5.2	48.1	7.3	
自分の考えを表現する力	922	492	30	324	76	33
%	100.0	53.4	3.3	35.1	8.2	

問15

(単数回答)

子どもの行動・行為について	全体	好ましい	悪いことではない	好ましくないが仕方	好ましくない	無回答
小・中学生がコンビニで過ごす	930	5	37	180	708	25
%	100.0	0.5	4.0	19.4	76.1	
小・中学生の生活が夜型になった	932	4	21	244	663	23
%	100.0	0.4	2.3	26.2	71.1	
小・中学生が流行語で話す	933	7	56	343	527	22
%	100.0	0.8	6.0	36.8	56.5	
小・中学生が屋外で遊ばない	932	6	46	441	439	23
%	100.0	0.6	4.9	47.3	47.1	
小・中学生が学習塾に通う	928	55	460	349	64	27
%	100.0	5.9	49.6	37.6	6.9	
中・高校生が地面や床に座る	932	3	13	54	862	23
%	100.0	0.3	1.4	5.8	92.5	
中・高校生がピアスや指輪をする	934	4	75	85	770	21
%	100.0	0.4	8.0	9.1	82.4	
中・高校生が髪を染める	933	9	85	130	709	22
%	100.0	1.0	9.1	13.9	76.0	
中・高校生が携帯電話を持つ	937	8	101	373	455	18
%	100.0	0.9	10.8	39.8	48.6	
中・高校生がアルバイトをする	933	104	477	226	126	22
%	100.0	11.1	51.1	24.2	13.5	

集計データ：県民調査（3）

問16 (単数回答)

住んでいる地域への関心	全体	関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答
地域の自然・生活環境へ	925	373	420	116	16	30
%	100.0	40.3	45.4	12.5	1.7	
地域の話や出来事へ	925	288	421	177	39	30
%	100.0	31.1	45.5	19.1	4.2	
地域に住む高齢者等へ	919	243	442	207	27	36
%	100.0	26.4	48.1	22.5	2.9	
地域に住む子どもへ	927	231	443	218	35	28
%	100.0	24.9	47.8	23.5	3.8	
地域内の小・中学校へ	915	253	379	243	40	40
%	100.0	27.7	41.4	26.6	4.4	
地域に住む人々へ	926	188	391	290	57	29
%	100.0	20.3	42.2	31.3	6.2	

問17 (単数回答)

地域の人々との交流や付き合い	人数(人)	割合(%)
ある	378	40.4
時にはある	311	33.2
あまりない	169	18.1
ほとんどない	78	8.3
無回答	19	
全体	936	100.0

問18 (単数回答)

地域活動への参加状況	全体	ある	ない	無回答
地域の清掃やリサイクル活動	932	594	338	23
%	100.0	63.7	36.3	
祝いごとや不幸の手伝い	927	580	347	28
%	100.0	62.6	37.4	
学校の活動への協力・手伝い	926	545	381	29
%	100.0	58.9	41.1	
お祭りや行事等への協力活動	929	538	391	26
%	100.0	57.9	42.1	
子ども会やPTAの役員	924	447	477	31
%	100.0	48.4	51.6	
町内会や自治会等の役員	925	415	510	30
%	100.0	44.9	55.1	
地域の防犯や交通安全活動	924	303	621	31
%	100.0	32.8	67.2	
青年団・婦人会等の活動	931	302	629	24
%	100.0	32.4	67.6	
高齢者と子ども達の交流活動	928	262	666	27
%	100.0	28.2	71.8	
芸能文化の伝承に関する活動	924	207	717	31
%	100.0	22.4	77.6	
国際理解・国際交流に関する活動	923	97	826	32
%	100.0	10.5	89.5	

問18 - 付 (複数回答)

地域活動に参加しない理由	人数(人)	割合(%)
忙しくて時間がない	232	39.9
あまり興味・関心がない	197	33.9
地域の情報がない	178	30.6
適当な団体やサークルが身近にない	187	32.2
一緒に活動する人がいない	173	29.8
職場の理解が得られない	23	4.0
活動を継続する自信がない	95	16.4
健康上の理由から	74	12.7
人間関係がわずらわしい	93	16.0
その他	61	10.5
無回答	31	
全体	581	100.0

問21 (複数回答)

地域と学校の協力を重要なこと	人数(人)	割合(%)
地域と学校が協力への理解を深める	419	45.3
活動の情報を提供する	332	35.9
地域の人材情報を集める	223	24.1
高齢者の人材活用を図る	206	22.3
協力を進める担当者や組織をおく	201	21.8
学校施設の開放を進める	126	13.6
必要な経費の支援を行う	115	12.4
民間企業等へ広く協力を求める	106	11.5
その他	24	2.6
無回答	30	
全体	924	100.0

問19 (単数回答)

子どもを育成する地域活動への参加	全体	進んで参加したい	できる範囲で参加したい	あまり参加したくない	参加はしたくない	わからない	無回答
働く体験や奉仕体験の世話活動	915	121	544	105	58	87	40
%	100.0	13.2	59.5	11.5	6.3	9.5	
高齢者と子供が交流する活動	916	92	526	127	68	103	39
%	100.0	10.0	57.4	13.9	7.4	11.2	
子ども会で子供の世話活動	915	77	536	130	64	108	40
%	100.0	8.4	58.6	14.2	7.0	11.8	
スポーツや文化団体で指導	911	100	424	164	84	139	44
%	100.0	11.0	46.5	18.0	9.2	15.3	
郷土の伝統芸能を伝える活動	910	52	426	157	87	188	45
%	100.0	5.7	46.8	17.3	9.6	20.7	

問20 (単数回答)

学校等の教育活動への協力	全体	進んで協力したい	できる範囲で協力したい	あまり協力したくない	協力はしたくない	わからない	無回答
学校行事や校外活動への協力	916	139	504	120	49	104	39
%	100.0	15.2	55.0	13.1	5.3	11.4	
学校の授業への協力	914	136	479	98	44	157	41
%	100.0	14.9	52.4	10.7	4.8	17.2	
地域や学校内の巡回への協力	918	94	518	131	54	121	37
%	100.0	10.2	56.4	14.3	5.9	13.2	
公民館や図書館等で子供の指導	916	76	507	128	56	149	39
%	100.0	8.3	55.3	14.0	6.1	16.3	
クラブ活動や部活動への協力	913	81	448	158	68	158	42
%	100.0	8.9	49.1	17.3	7.4	17.3	

集計データ：教員調査

問6 (単数回答)

小・中学生に指導する役割	全体	おもに学校の役割	おもに地域社会の役割	学校と地域社会の両方	どれも言えない	無回答
自分の考えを表現する力を育成	478	340	3	130	5	1
%	100.0	71.1	0.6	27.2	1.0	
適切な言葉遣い教える	477	158	22	290	7	2
%	100.0	33.1	4.6	60.8	1.5	
人と協調し行動する気持ち育成	477	135	10	323	9	2
%	100.0	28.3	2.1	67.7	1.9	
欲望を抑え我慢する気持ち育成	478	127	37	284	30	1
%	100.0	26.6	7.7	59.4	6.3	
物事の善悪を判断する力を育成	477	84	26	353	14	2
%	100.0	17.6	5.5	74.0	2.9	
ものを大切にすることを育む	478	60	35	369	14	1
%	100.0	12.6	7.3	77.2	2.9	
思いやりの気持ちを育む	477	51	17	394	15	2
%	100.0	10.7	3.6	82.6	3.1	
社会のルール遵守を教える	476	44	34	391	7	3
%	100.0	9.2	7.1	82.1	1.5	
自然環境を大切にすることを育成	476	25	53	382	16	3
%	100.0	5.3	11.1	80.3	3.4	
伝統文化を重んじる気持ち育成	476	13	159	291	13	3
%	100.0	2.7	33.4	61.1	2.7	

問7 (単数回答)

連携・協力の必要性	人数(人)	割合(%)
必要である	376	78.5
ある程度必要である	94	19.6
あまり必要ではない	8	1.7
必要ではない	1	0.2
全体	479	100.0

問8 (単数回答)

地域の教育力活用の有無	人数(人)	割合(%)
はい	370	77.2
いいえ	109	22.8
全体	479	100.0

問9 (複数回答)

地域社会の教育力を活用した結果	人数(人)	割合(%)
活動が活性化した	286	77.3
負担は多いが成果もあった	268	72.4
視野が広がった	212	57.3
活動がやりやすくなった	54	14.6
企画・準備等が楽になった	16	4.3
企画・準備等が大変であった	165	44.6
仕事の負担が増えた	127	34.3
気持ちの上で余裕がなくなった	28	7.6
あまり成果がなかった	6	1.6
その他	2	0.5
非該当	109	
全体	370	100.0

問10 (単数回答)

連携・協力の共通理解	人数(人)	割合(%)
そう思う	44	10.2
ある程度そう思う	170	39.5
あまりそう思わない	171	39.8
そう思わない	45	10.5
無回答	49	
全体	430	100.0

問11 (単数回答)

連携・協力へ取り組みの意志	人数(人)	割合(%)
そう思う	206	43.1
ある程度そう思う	239	50.0
あまりそう思わない	29	6.1
そう思わない	4	0.8
無回答	1	
全体	478	100.0

問12 (複数回答)

連携・協力したい相手	人数(人)	割合(%)
地域住民	234	52.2
社会教育施設	168	37.5
社会福祉施設	168	37.5
民間企業・民間団体	147	32.8
保護者	122	27.2
他の学校	107	23.9
県・市町村などの行政機関	97	21.7
スポーツ施設	84	18.8
青少年教育施設	35	7.8
その他の公共施設	106	23.7
社会教育関係団体	4	0.9
その他	7	1.6
無回答	1	
非該当	30	
全体	448	100.0

問14 (複数回答)

学校と地域社会の協りに重要なこと	人数(人)	割合(%)
学校と地域が協力への理解を深める	196	41.4
協力を進める担当者や組織をおく	193	40.8
地域の人材情報を提供する	148	31.3
必要な経費の支援を行う	137	29.0
事故防止や安全確保の体制整備	77	16.3
民間企業等へ広く協力を求める	67	14.2
高齢者の人材活用を図る	44	9.3
学校施設の開放を進める	28	5.9
活動の情報を提供する	19	4.0
その他	14	3.0
無回答	6	
全体	473	100.0

問13 (単数回答)

学校等の教育活動への協力	全体	積極的に協力を求めたい	できる範囲で協力を求めたい	特に必要ない	わからない	無回答
体験奉仕など学校外活動への協力	445	183	246	13	3	34
%	100.0	41.1	55.3	2.9	0.7	
地域に根ざした教材・資料の提供	446	188	228	20	10	33
%	100.0	42.2	51.1	4.5	2.2	
ゲストティーチャーで授業に参加	446	189	226	25	6	33
%	100.0	42.4	50.7	5.6	1.3	
地域や学校内の巡回への協力	445	154	233	44	14	34
%	100.0	34.6	52.4	9.9	3.1	
放課後の部活動への協力	444	167	210	42	25	35
%	100.0	37.6	47.3	9.5	5.6	
学校行事の運営への協力	445	50	243	143	9	34
%	100.0	11.2	54.6	32.1	2.0	

県民の皆様へ



アンケート調査へご協力をお願い！



こんにちは、
青森県総合社会教育センターです。

青森県総合社会教育センターは、青森県教育委員会の研究・研修機関です。

この調査は、子どもの豊かな人間性を^{はくく}育むために、地域にお住まいの方々が学校と協力して様々な活動を行うことについて、皆様のお考えやご意見等をお伺い^{うかが}するものです。

お忙しいところ大変^{きょうしゆく}恐縮ではございますが、趣旨をご理解のうえご協力いただきますようお願いいたします。

なお、この調査は^{むきめい}無記名ですので、お答えした方の名前がわからないようになっています。皆様の^{そつちゆく}率直なお考えをお聞かせ下さいますようお願いいたします。



平成14年9月

青森県総合社会教育センター

所長 豊澤武輝

この調査の対象者は、^{たいしやうしゃ}公職選挙法^{こうしやくせんきよほう}第29条（^{えつらん}通報及び閲覧等）に基づき、皆様が^{きよか}お住まいの市町村の許可を得て、選挙人名簿から^{めいぼ}無作為^{むさくい}に選ばせていただきました。



平成14年度

子どもの豊かな人間性を はぐく 育むための活動に関する調査

～地域と学校を結ぶ 住民の地域活動について～



青森県総合社会教育センター



ご記入にあたって

記入上のお願い

- 1 この調査は 無記名 です。(あなたのお名前を書くところはありません)
- 2 必ず、宛名の ご本人が回答 して下さるようお願いいたします。
- 3 回答は、この 調査用紙に、直接、書いてください。
- 4 選択問題では、あなたのご意見にも もっとも近いもの を選び、その番号に 印をつけてください。

返送についてのお願い

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、
投函して下さるようお願いいたします。

10月4日(金) までに



問い合わせ先

この調査について、なにかご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。



青森県総合社会教育センター 研究開発課
〒030-0111 青森市大字荒川字藤戸119-7
TEL 017-739-1251 FAX 017-739-1279

回答の 集計結果 を知りたい方は、同封のラベルに 送付先 を記入してください。
後日、ご記入のラベルを貼付のうえ 集計結果 を送付させていただきます。
なお、詳しい調査結果は報告書にまとめ、平成15年6月までに、市町村教育委員会へ配布しますので、興味をお持ちの方は最寄りの教育委員会等へお問い合わせください。また、当センターのホームページにおいても公開する予定です。

<http://alis.net.pref.aomori.jp/>

1. はじめに

アンケートの回答は、この用紙に直接、書いてください。

問1 あなたの性別を、お知らせください。(は1つ)

1 男

2 女

問2 あなたの年齢を、お知らせください。(は1つ)

1 20～29歳

4 50～59歳

2 30～39歳

5 60～69歳

3 40～49歳

6 70歳以上

問3 あなたが、いま、お住まいの市町村はどちらですか。

市町村名

市・町・村

問4 あなたは、いまの住所に、通算で、何年くらいお住まいですか。(は1つ)

1 1年未満

4 10～20年未満

2 1～5年未満

5 20年以上

3 5～10年未満

問5 現在、あなたと一緒に住んでいる20歳以下のお子さんがいらっしゃいますか。
(は、あてはまるものをいくつでも)

1 乳児・小学校入学前の子ども

5 それ以外の学校

2 小学生

6 その他

3 中学生

7 現在、子どもはいない

4 高校生

問6 あなたは、職業をお持ちですか。(は1つ)

1 ある

2 ない(無職、学生)

3 その他(専業主婦[夫])



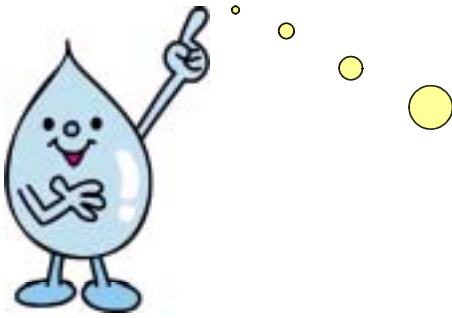
問7へ
進んでください。



問10へ
進んでください。



問10へ
進んでください。



問7～問9は、
職業をお持ちの方のみ お願いします。
問10からは全員です。

問7 あなたの職業は、大きく分けて、次のどれにあたりますか。

1 会社員	5 自由業 (医学、法律、芸術等の個人事業者)
2 公務員	6 企業等経営者・役員
3 自営者・家族従業者 (農林漁業関係)	7 臨時雇用・パート・アルバイト
4 自営者・家族従業者 (商工サービス業関係)	8 その他 ()

問8 あなたは、土曜日には、仕事を ^{やす}休めるほうですか。(は1つ)

1 ほぼ毎週休める	4 午後からは、ほぼ毎週休める
2 毎月2回くらいは、休める	5 午後からは、毎月2回くらいは休める
3 ほとんど休めない	6 その他 ()

問9 あなたは、日曜日には、仕事を休めるほうですか。(は1つ)

1 ほぼ毎週休める	2 毎月2回くらいは休める	3 ほとんど休めない
-----------	---------------	------------

全員にお聞きします。

問10 あなたは、このごろ『忙^{いそが}しい』と感じることがありますか。(は1つ)

1 ほとんどない
2 あまりない
3 時にはある
4 感じるが多い



忙しいと感じる、^{おも}主な理由は何ですか。(は1つ)

1 仕事に従事する時間が長い	5 家庭内の仕事が多い
2 仕事が煩雑 ^{はんざつ} で余裕がない	6 育児や介護等で、自由な時間がない
3 仕事上の付き合いが多い	7 その他 ()
4 仕事以外にすることが多い	

2. あなたの、自由な時間の過ごし方について おうかがいします。

問 11 あなたの自由な時間は、主に ^{おも} どのような時に ありますか。(は、一番あてはまるものを 1 つだけ)

1 土曜・日曜日で、仕事が休みのとき	4 仕事の途中に、自由な時間がとれる
2 平日で、仕事が休みのとき	5 ほぼいつでも、自由な時間がとれる
3 毎日の仕事が終わったあとだけ	6 その他()

問 12 あなたは、比較的 自由な時間があるときは、つぎのようなことを、^{ていど} どの程度 しますか。 ~ についてお答えください。(番号に、 を 1 つずつ)

	1 よくする	2 時にはする	3 あまりしない	4 ほとんどしない
(例) 近くの公園を散歩する。	①	2	3	4
朝遅くまで寝ていたり、 ^{ひるね} 昼寝などをして体を休める……………	1	2	3	4
家でテレビやビデオを見たり、テレビゲームなどをする……………	1	2	3	4
家族と団らんしたり、友達や仲間と ^{いっしょ} 一緒に過ごす……………	1	2	3	4
地域の活動(お祭りや ^{せいそう} 清掃など)があるときは参加する……………	1	2	3	4
町内会・子ども会・老人会など地域の団体の活動へ参加する……………	1	2	3	4
趣味、 ^{きょうよう} 教養、スポーツ、 ^{なら} 習いごとなどの活動へ参加する……………	1	2	3	4
音楽会や ^{てんらんかい} 展覧会、 ^{こうえんかい} 講演会などの ^{もよお} 催しものへ参加する……………	1	2	3	4
図書館や公民館、博物館などの ^{しせつ} 文化的な施設を利用する……………	1	2	3	4
映画やスポーツ試合 ^{かんせん} 観戦、パチンコなどの ^{ごらく} 娯楽に出かける……………	1	2	3	4
^{かていさいえん} 家庭菜園やガーデニングなどをする……………	1	2	3	4
^{ひごろ} 日頃の仕事に関係したことや 家事・買い物などを行う……………	1	2	3	4
その他(具体的に:)				

回答は、この用紙に、直接書いてください。

3. 今の大人や子どもについて、あなたの考えをおうかがいします。

問 13 あなたは、今の大人や小学生・中学生(以下、小・中学生)について、どのような印象をお持ちですか。つぎの ~ についてお答えください。(は、それぞれ1つずつ)

	今の大人は				今の小・中学生は			
	1 十分ある	2 ある程度ある	3 やや足りない	4 足りない	1 十分ある	2 ある程度ある	3 やや足りない	4 足りない
(例) 目上の人にあいさつすること	1	2	③	4	①	2	3	4
相手を思いやる気持ち	1	2	3	4	1	2	3	4
ものを大切にすること	1	2	3	4	1	2	3	4
社会のルールを守ること	1	2	3	4	1	2	3	4
物事の善悪を判断する力	1	2	3	4	1	2	3	4
適切な(場に合った)言葉づかい	1	2	3	4	1	2	3	4
自分の考えをはっきり表現する力	1	2	3	4	1	2	3	4
自然や環境を大切にすること	1	2	3	4	1	2	3	4
郷土の伝統や文化を重んじる気持ち	1	2	3	4	1	2	3	4
欲望を抑えたり我慢したりする気持ち	1	2	3	4	1	2	3	4
必要なときは周りの人と協調し、一緒に行動すること	1	2	3	4	1	2	3	4



問14 あなたは、小・中学生に次のようなことを育んだり指導するのは、家庭以外ではだれの役割だと思えますか？ ～ についてお答えください。

(は1つずつ)

	1 おもに 学校の役割	2 おもに地域 社会の役割	3 学校と地域 社会の両方	4 どれも 言えない
相手を思いやる気持ちを育てること……………	1	2	3	4
ものを大切にすることを育てること……………	1	2	3	4
社会のルールを守ることを教えること……………	1	2	3	4
物事の善悪を判断する力を育てること……………	1	2	3	4
適切な(場に応じた)言葉づかいを教えること……………	1	2	3	4
自分の考えをはっきり表現する力を育てること……………	1	2	3	4
自然や環境を大切にすることを育てること……………	1	2	3	4
郷土の伝統や文化を重んじる気持ちを育てること……………	1	2	3	4
欲望を抑えたり、我慢したりする気持ちを育てること……………	1	2	3	4
必要なときは周りの人と協調し、一緒に行動することを教えること……………	1	2	3	4

問15 あなたは、小・中学生や高校生の 次のような行動・行為について、どのようにお考えでしょうか？ ～ についてお答えください。

(は1つずつ)

	1 好ましい	2 悪いことでは ない	3 好ましくないが 仕方がない	4 好ましくない
小・中学生が、屋外で遊ばなくなったこと……………	1	2	3	4
小・中学生の生活が、夜型になってきたこと……………	1	2	3	4
小・中学生が、テレビ等で流行している言葉を日常的に使うこと (例：超ムカツクなど)	1	2	3	4
小・中学生が、コンビニに出入りし長い時間を過ごすこと……………	1	2	3	4
小・中学生が、学習塾に通うこと……………	1	2	3	4
中・高校生が、携帯電話を持つようになったこと……………	1	2	3	4
中・高校生が、髪を染めること……………	1	2	3	4
中・高校生が、ピアスや指輪などをすること……………	1	2	3	4
中・高校生が、地面や電車の床に座りこんで話すこと……………	1	2	3	4
中・高校生が、アルバイト等をして賃金を得ること……………	1	2	3	4

4. あなたがお住まいの地域のことについておうかがいします。

問16 あなたは、現在、お住まいの地域のことについて、どれくらい関心をおもちですか。 ~ についてお答えください。(は1つずつ)

	1 関心がある	2 やや 関心がある	3 あまり 関心がない	4 関心がない
地域に住む方々のことについて……………	1	2	3	4
地域に住む子どもたちの様子や行動について……	1	2	3	4
地域に住む高齢者やハンディを持つ人々について……	1	2	3	4
地域内の小学校や中学校のことについて……………	1	2	3	4
地域をとりまく自然環境や生活環境について……………	1	2	3	4
地域内の話題や出来事などについて……………	1	2	3	4

問17 あなたは、となり近所や地域の方々と交流やお付き合いがありますか。(は1つ)

1 ある	3 あまりない
2 時にはある	4 ほとんどない



アンケートごくろうさまです。もう一息です！
最後まで、よろしくお願ひします。

問18 あなたは、今まで、つぎのような地域の活動に参加したことがありますか。～についてお答えください。(は、1, 2のどちらか1つ)

	1 参加した ことがある	2 参加した ことがない
町内会 <small>じちかい</small> や自治会・商店会などの役員……………	1	2
子ども会やPTAの役員……………	1	2
青年団、婦人会、老人クラブなどの活動……………	1	2
お祝いごとや不幸などのお手伝い……………	1	2
学校の活動を手伝ったり、協力する活動……………	1	2
地域の清掃 <small>せいそう</small> やリサイクルなどの活動……………	1	2
地域の防犯 <small>ぼうはん</small> や交通安全などの活動……………	1	2
地域の芸能文化 <small>げいのう ぶんしょう</small> の伝承に関する活動……………	1	2
地域のお祭りや行事などへ協力する活動……………	1	2
地域の高齢者と子どもたちの交流に関する活動……………	1	2
国際理解や国際交流に関する活動……………	1	2



上記の問いで、6つ以上2を選んだ方にお伺いします。参加したことがない理由うかがは、何ですか。(は、3つまで)

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 忙 <small>いそが</small> しくて時間がない | 6 職場の理解 <small>え</small> が得られない |
| 2 あまり興味・関心がない | 7 活動 <small>けいそく</small> を継続する自信がない |
| 3 地域の情報が <small>ない</small> | 8 健康上の理由から |
| 4 適 <small>てきとう</small> 当な団体やサークルが身近 <small>みぢか</small> にない | 9 人間関係 <small>かんけい</small> がわずらわしい |
| 5 一緒に活動する人がいない | 10 その他() |

5. 子どもの豊かな人間性を育むための活動について、おうかがいします。

問 19 あなたは、学校や家庭だけでなく地域の住民が参加して、子どもの豊かな人間性を育むために地域活動を行うとしたら、参加しますか。 ～ についてお答えください。
(は1つずつ)

	1 進んで 参加したい	2 できる範囲で 参加したい	3 あまり参加 したくない	4 参加は したくない	5 わからない
地域の子ども会などで、子どもを世話する活動……………	1	2	3	4	5
郷土の伝統芸能を子どもに伝える活動……………	1	2	3	4	5
地域の高齢者と子どもたちが交流する活動……………	1	2	3	4	5
スポーツや文化関係の地域の団体で、子どもたちを指導する活動(野球チーム、読書サークルなど)	1	2	3	4	5
子どもたちが地域で、働く体験や奉仕体験をするための世話や手伝いをする活動	1	2	3	4	5

問 20 もしあなたが、学校や教育委員会などから、つぎのような協力を依頼されたらどうしますか。 ～ についてお答えください。(は1つずつ)

	1 進んで 協力したい	2 できる範囲で 協力したい	3 あまり協力 したくない	4 協力は したくない	5 わからない
自分の特技や経験を生かして、学校の授業に協力する…	1	2	3	4	5
学校行事(運動会、文化祭など)や校外活動に協力する…	1	2	3	4	5
学校のクラブ活動や放課後の部活動などに協力する…	1	2	3	4	5
児童・生徒の生活指導や危険防止のため、地域や学校内の巡回に協力する	1	2	3	4	5
公民館・図書館や集会所などで、子どもを指導したり、見守る活動をする	1	2	3	4	5

問21 あなたは、今後、地域と学校が協力して社会全体で子どもを育てていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（は、より重要と思われるものを2つまで）

- 1 地域の住民と学校職員が、協力して子どもを育てていくことについて理解を深める
- 2 民間企業や団体などへ、広く教育活動に対する協力を求める
- 3 地域と学校が協力するために、協力を進める担当者や組織をおく
- 4 異世代間の交流を進めるため、高齢者の人材活用をはかる
- 5 各分野で特技や経験をもつ、地域の人材情報を集める
- 6 子どもや大人と一緒に参加できる、活動の情報を提供する
- 7 学校施設の開放を積極的に行う
- 8 地域と学校が協力して行う活動に対し、必要な経費の支援を行う
- 9 その他（具体的に： _____)

6. 自由記述

問22 子どもの豊かな人間性を育むための活動について、何かご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただきまして、
まこと
誠にありがとうございました。

この調査用紙（この冊子）を、同封の返信用封筒に入れ、
10月4日（金）までに、郵便ポストへ入れてください。

（切手をはる必要はありません）



教員の皆様へ



アンケート調査へご協力をお願い！



こんにちは、
青森県総合社会教育センターです。

この調査は、子どもの豊かな人間性を育むために、地域社会の教育力を活かして授業や教育活動を行うことについて、教員の方々が日頃感じていることやご意見等をお伺いするものです。

お忙しいところ大変恐縮ではございますが、趣旨をご理解のうえご協力いただきますようお願いいたします。

なお、この調査は **無記名** でご記入いただき、その結果は統計的な数値として処理されますので、お答えした方の回答が外部に出たり、ご迷惑のかかることはありません。皆様ご個人としての率直なご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

平成14年12月



青森県総合社会教育センター
所長 豊澤武輝

この調査の回答者は、県内の公立学校教員（教諭、養護教諭）
約11,100人より**無作為** に選ばさせていただきました。



平成14年度

子どもの豊かな人間性を 育むための活動に関する調査

～ 地域の力を教育に活かすために～

教員用



青森県総合社会教育センター



ご記入にあたって

記入上のお願い

- 1 この調査は 無記名式 です。
- 2 必ず、宛名の ご本人 が 回答 して下さるようお願いいたします。
- 3 回答は、この 調査用紙 に、直接、書いてください。
- 4 選択問題では、あなたのご意見にも もっとも近い ものを選び、その番号に 印をつけてください。

返送についてのお願い

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、
投函して下さるようお願いいたします。

12月27日(金) までに



問い合わせ先

この調査について、なにかご不明な点がございましたら、下記へお問い合わせください。



青森県総合社会教育センター 研究開発課
〒030-0111 青森市荒川字藤戸119 - 7
TEL 017-739-1251 FAX 017-739-1279

この調査の結果は報告書にまとめ、平成15年6月までに、市町村教育委員会へ配布しますので、興味をお持ちの方は最寄りの教育委員会等へお問い合わせください。また、当センターのホームページでも公開する予定です。

<http://alis.net.pref.aomori.jp/>

2. 学校や地域社会の役割について、あなたの考えをお伺いします。

問 6 あなたは、子どもに対して、次のようなことを育んだり指導するのは、家庭はもちろんですが、それ以外では だれの役割 だと思いますか？ ~ についてお答えください。（ は1つずつ）

	1 おもに 学校の役割	2 おもに地域 社会の役割	3 学校と地域 社会の両方	4 どれも 言えない
(例) 文章の書き方・読み方を教えること	①	2	3	4
相手を思いやる気持ちを育てること	1	2	3	4
物を大切にする心を育てること	1	2	3	4
社会のルールを守ることを教えること	1	2	3	4
物事の善悪を判断する力を育てること	1	2	3	4
適切な(場に応じた)言葉づかいを教えること	1	2	3	4
自分の考えをはっきり表現する力を育てること	1	2	3	4
自然や環境を大切にする気持ちを育てること	1	2	3	4
郷土の伝統や文化を重んじる気持ちを育てること	1	2	3	4
欲望を抑えたり、我慢したりする気持ちを育てること	1	2	3	4
必要なときは周りの人と協調し、一緒に行動することを教えること	1	2	3	4



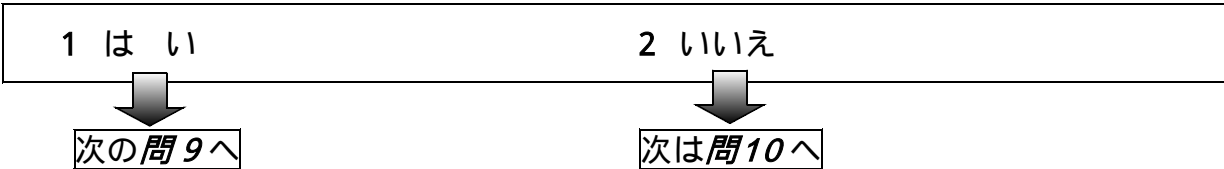
3. 地域社会の教育力との連携・協力についてお伺いします。

問7 あなたは、子どもの豊かな人間性を育むために、学校が地域社会の教育力と連携・協力を進めていくことは必要だと思いますか。(は1つ)

ここで、地域社会の教育力とは、地域社会の多様な人材、社会教育・文化・スポーツ施設、地域の文化財、産業施設、さらには自然の持つ教育機能などとします。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 必要である | 3 あまり必要ではない |
| 2 ある程度は必要である | 4 必要ではない |

問8 あなたは、自分の授業や担当する行事等において、地域社会の教育力を活用した活動を行ったことがありますか。〔予定を含む〕(は、どちらか1つ)



問9 あなたは、上記問8のような活動を行ってみてどう思いましたか。(はいいくつでも) また、特に課題となる点などがありましたら、下の欄にご記入ください。

- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 活動が活性化した
(児童・生徒が喜んだ等) | 6 仕事の負担が増えた
(事前・事後指導を含む) |
| 2 活動がやりやすくなった | 7 活動の企画・準備等が大変であった |
| 3 活動の企画・準備等が楽になった | 8 気持ちの上で余裕がなくなった |
| 4 視野が広がった | 9 あまり成果がなかった |
| 5 負担は多いが成果もあった | 10 その他() |

[課題や問題点等について]

問10 あなたの学校では、地域社会の教育力との連携・協力について、職員間で十分な話し合いや共通理解がなされていると思いますか。(は1つ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 そう思う | 3 あまりそう思わない |
| 2 ある程度そう思う | 4 そう思わない |

問11 あなたは、今後、自分の授業や担当する行事等において、地域社会の教育力と連携・協力した活動を取り入れてみたいと思いますか。(は1つ)

1 そう思う	}	→	次は問12へ
2 ある程度そう思う			
3 あまりそう思わない	}	→	理由をお書きいただき、次は問13へ
4 そう思わない			

問12 どのような相手・機関や施設等と連携・協力してみたいですか。(は3つまで)

1 社会教育施設(公立図書館を含む)	7 他の学校(異なる校種を含む)
2 スポーツ施設	8 民間企業・民間団体
3 青少年教育施設	9 保護者
4 社会福祉施設	10 地域住民(地域の団体・サークル等を含む)
5 その他の公共施設(郵便局、消防署等)	11 社会教育関係団体(県PTA、県連合青年団等)
6 県・市町村などの行政機関 (農林部局、国際交流課、教育委員会等)	12 その他()

問13 地域には、様々な職業や経験を持ち学校への支援を希望する人々がいます。そのような地域住民へ学校の授業や教育活動に協力をお願いすることについて、あなたの考えをお伺いします。 ~ にお答えください。
(は1つずつ)

	1 積極的 に 協力を 求め たい	2 で きる 範 囲 で 協 力 を 求 め たい	3 特 に 必 要 な い	4 わ か ら な い
特技や経験を活かし、ゲストティーチャーとして授業の一部に参加してもらう	1	2	3	4
学校行事(遠足や運動会など)の運営に協力してもらう	1	2	3	4
体験活動や奉仕活動など学校外活動に協力してもらう	1	2	3	4
地域に根ざした教材・資料などを提供してもらう	1	2	3	4
放課後などの部活動に協力してもらう	1	2	3	4
児童・生徒の生活指導や危険防止のため、地域や学校内の巡回に協力してもらう	1	2	3	4

問 14 あなたは、今後、学校と地域社会が協力して子どもを育てていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(は、2つまで)

- 1 学校と地域住民が、協力して子どもを育てていくことについて相互理解を深める
- 2 学校と地域住民が協力するために、双方をコーディネートする担当者や組織をおく
- 3 学校施設の開放を積極的に行う
- 4 民間企業や団体などへ、広く教育活動に対する協力を求める
- 5 異世代間の交流を進めるため、高齢者の人材活用を図る
- 6 教育委員会が、各分野で特技や経験をもつ地域の人材情報を提供する
- 7 教育委員会が、子どもや大人と一緒に参加できる活動の情報を提供する
- 8 学校と地域社会が協力して行う活動に対し、必要な経費の支援を行う
- 9 学校と地域社会が協力して行う活動に対し、児童・生徒および協力者への事故防止や安全確保の体制を整備する
- 10 その他(具体的に：)

調査にご協力いただきまして、
誠にありがとうございました。

この調査用紙(この冊子)を、同封の返信用封筒に入れ、

12月27日(金)までに、郵便ポストへ入れてください。

(切手をはる必要はありません)



現代的課題の学習に関する調査研究委員会 委員名簿及び日程

(1) 名簿

【委員】

氏 名	所 属 及 び 職 名	備 考
野 口 伐 名	青森中央学院大学 教 授	座 長
八木橋 ひろみ	青森市立原別小学校 校 長	副座長
森 谷 至 里	パサージュ広場 事務局長	
澁 谷 泰 秀	青森大学社会学部 助教授	
小山内 世喜子	青森南高等学校元PTA 会 長	
岩 浪 始 由	八戸市子ども育成会連合会 事務局長	

【青森県教育庁生涯学習課】

田中 洋一	青森県教育庁生涯学習課 主 幹
-------	-----------------

【センター関係職員】

豊 澤 武 輝	青森県総合社会教育センター 所 長
木 村 謹 文	" 副所長
藤 田 博 巳	" 研究開発課長
野 崎 信 司	" 社会教育主事
工 藤 睦 美	" 指導主事

(2) 委員会開催日程

委員会	開 催 年 月 日	主 な 審 議 事 項
第 1 回	平成 14年 7月 4日 (木)	調査研究の基本計画について
第 2 回	平成 14年 8月 9日 (金)	県民調査票の検討
第 3 回	平成 14年 11月 20日 (水)	教員調査票の検討
第 4 回	平成 15年 2月 13日 (木)	集計データの分析について
第 5 回	平成 15年 3月 10日 (月)	報告書の検討